

平成 2 1 (2 0 0 9) 年度
保健福祉に関する意識調査

報 告 書

平成 21 (2009) 年 8 月

中 野 区

は　じ　め　に

区は、区民の皆様にも、より質の高いサービスを提供するという視点から、「目標と成果による区政運営」を進め、平成 17（2005）年 3 月に新たに制定した基本構想で描くまちの実現を目指しています。

この調査はその一環として毎年実施しているものであり、区民の方々に保健福祉への関心や意見をお聞きするとともに、区の取り組みが区民の意向に沿ったものになっているか、また、区民の求める水準にどの程度達しているかなどを把握することを目的としています。

調査内容は、事業目標の達成度を測るために用いる設問項目と、特定の重点テーマに対応した設問項目の 2 種類で構成しています。今年度は重点テーマに、「人にやさしいまちづくり、介護保険制度」を設定しました。

また、区では現在、子どものすこやかな成長、地域での健康づくり、高齢者や障害をもつ人たちの在宅生活を総合的、継続的に支援するために「（仮称）すこやか福祉センター」の開設準備を進めています。この施設が保健福祉に係る地域拠点として、その役割を十分に発揮できるよう、検討を進めるための材料としての活用も考えております。

今回の調査結果につきましては、今後保健福祉に関する区の事業や施策の見直し・改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた区民のみなさまに対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

平成 21（2009）年 8 月

中野区保健福祉部

目 次

調査の概要

1 . 調査目的	3
2 . 調査の設計	3
3 . 回答者の年齢別構成と母集団との比較	3
4 . 調査項目	3
5 . 集計分析	3
6 . 報告書の見方	3

調査回答者の属性

1 . 性別	7
2 . 年齢	7
3 . 職業	7
4 . 世帯構成	8
5 . 住居形態	8
6 . 居住年数	8
7 . 居住地域	9

調査結果の分析

1 . 地域活動について	13
(1) 地域の活動への参加	13
(2) 近所づきあいの程度	18
(3) 地域住民間の見守りや支えあいの活動状況	21
(4) 地域住民間の見守りや支えあいの活動内容	23
(5) 民生委員の活動の認識の度合い	26
2 . 医療・健康面について	28
(1) 健康増進のための運動習慣	28
(2) 健康診断の受診頻度	30
(3) 健康診断の受診場所	33
(4) 健康診断結果の活用	37
(5) 健康診断を受けなかった理由	40
(6) 新型インフルエンザについて考えたり、心がけていること	43
(7) 生活習慣病予防のために、実行していること	46
(8) かかりつけの診療所の有無	50
(9) かかりつけの診療所との信頼関係	52
(10) 地域の救急医療体制が整っているか	54
(11) 栄養成分表示の参考	57
(12) 食中毒を防ぐために家庭で行っていること	59

(13) うつ病に関して相談することへの抵抗感	62
(14) 国民健康保険制度のしくみを認識している度合い	65
3 . 介護保険制度などについて	67
(1) 介護保険制度のしくみを認識している度合い	67
(2) 介護保険制度をよくするための取組	69
(3) 認知症の症状や対応方法を理解している度合い	71
(4) 地域包括支援センターを認識している度合い	73
(5) 介護予防を意識している度合い	75
(6) 地域の犬や猫の飼い主のマナー	77
(7) 交通機関・道路・建物などのバリアフリー化の度合い	80
(8) バリアフリーになっていないと思う施設	83
(9) 「ユニバーサルデザイン」という言葉を認識している度合い	86
4 . 保健福祉の相談窓口について	88
(1) 身近に感じる機関	88
(2) 「成年後見制度」という言葉を認識している度合い	91
(3) 犯罪被害者等相談支援窓口を認識している度合い	93
(4) 中野区の保健福祉施策についての満足度	94
(5) 保健福祉行政全体への意見要望（自由回答）	96
調査票と単純集計	107

調査の概要

1 . 調査目的

保健福祉に係る区民の関心や要望内容及び保健福祉施策や事業に対する満足度、事業の成果等を把握するため、20歳以上の区民を対象としたアンケート調査を実施した。

2 . 調査の設計

- ・ 調査対象 : 満20歳以上の区民 (基準日:平成21年4月1日現在 265,558人)
- ・ 調査地域 : 中野区全域
- ・ 調査標本数:3,000人
- ・ 抽出方法 : 無作為抽出
- ・ 有効回収数:1,132 (回収率37.7%)
- ・ 調査方法 : 郵送法 (郵送配布 - 郵送回収)
- ・ 調査期間 : 平成21 (2009) 年4月24日 ~ 5月15日

3 . 回答者の年齢別構成と母集団との比較

今回の調査回答者と母集団 (調査対象者全体) の年齢構成は次の通りである。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	無回答
調査回答者	10.2%	16.8%	14.1%	16.3%	16.1%	15.5%	7.3%	1.3%	2.3%
母集団	20.9%	22.3%	15.7%	13.1%	11.9%	10.3%	4.9%	0.9%	

4 . 調査項目

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 地域活動について
- (3) 医療・健康面について
- (4) 介護保険制度などについて
- (5) 保健福祉の相談窓口について

5 . 集計・分析

集計は単純集計、属性とのクロス集計、設問間のクロス集計の3分類について行った。

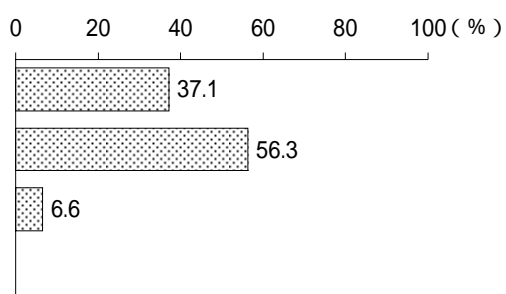
6 . 報告書の見方

- (1) 各設問の回答者数 (基数) は、“n = ”として示しました。
- (2) 回答の比率 (構成比) は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率を合計しても100%ちょうどにならない場合があります。
- (3) 基数 (n) が10未満のものは、標本誤差が大きいため、グラフに掲載してもコメントは入れていません。
- (4) 数表やグラフの回答選択肢表記は、一部省略しているところがあります。
- (5) クロス集計のグラフは、比率の小さな回答については、一部省略しているところがあります。

調査回答者の属性

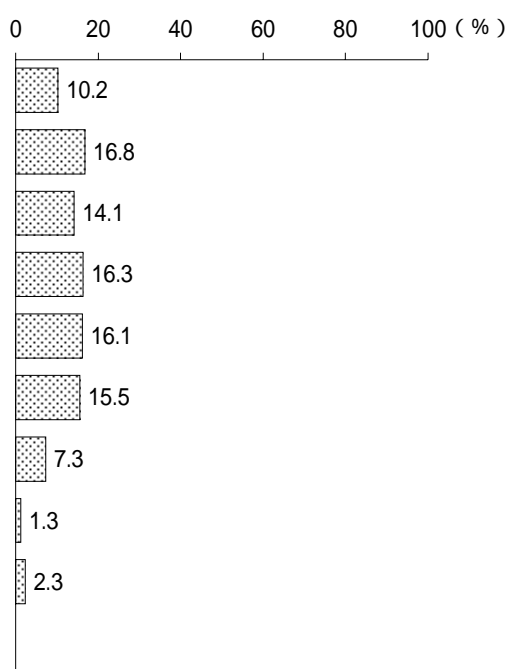
1. 性別

区分	回答者数	構成比(%)
男性	420	37.1
女性	637	56.3
無回答	75	6.6
全体	1,132	100.0



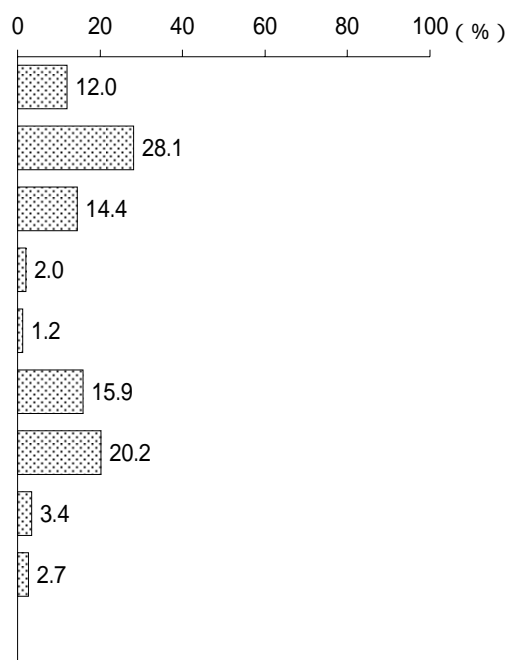
2. 年齢

区分	回答者数	構成比(%)
20歳代	115	10.2
30歳代	190	16.8
40歳代	160	14.1
50歳代	185	16.3
60歳代	182	16.1
70歳代	176	15.5
80歳代	83	7.3
90歳以上	15	1.3
無回答	26	2.3
全体	1,132	100.0



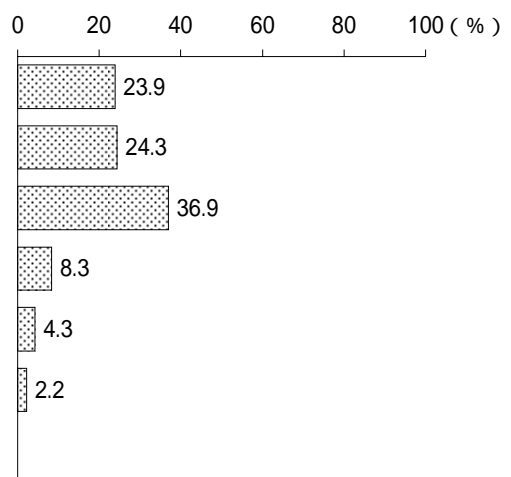
3. 職業

区分	回答者数	構成比(%)
自営業、家族従業員	136	12.0
正規の会社員・公務員・ 団体職員	318	28.1
契約社員・パート・ アルバイト・非常勤職員	163	14.4
派遣社員	23	2.0
学生	14	1.2
家事専業	180	15.9
無職	229	20.2
その他	39	3.4
無回答	28	2.7
全体	1,132	100.0



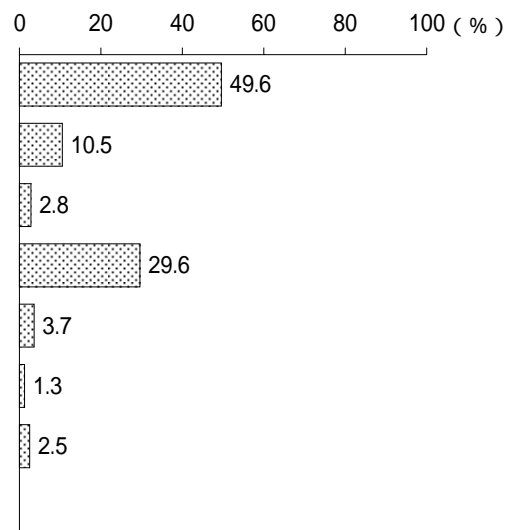
4. 世帯構成

区分	回答者数	構成比(%)
単身世帯(一人暮らし)	271	23.9
夫婦のみ世帯	275	24.3
2世代世帯(親と子)	418	36.9
3世代世帯(親と子と孫)	94	8.3
その他の世帯	49	4.3
無回答	25	2.2
全体	1,132	100.0



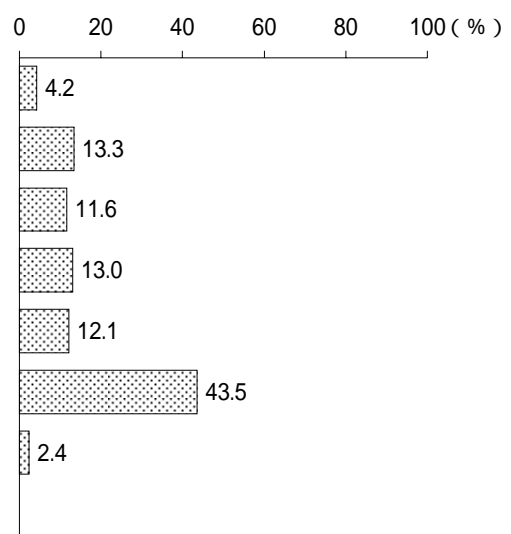
5. 住居形態

区分	回答者数	構成比(%)
持ち家(一戸建て)	561	49.6
持ち家(分譲マンションなどの集合住宅)	119	10.5
公営住宅(都営・区営住宅、公社など)	32	2.8
民間賃貸住宅(一戸建て、アパート、マンションなど)	335	29.6
社宅、社員寮、公務員住宅	42	3.7
その他	15	1.3
無回答	28	2.5
全体	1,132	100.0



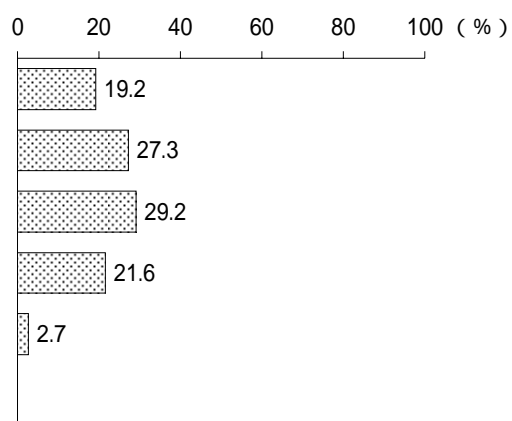
6. 居住年数

区分	回答者数	構成比(%)
1年未満	47	4.2
1～4年	151	13.3
5～9年	131	11.6
10～19年	147	13.0
20～29年	137	12.1
30年以上	492	43.5
無回答	27	2.4
全体	1,132	100.0



7. 居住地域

区 分	回答者数	構成比(%)
本町・弥生町・南台	217	19.2
上高田・中野・東中野・中央	309	27.3
江原町・江古田・野方・丸山・沼袋・松が丘・新井	331	29.2
上鷺宮・鷺宮・白鷺・若宮・大和町	245	21.6
無回答	30	2.7
全 体	1,132	100.0

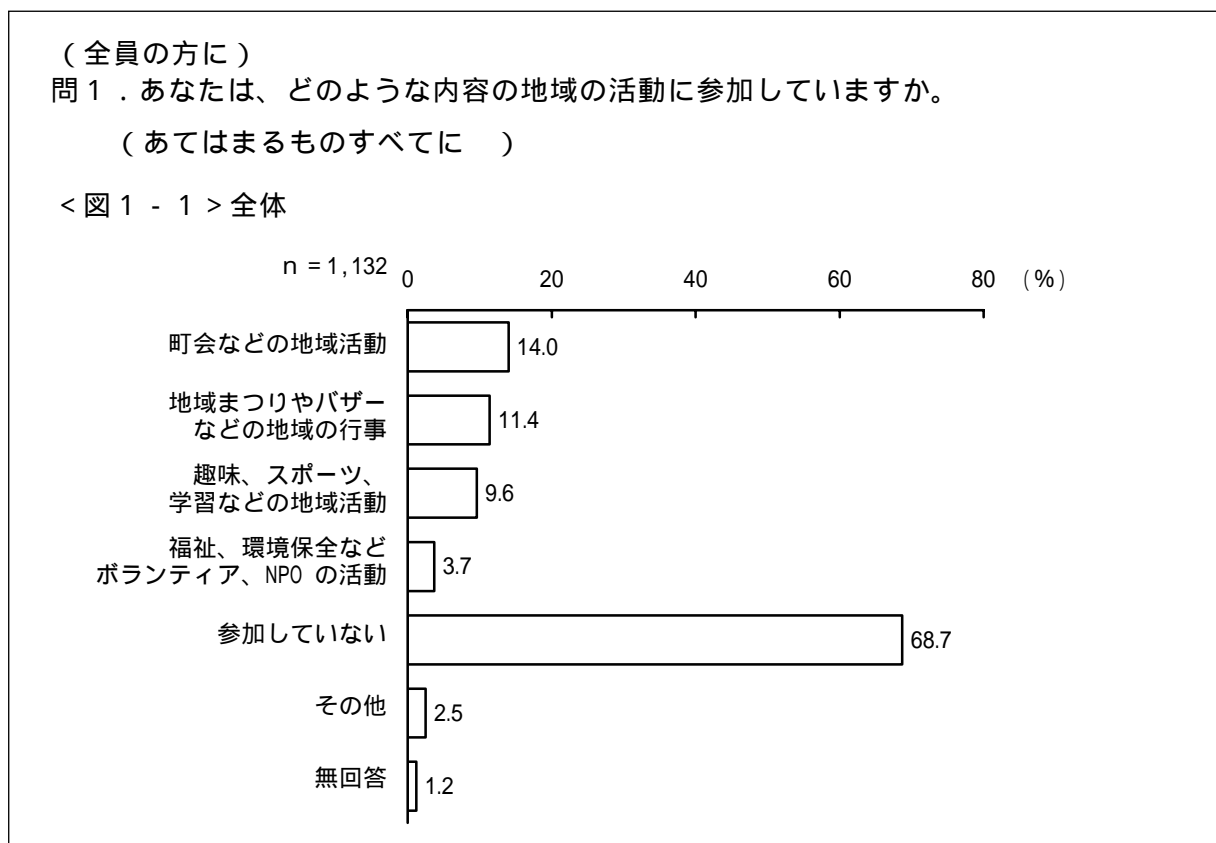


調査結果の分析

1. 地域活動について

(1) 地域の活動への参加

7割弱が不参加、参加が最も多いのは町会などの地域活動が1割半



参加している地域活動としては、「町会などの地域活動」(14.0%)が最も多く、以下、「地域まつりやバザーなどの地域の行事」(11.4%)、「趣味、スポーツ、学習などの地域活動」(9.6%)、「福祉、環境保全などボランティア、NPOの活動」(3.7%)の順になっている。一方、「参加していない」と答えた人は68.7%となっている。(図1 - 1)

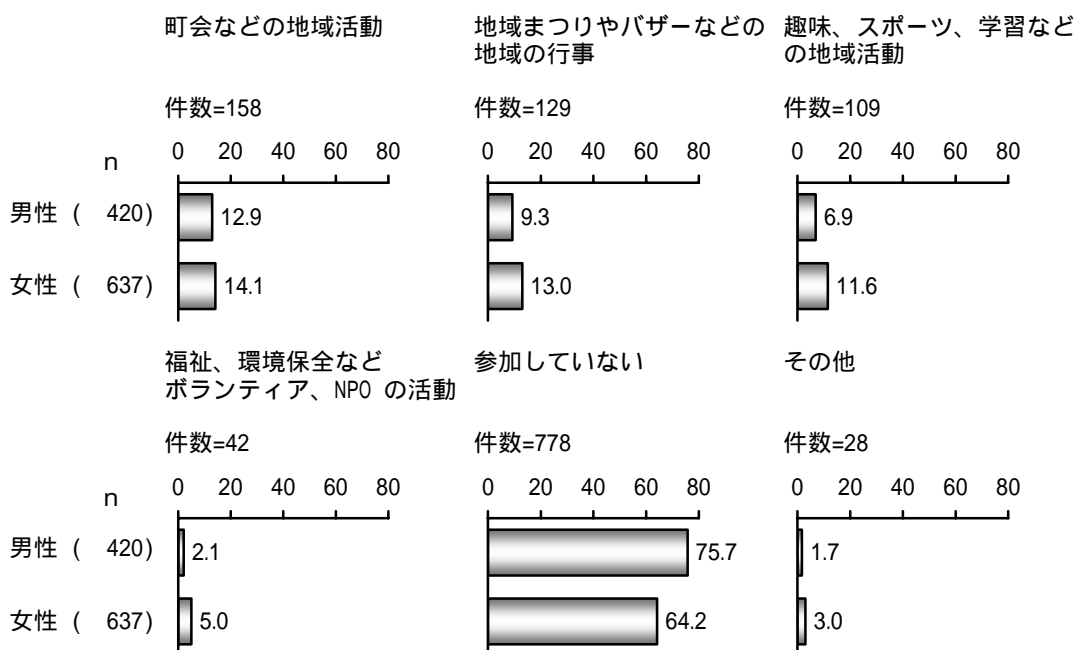
性別に見ると、どの活動においても女性の割合が高くなっており、特に、「趣味、スポーツ、学習などの地域活動」では女性(11.6%)が男性(6.9%)より4.7ポイント高くなっている。一方、「参加していない」と答えた人では男性(75.7%)が女性(64.2%)より11.5ポイント高くなっている。(図1 - 2)

年齢別に見ると、「町会などの地域活動」と答えた人は60歳代で21.4%と高い。また、「参加していない」と答えた人は20歳代で93.9%と高くなっている。(図1 - 3)

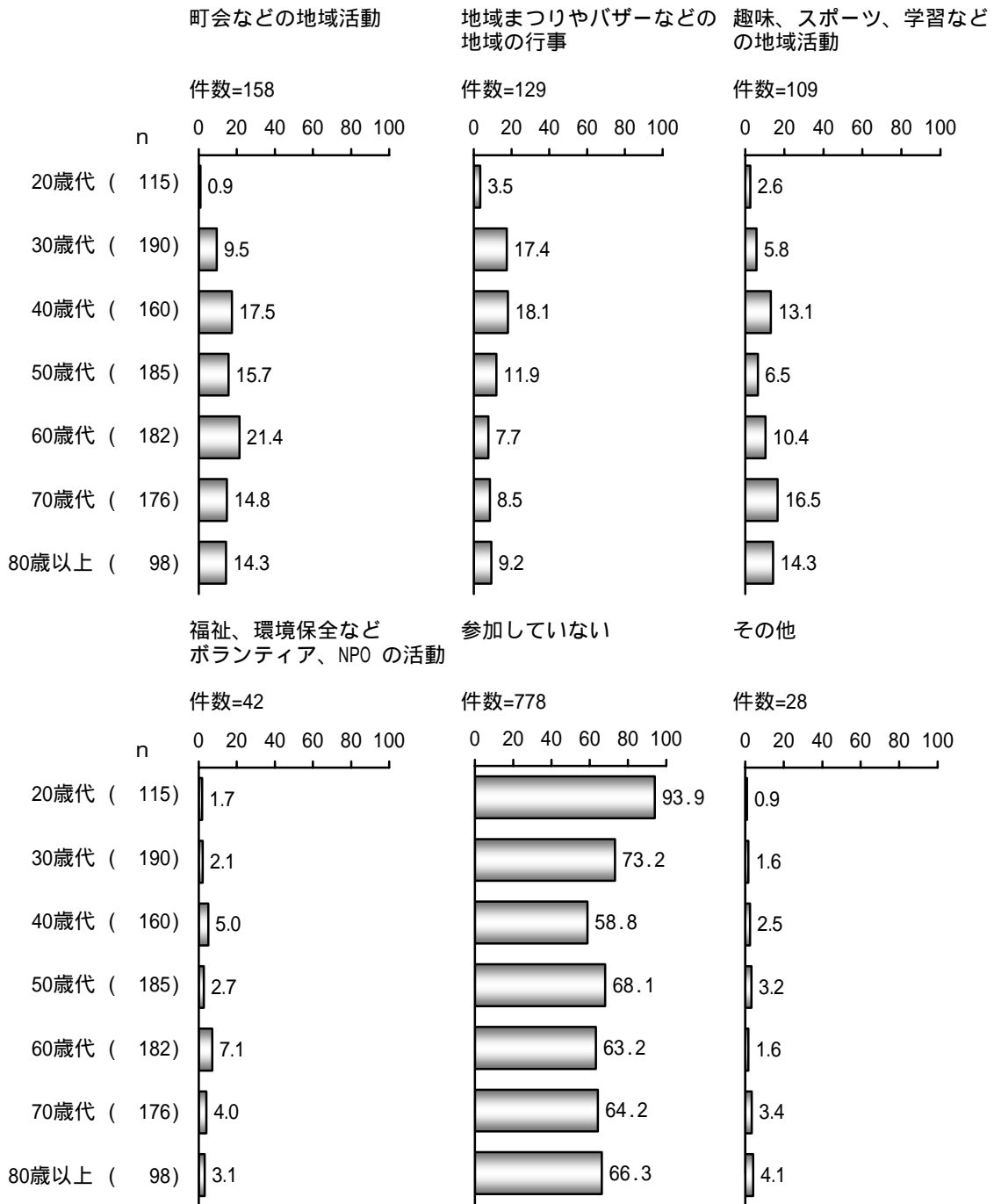
職業別に見ると、「福祉、環境保全などボランティア、NPOの活動」を除いたどの活動においても、家事専業で高くなっている。また、「参加していない」と答えた人は学生、派遣社員で80%以上と高くなっている。(図1-4)

中野区での居住年数別に見ると、「参加していない」と答えた人は1年未満で93.6%と非常に高く、1～4年でも78.8%となっている。(図1-5)

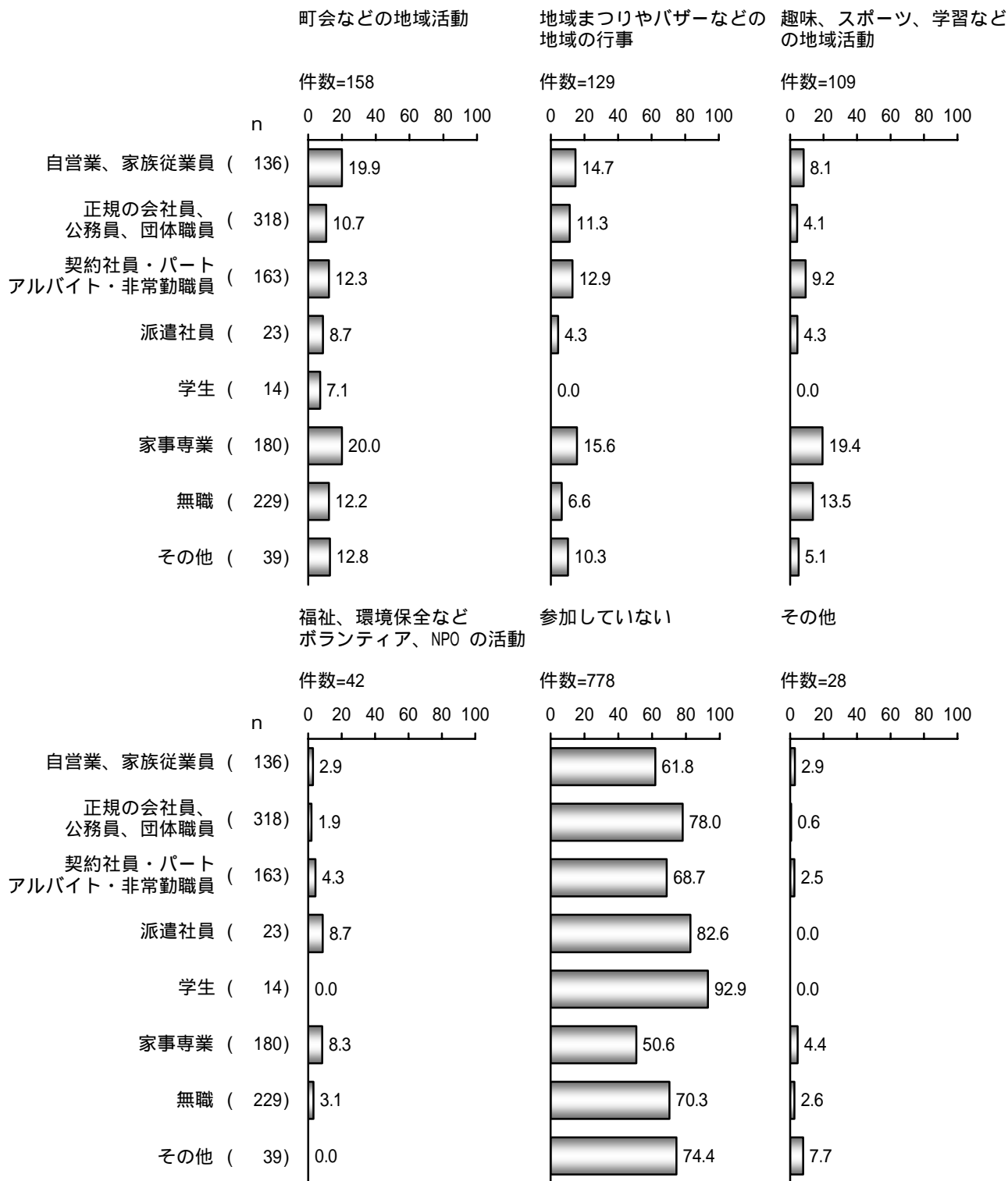
< 図1-2 > 性別



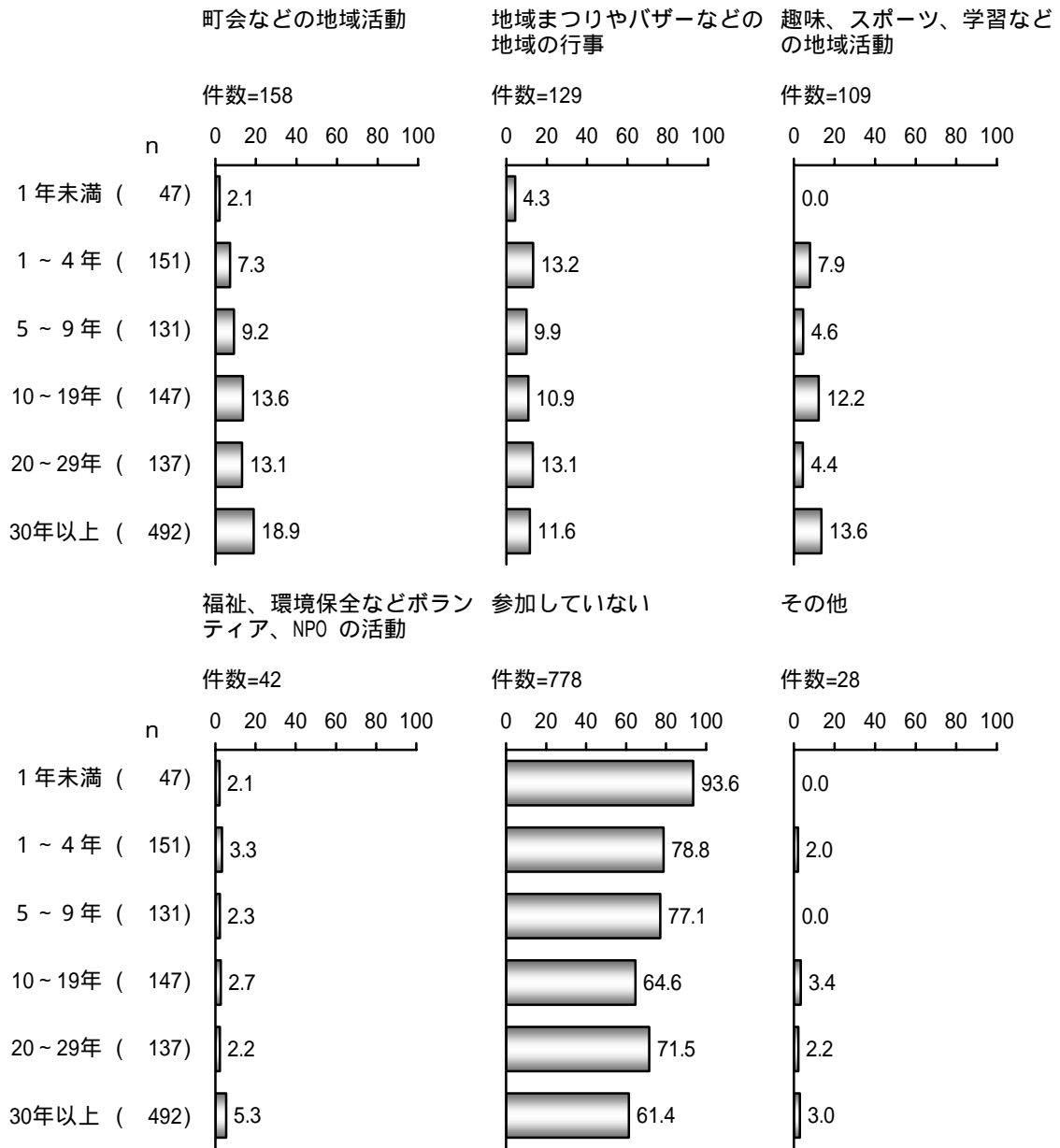
< 図 1 - 3 > 年齢別



< 図 1 - 4 > 職業別



< 図 1 - 5 > 居住年数別



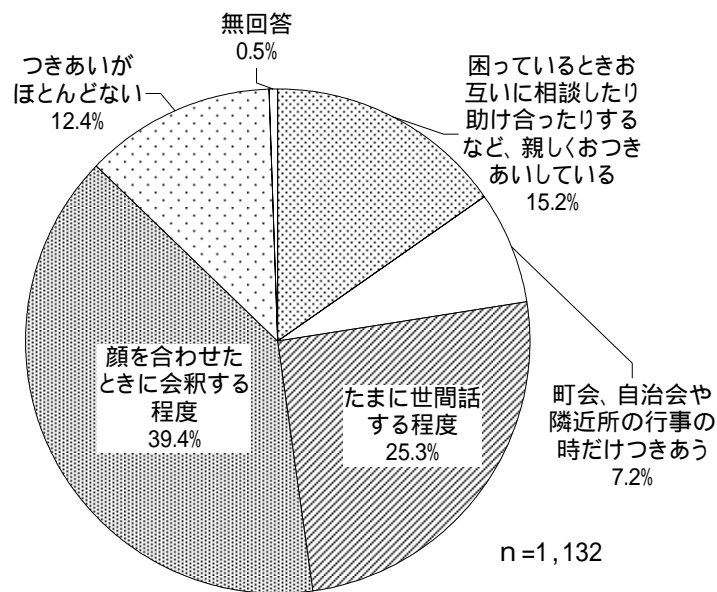
(2) 近所づきあいの程度

「顔を合わせたときに会釈する程度」が4割、「たまに世間話する程度」が2割半

(全員の方に)

問2. あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(は1つ)

<図1 - 6> 全体



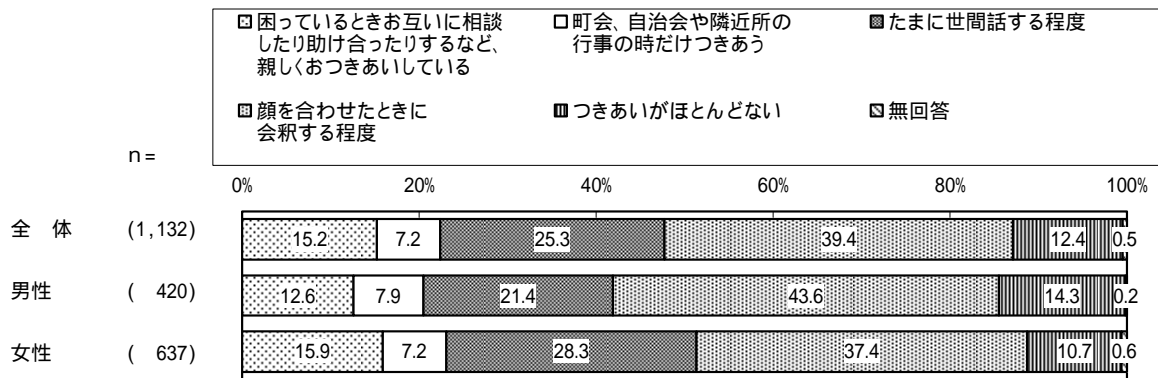
近所づきあいの程度については、「顔を合わせたときに会釈する程度」と答えた人が39.4%で最も多くなっている。以下「たまに世間話する程度」(25.3%)、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」(15.2%)、「町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう」(7.2%)となっている。また、「つきあいがほとんどない」と答えた人が12.4%となっている。(図1 - 6)

性別に見ると、男女とも「顔を合わせたときに会釈する程度」が最も高いが、その割合は男性(43.6%)が女性(37.4%)より6.2ポイント高くなっている。女性は「たまに世間話する程度」、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」といったつきあい方で男性より高くなっている。(図1 - 7)

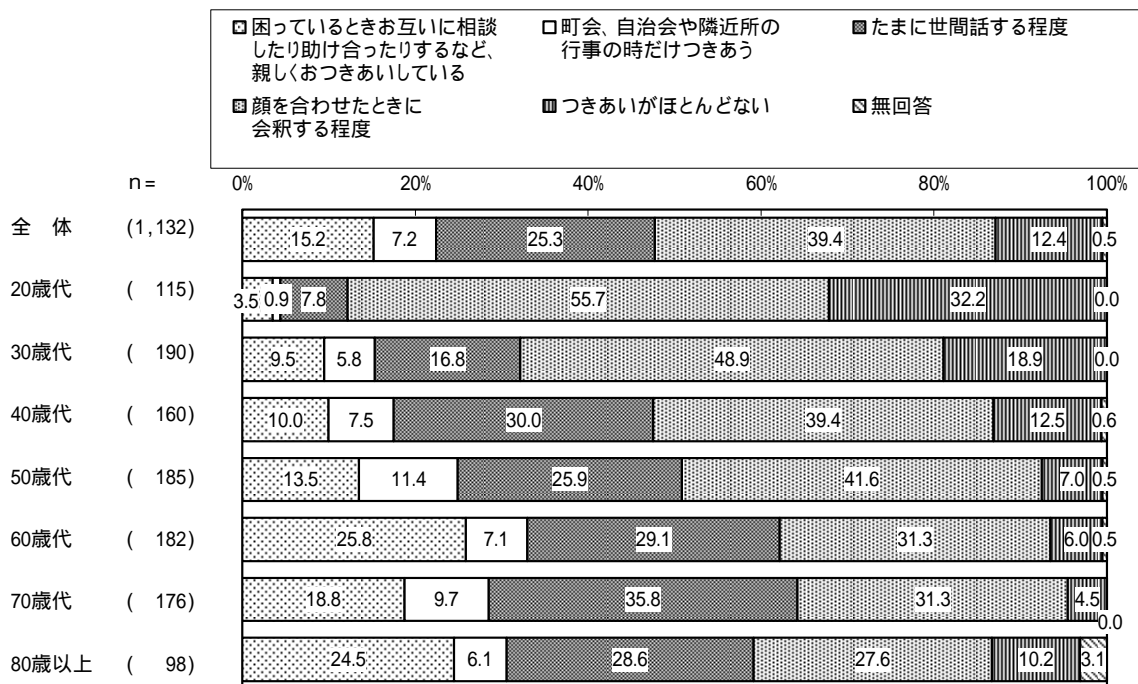
年齢別に見ると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」と答えた人は60歳代以上で20%前後、「たまに世間話する程度」を答えた人は40歳代以上で30%前後と高くなっている。「顔を合わせたときに会釈する程度」「つきあいがほとんどない」と答えた人は20～30歳代で、それぞれ高くなっている。(図1-8)

職業別に見ると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」は自営業、家族従業員と家事専業で20%以上となっている。「たまに世間話する程度」は家事専業で43.9%と最も高くなっている。(図1-9)

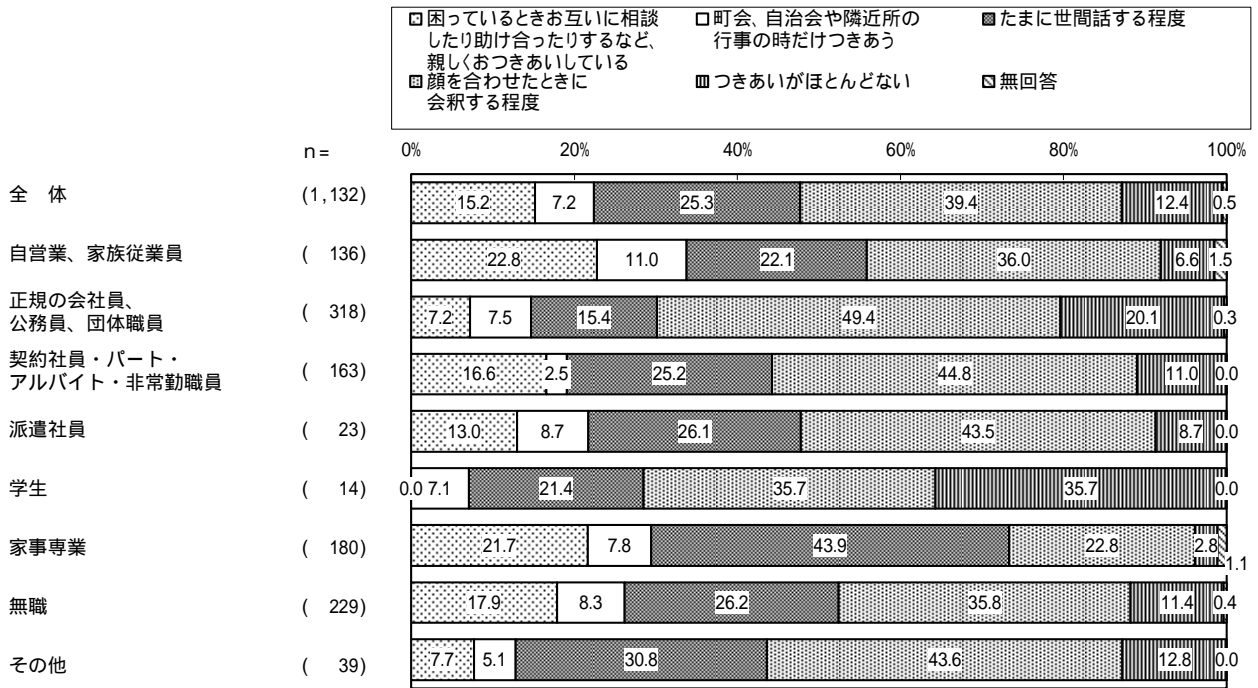
< 図1-7 > 性別



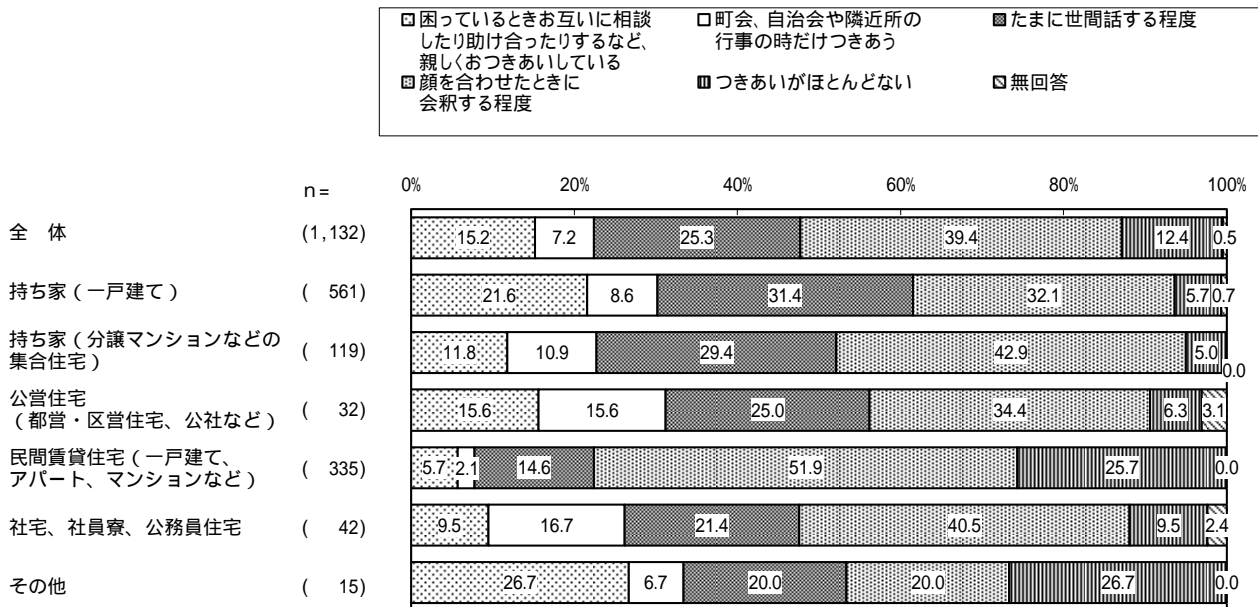
< 図1-8 > 年齢別



< 図 1 - 9 > 職業別



< 図 1 - 10 > 住居形態別



(3) 地域住民間の見守りや支えあいの活動状況

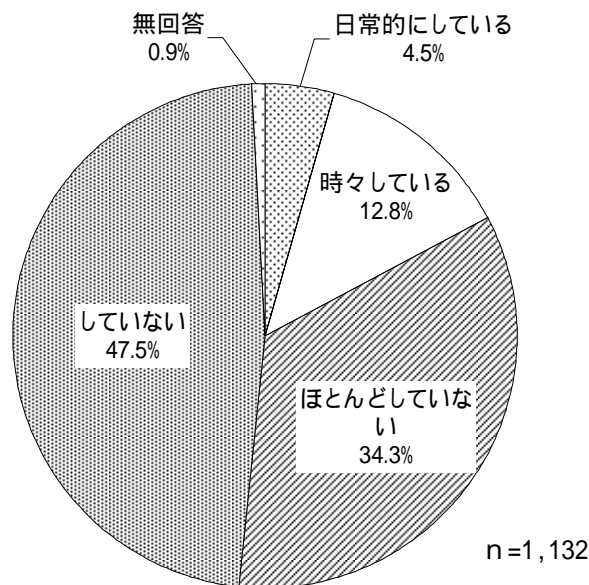
実際に見守りや支えあいの活動をしている人は2割弱

(全員の方に)

問3. あなたは、地域住民間の見守りや支えあいの活動をどの程度していますか。

(あてはまるものすべてに)

<図1-11> 全体



地域住民間の見守りや支えあいの活動を「日常的にしている」と答えた人は4.5%、「時々している」と答えた人は12.8%で、活動している人は2割弱である。一方「ほとんどしていない」と答えた人は34.3%、「していない」と答えた人は47.5%となっている。

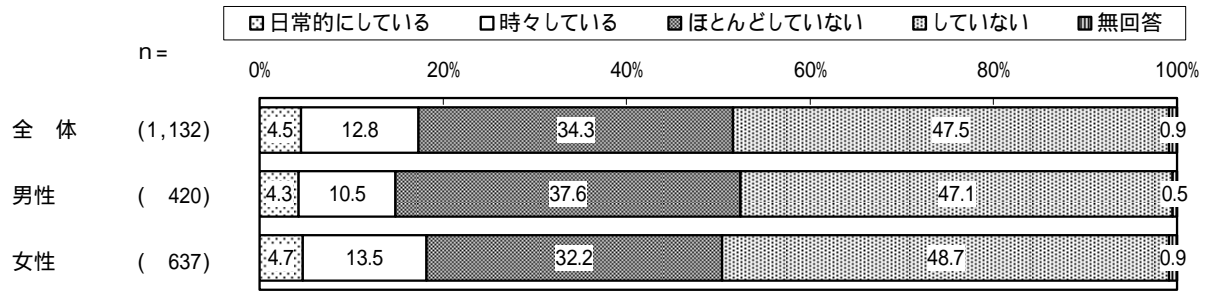
(図1-11)

性別に見ると、「日常的にしている」「時々している」の2つを合わせた割合は、女性(18.2%)が男性(14.8%)より3.4ポイント高くなっている。(図1-12)

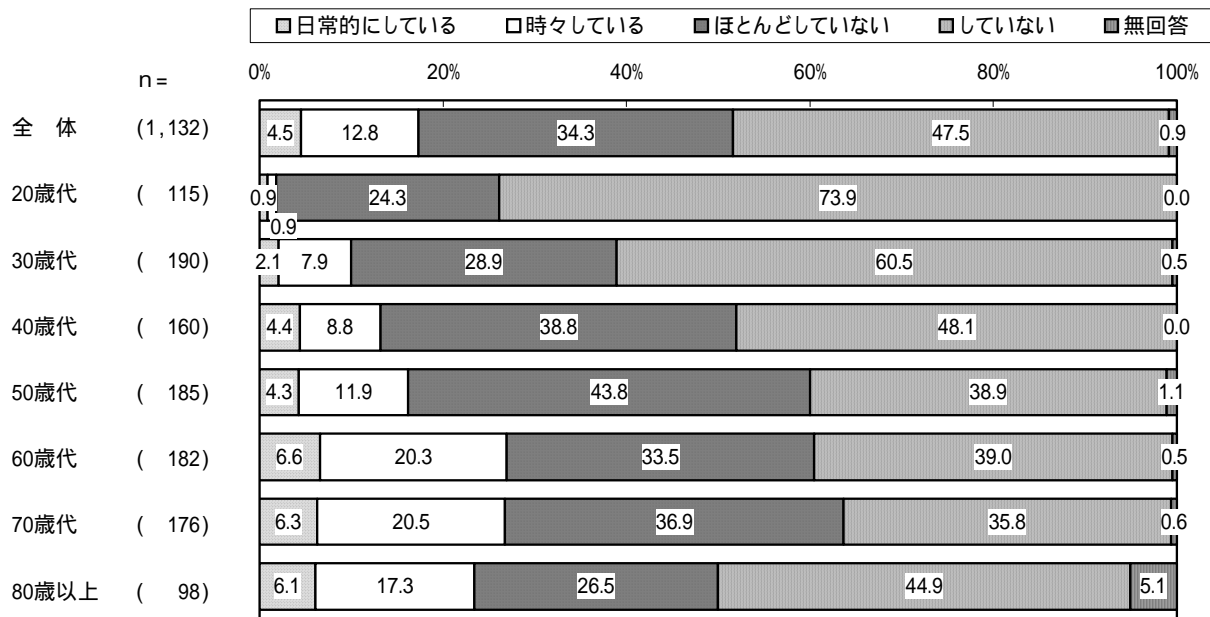
年齢別に見ると、60歳代で「日常的にしている」「時々している」の2つを合わせた割合が高く、活動している人が3割弱となっている。一方、「していない」と答えた人は20歳代で73.9%となっており、「ほとんどしていない」と合わせた活動していない人の割合は9割を超えている。(図1-13)

居住年数別に見ると、「日常的にしている」「時々している」は30年以上でそれぞれ最も多くなっている。(図1-14)

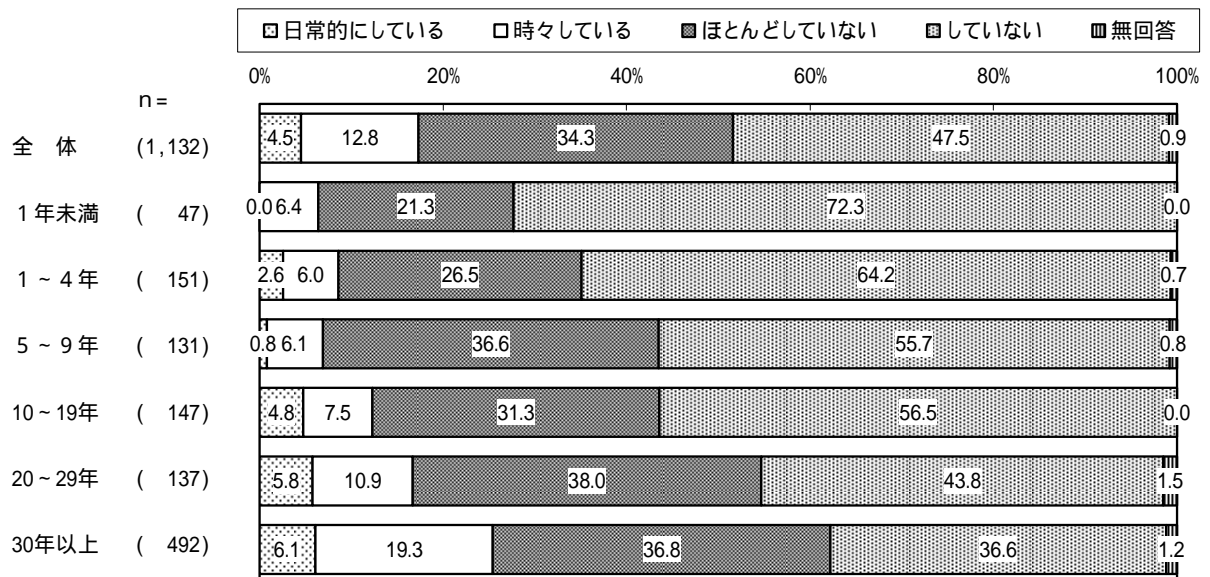
< 図 1 - 12 > 性別



< 図 1 - 13 > 年齢別



< 図 1 - 14 > 居住年数別

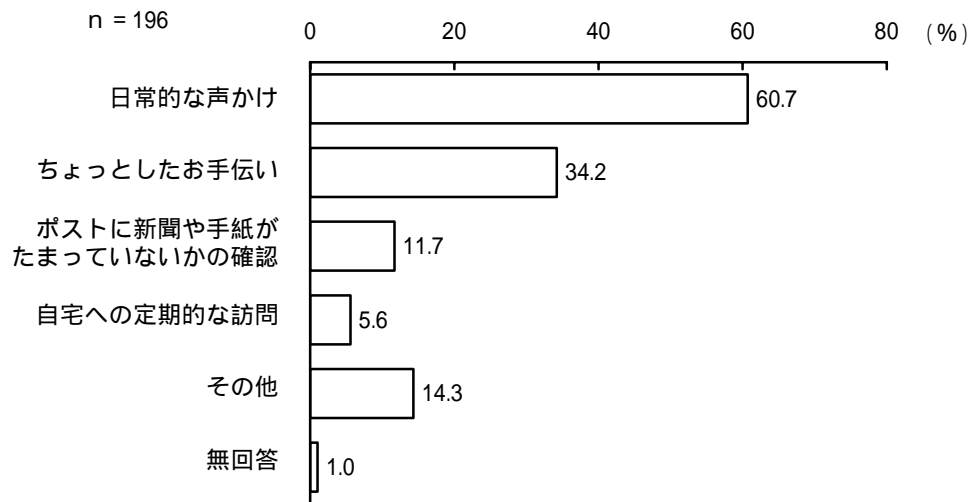


(4) 地域住民間の見守りや支えあいの活動内容

日常的な声かけをしている人は6割

(問3で「1」「2」に つけた方に)
問4. 具体的にどのような地域住民間の見守りや支えあいの活動をしていますか。
(あてはまるものすべてに)

<図1-15> 全体



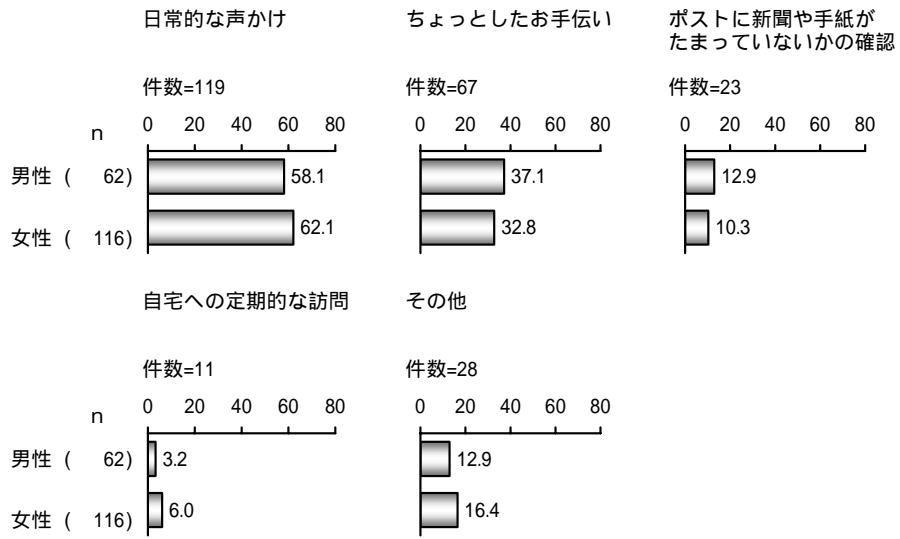
地域住民間の見守りや支えあいの活動内容については、「日常的な声かけ」(60.7%)が最も多く、以下、「ちょっとしたお手伝い」(34.2%)、「ポストに新聞や手紙がたまっていないかの確認」(11.7%)、「自宅への定期的な訪問」(5.6%)となっている。(図1-15)

性別に見ると、男女とも「日常的な声かけ」が最も高いが、その割合は女性(62.1%)が男性(58.1%)より4.0ポイント高くなっている。(図1-16)

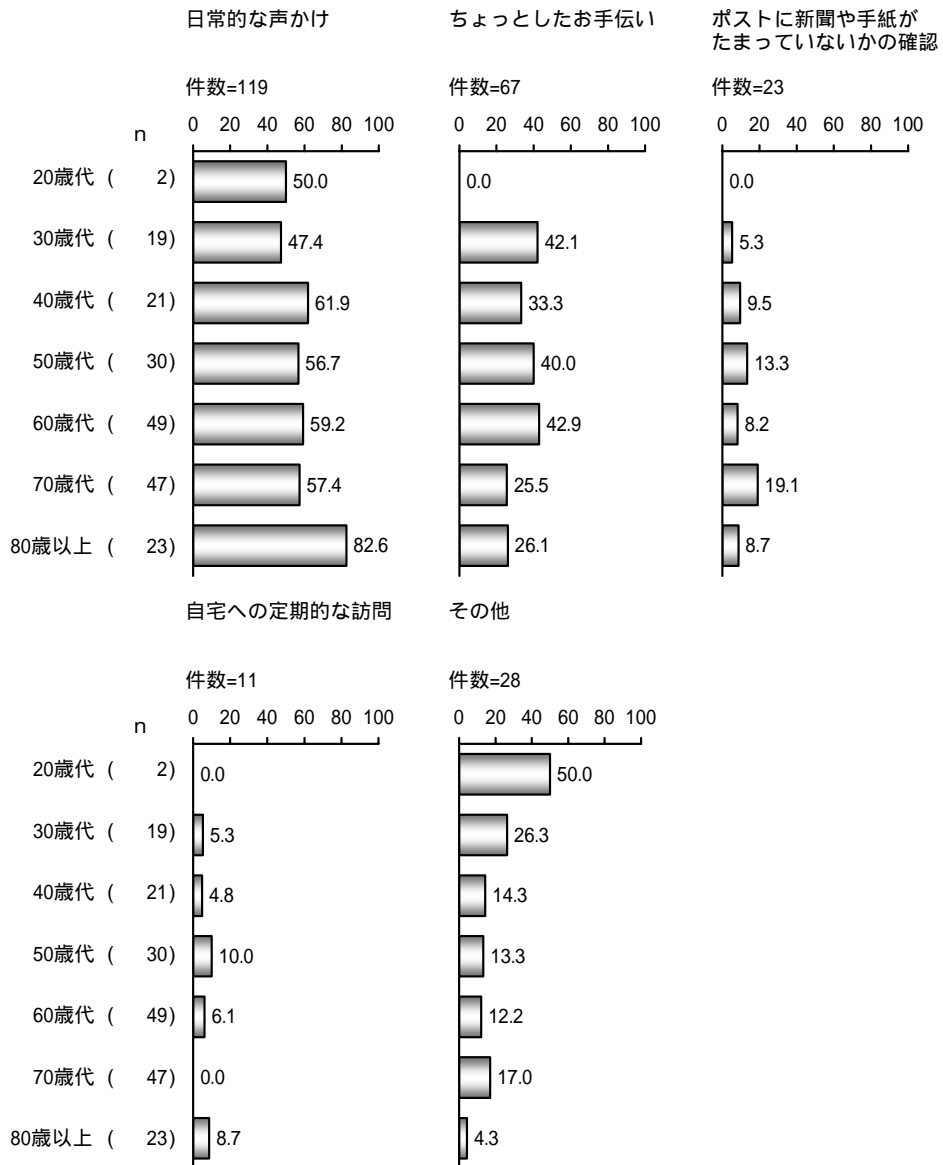
年齢別に見ると、「日常的な声かけ」と答えた人は80歳以上で8割を超え高くなっている。(図1-17)

住居形態別に見ると、「日常的な声かけ」と答えた人が持ち家(一戸建て)の人で6割半、民間賃貸住宅(一戸建てアパート、マンションなど)の人でも半数と高い。(図1-18)

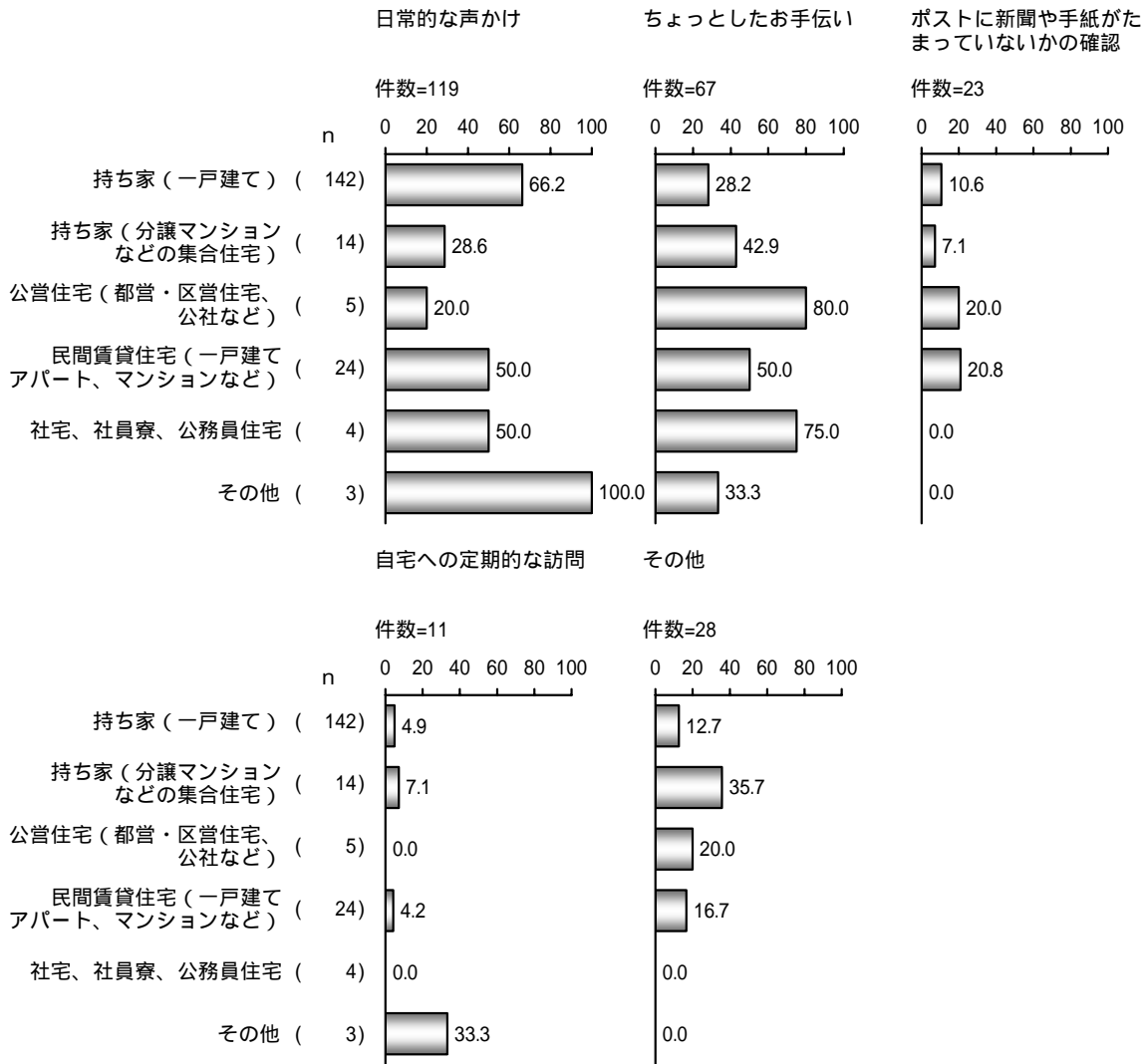
< 図 1 - 16 > 性別



< 図 1 - 17 > 年齢別



< 図 1 - 18 > 住居形態別



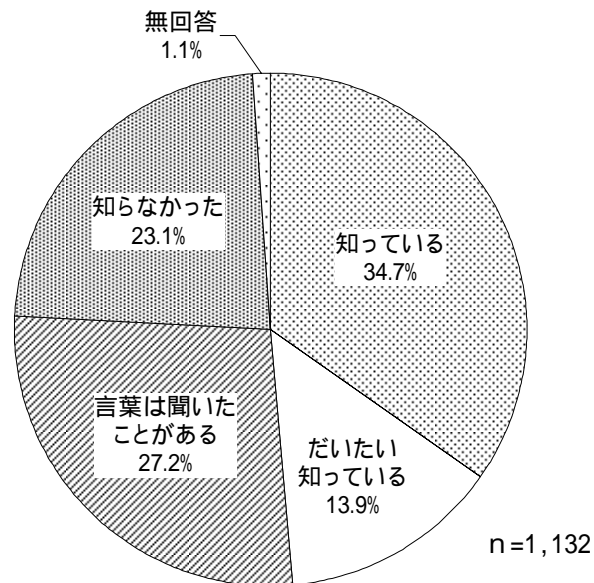
(5) 民生委員の活動の認識の度合い

「知っている」と「だいたい知っている」を合わせると半数弱

(全員の方に)

問5. 身近な相談相手として、民生委員(児童委員を兼ねます)が地域で活動していることをご存知ですか。(は1つ)

<図1-19> 全体

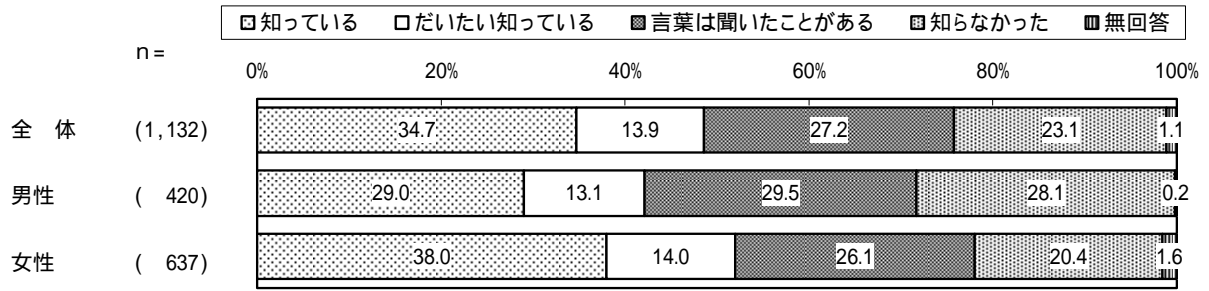


民生委員が地域で活動していることを「知っている」と答えた人は34.7%、「だいたい知っている」と答えた人は13.9%で、この両者を合わせた割合は半数弱である。また、「言葉は聞いたことがある」と答えた人は27.2%、「知らなかった」と答えた人は23.1%となっている。(図1-19)

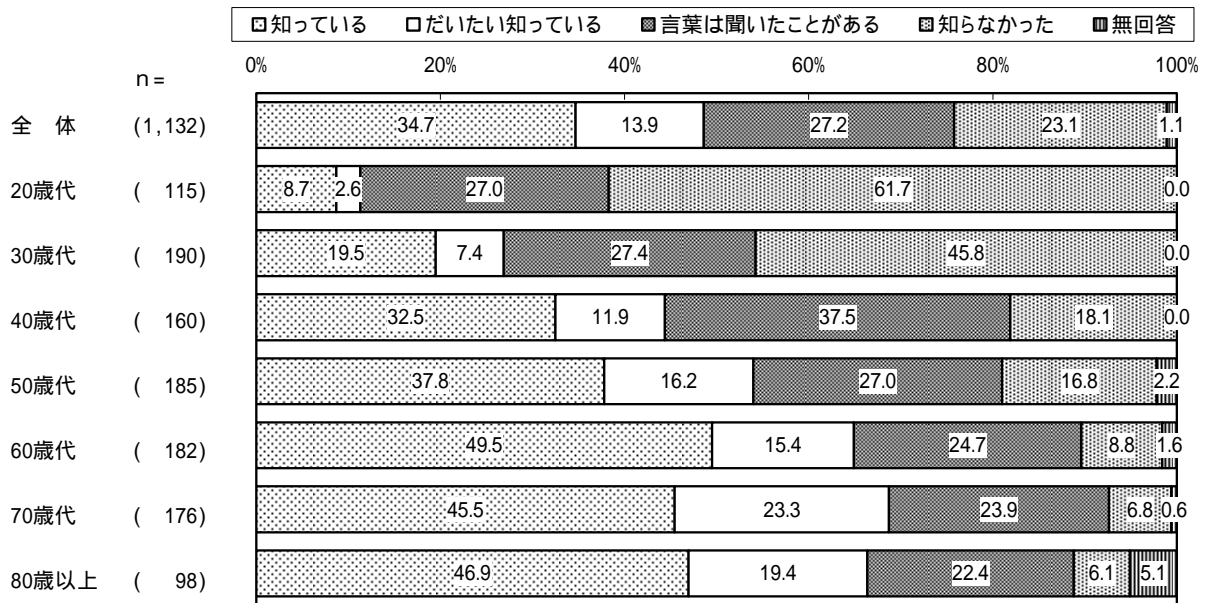
性別に見ると、「知っている」と答えた人は女性(38.0%)が男性(29.0%)より9.0ポイント高くなっている。一方、「知らなかった」と答えた人では、男性(28.1%)が女性(20.4%)より7.7ポイント高くなっている。(図1-20)

年齢別に見ると、「知っている」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、60歳以上では約半数となっている。また、「知らなかった」と答えた人は20~30歳代で高く、特に20歳代では、61.7%となっている。(図1-21)

< 図 1 - 20 > 性別



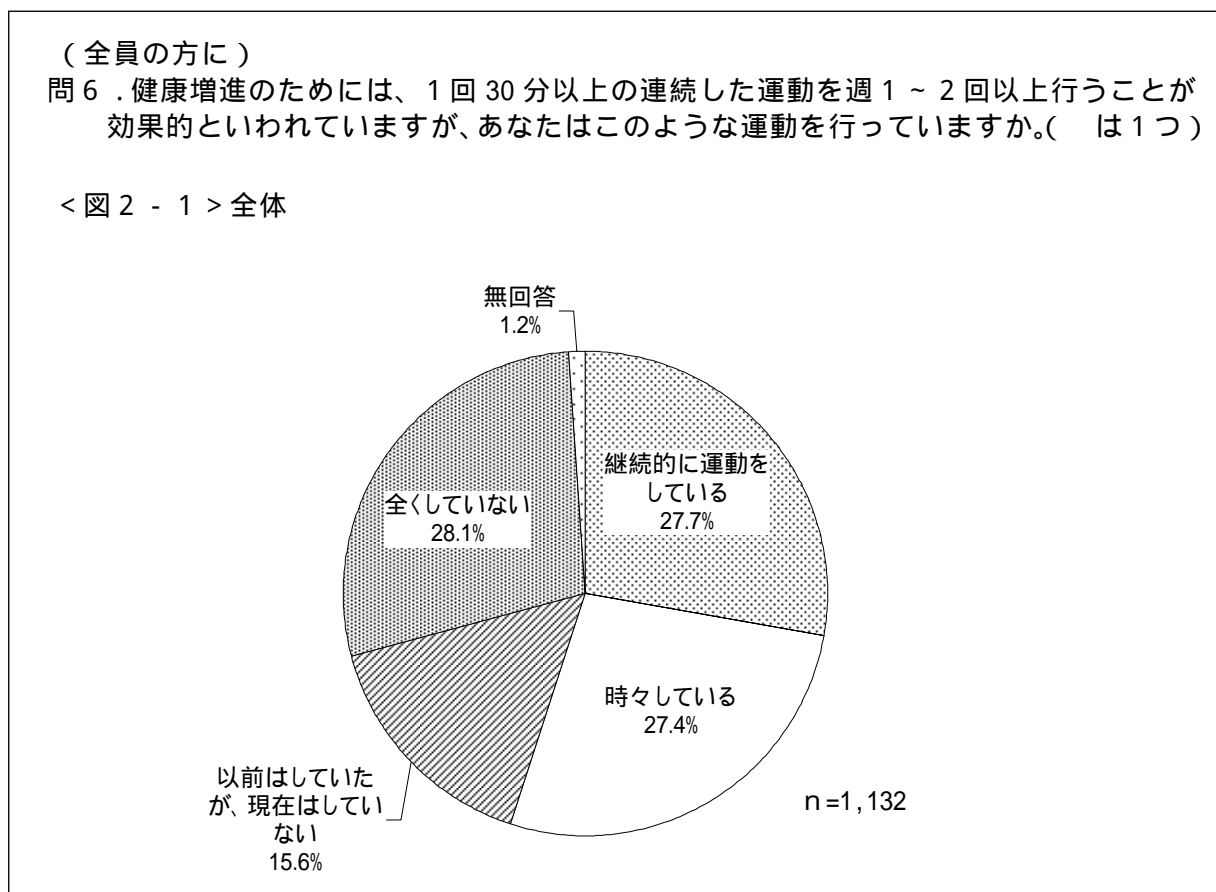
< 図 1 - 21 > 年齢別



2 . 医療・健康面について

(1) 健康増進のための運動習慣

継続的に運動している人は3割弱



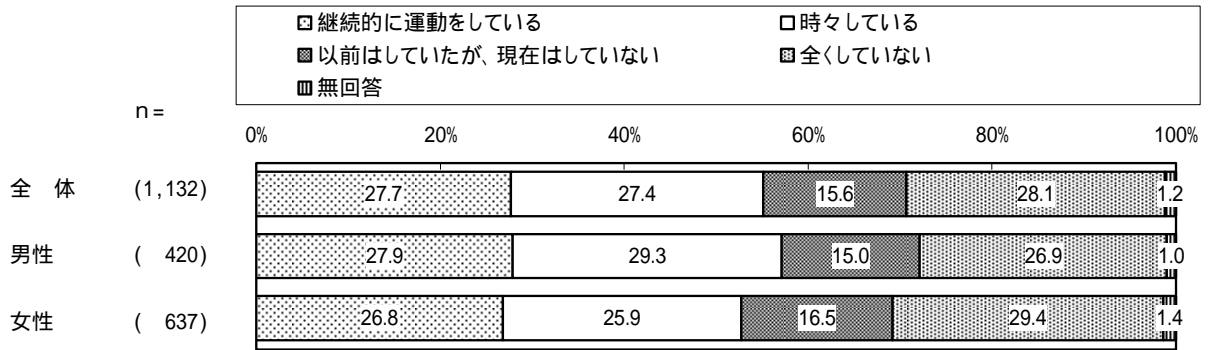
健康増進のために、1回 30 分以上の連続した運動を行っているかたずねたところ、「継続的に運動している」と答えた人は 27.7%、「時々している」と答えた人は 27.4%となっており、この両者を合わせた“運動している”は 5 割半ばとなっている。また、「以前はしていたが、現在はしていない」と答えた人は 15.6%、「全くしていない」と答えた人は 28.1%となっている。(図 2 - 1)

性別に見ると、「継続的に運動している」、「時々している」の両者を合わせた“運動している”は、男性 (57.2%) が女性 (52.7%) より 4.5 ポイント高くなっている。

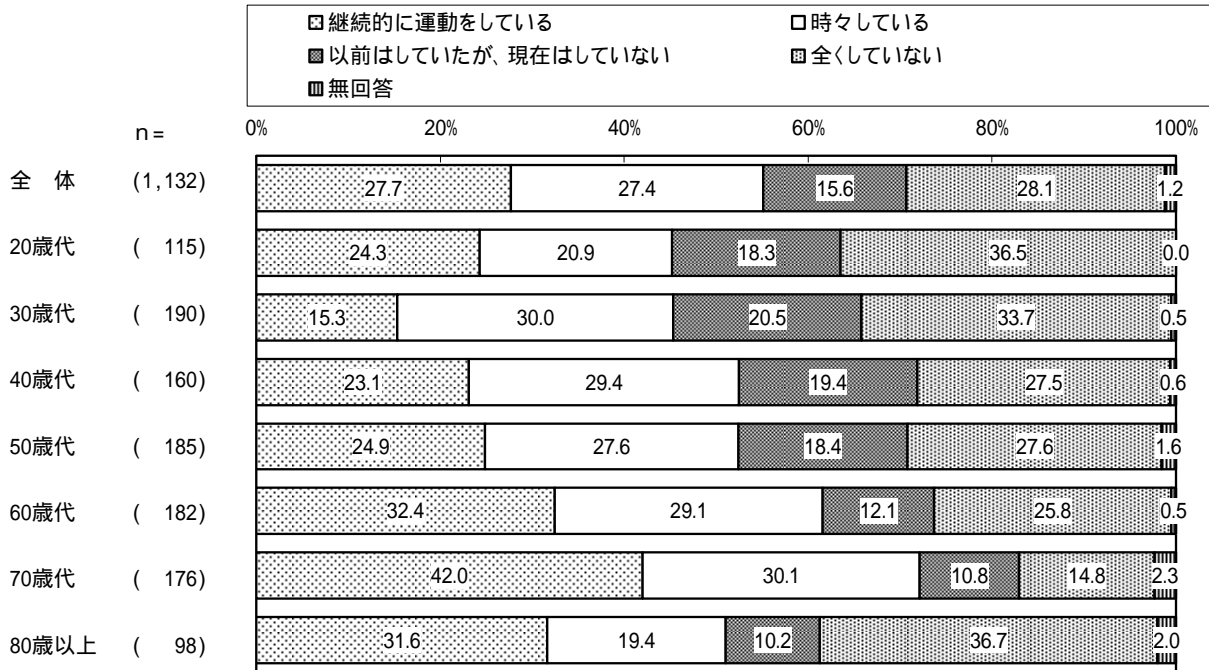
(図 2 - 2)

年齢別に見ると、“運動している”人は 70 歳代では 7 割強、60 歳代でも 6 割強となっている。一方、20 歳代では「全くしていない」と答えた人が 36.5%、30 歳代で 33.7%と高い。(図 2 - 3)

< 図 2 - 2 > 性別



< 図 2 - 3 > 年齢別



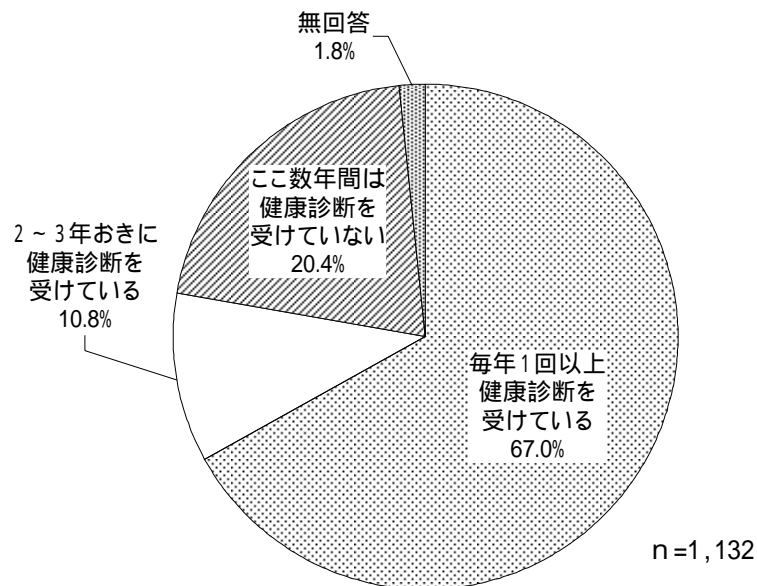
(2) 健康診断の受診頻度

毎年1回以上受診が7割弱

(全員の方に)

問7. あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(は1つ)

< 図2 - 4 > 全体



健康診断の受診頻度については、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人が67.0%を占めている。「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた人は10.8%、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は、20.4%となっている。(図2 - 4)

性別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は男性(71.2%)が女性(63.6%)より7.6ポイント高くなっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は女性22.9%、男性17.9%と、女性の割合が高くなっている。

(図2 - 5)

年齢別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は30～40歳代で6割弱となっているのと比べ、80歳以上では77.6%と高くなっている。また、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は30歳代で29.5%と高くなっている。

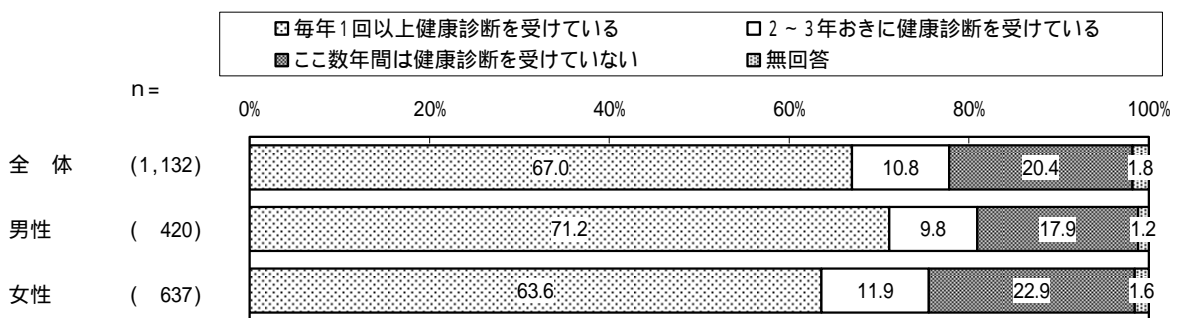
(図2 - 6)

職業別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は正規の会社員、公務員、団体職員で84.3%と高くなっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は、契約社員・パート・非常勤職員で33.1%と高くなっている。

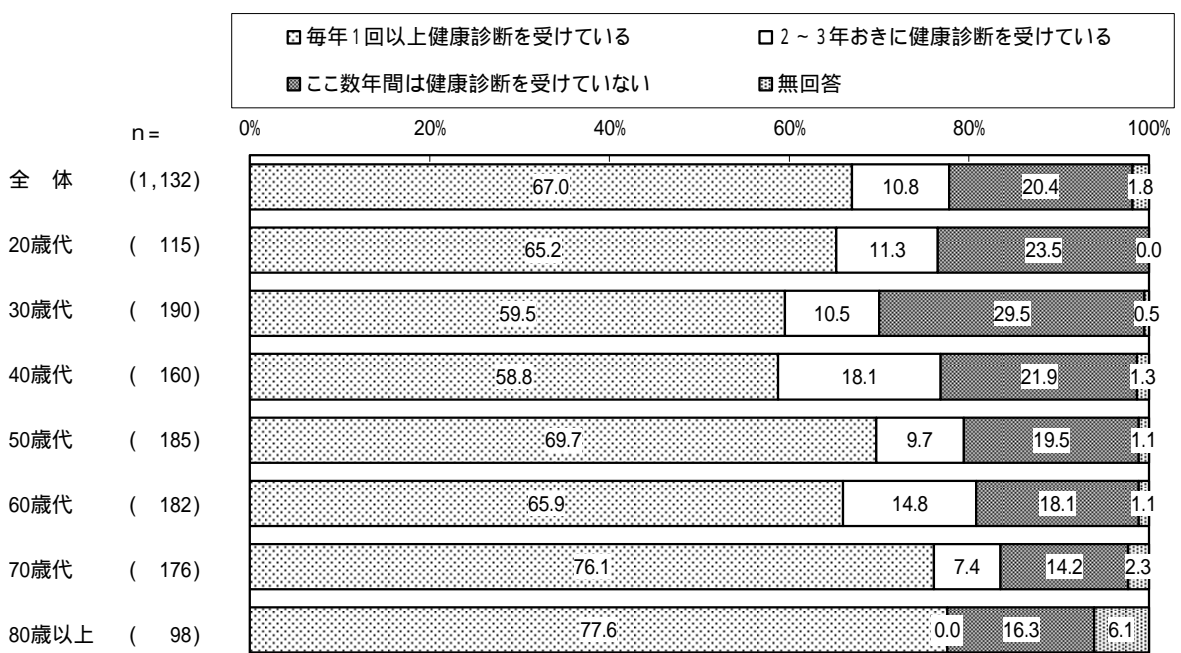
(図2 - 7)

かかりつけの診療所の有無(50ページ問13)別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」は、かかりつけの診療所を決めている人で78.2%となっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」は、かかりつけの診療所を決めていない人で34.0%と高くなっている。(図2 - 8)

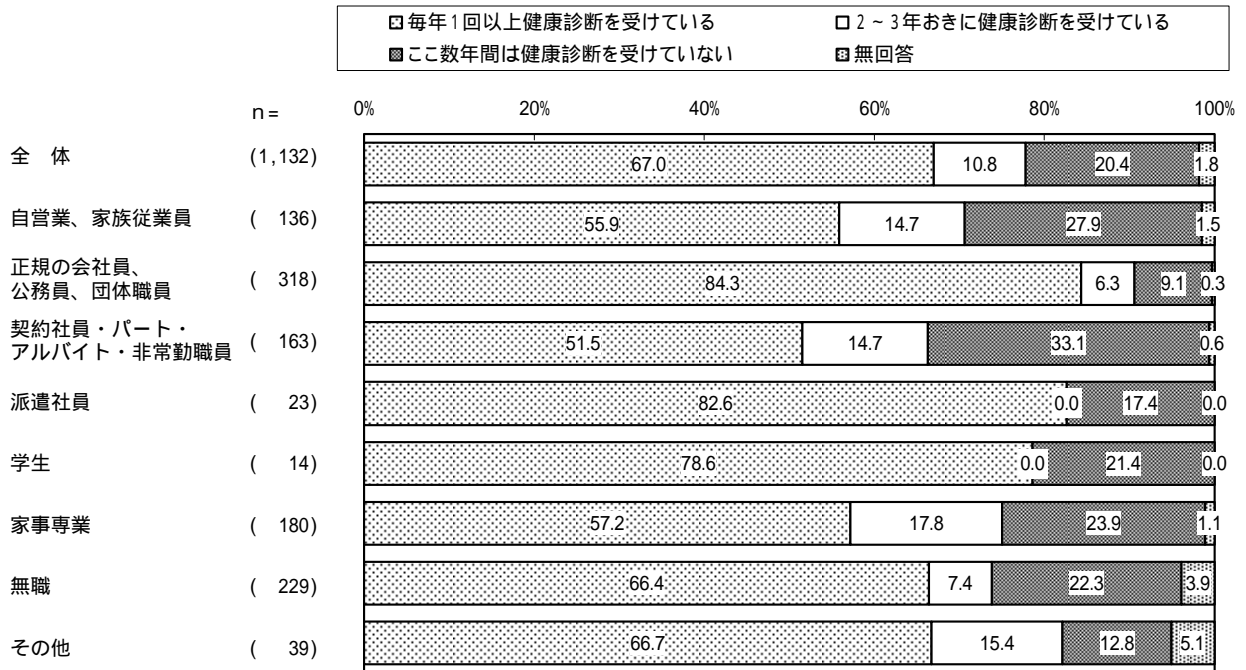
< 図2 - 5 > 性別



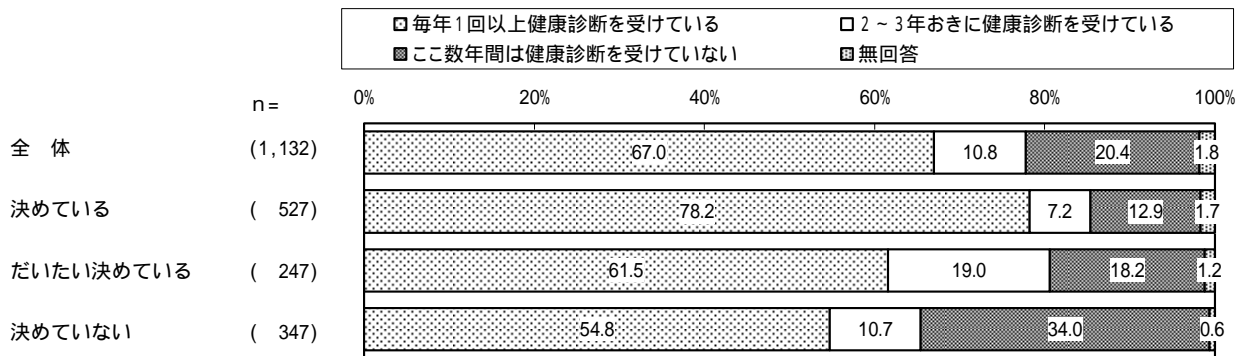
< 図2 - 6 > 年齢別



< 図 2 - 7 > 職業別



< 図 2 - 8 > かかりつけの診療所の有無（問 13）別



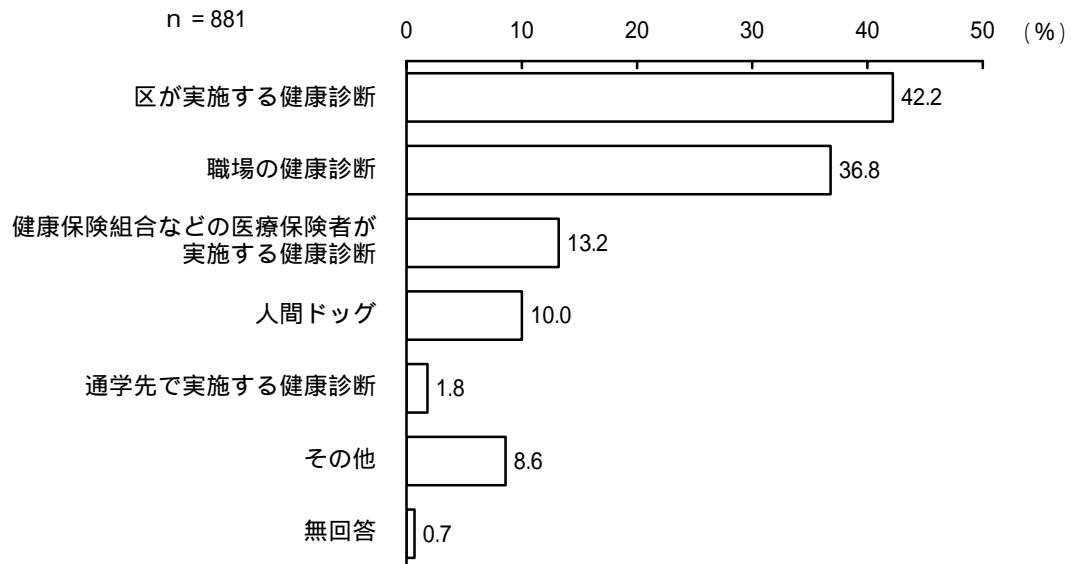
(3) 健康診断の受診場所

区が実施する健康診断が4割強、職場の健康診断が4割弱

(問7で「毎年1回以上健康診断を受けている」「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた方に)

問8. 健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに)

<図2-9> 全体



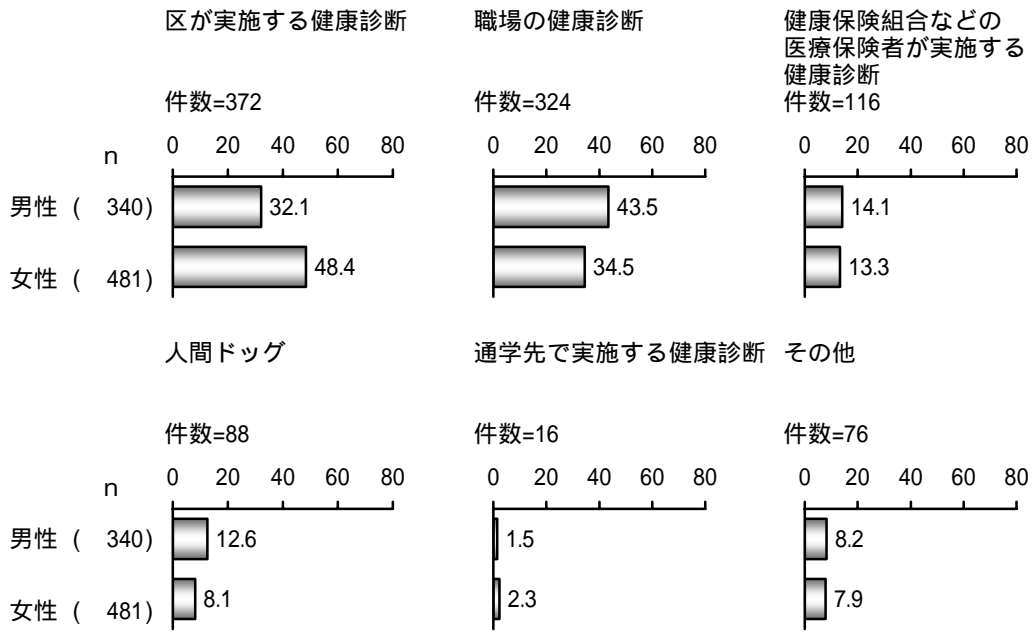
健康診断を受けている人に、健康診断の受診場所をたずねたところ、「区が実施する健康診断」と答えた人が42.2%で最も多く、次いで、「職場の健康診断」(36.8%)となっている。また、「健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断」(13.2%)、「人間ドッグ」(10.0%)、「通学先で実施する健康診断」(1.8%)となっている。(図2-9)

性別に見ると、女性は「区が実施する健康診断」が48.4%、男性は「職場の健康診断」が43.5%で最も多い。(図2-10)

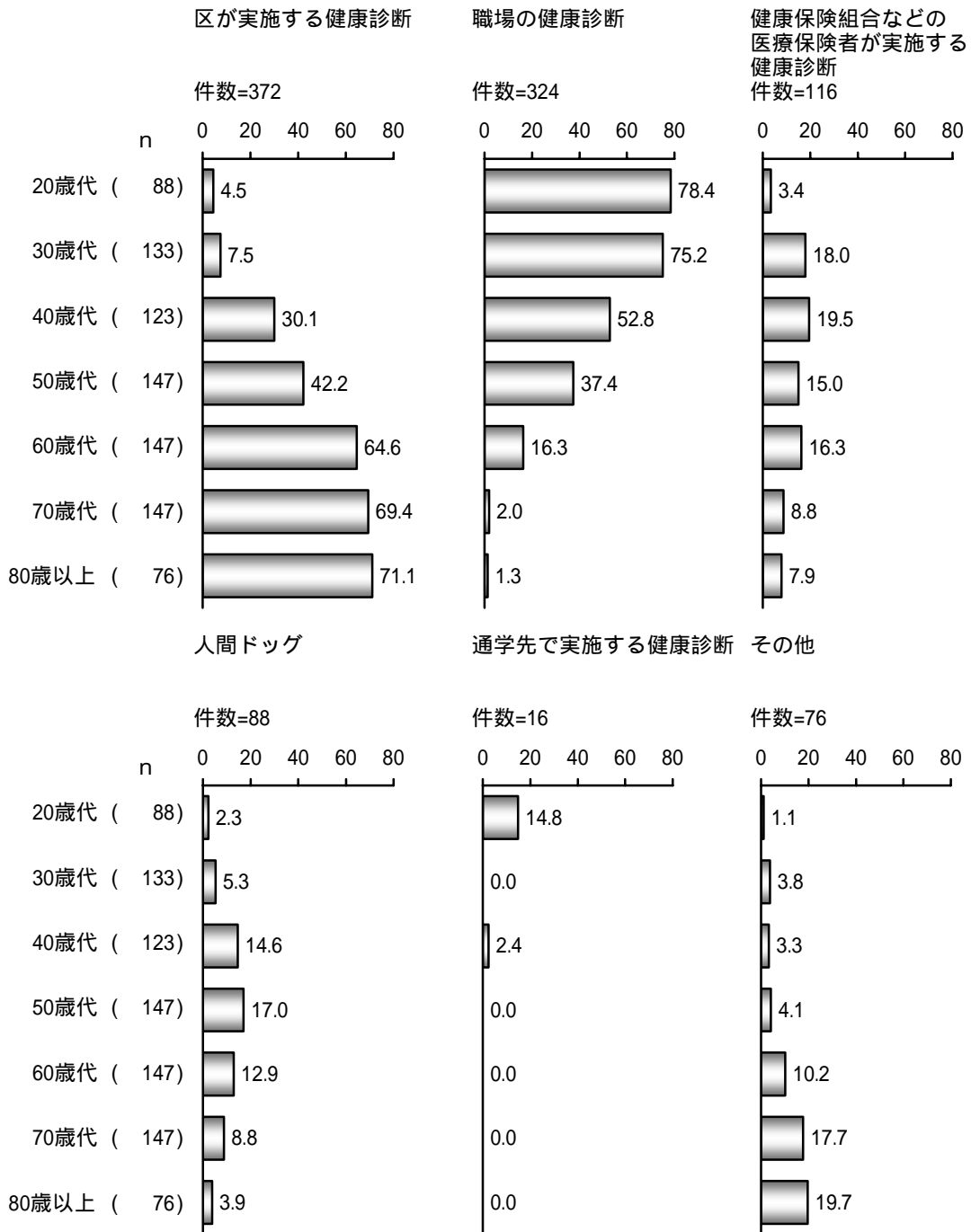
年齢別に見ると、「区が実施する健康診断」は、年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、70歳代以上では70%前後となっている。一方、「職場の健康診断」は年齢が若いほど高くなる傾向が見られ、20～30歳代で70%以上となっている。(図2-11)

職業別に見ると、「区が実施する健康診断」は家事専業と無職で、70%前後と高い。一方、「職場の健康診断」は正規の会社員、公務員、団体職員で81.3%と高く、派遣社員でも半数以上となっている。(図2-12)

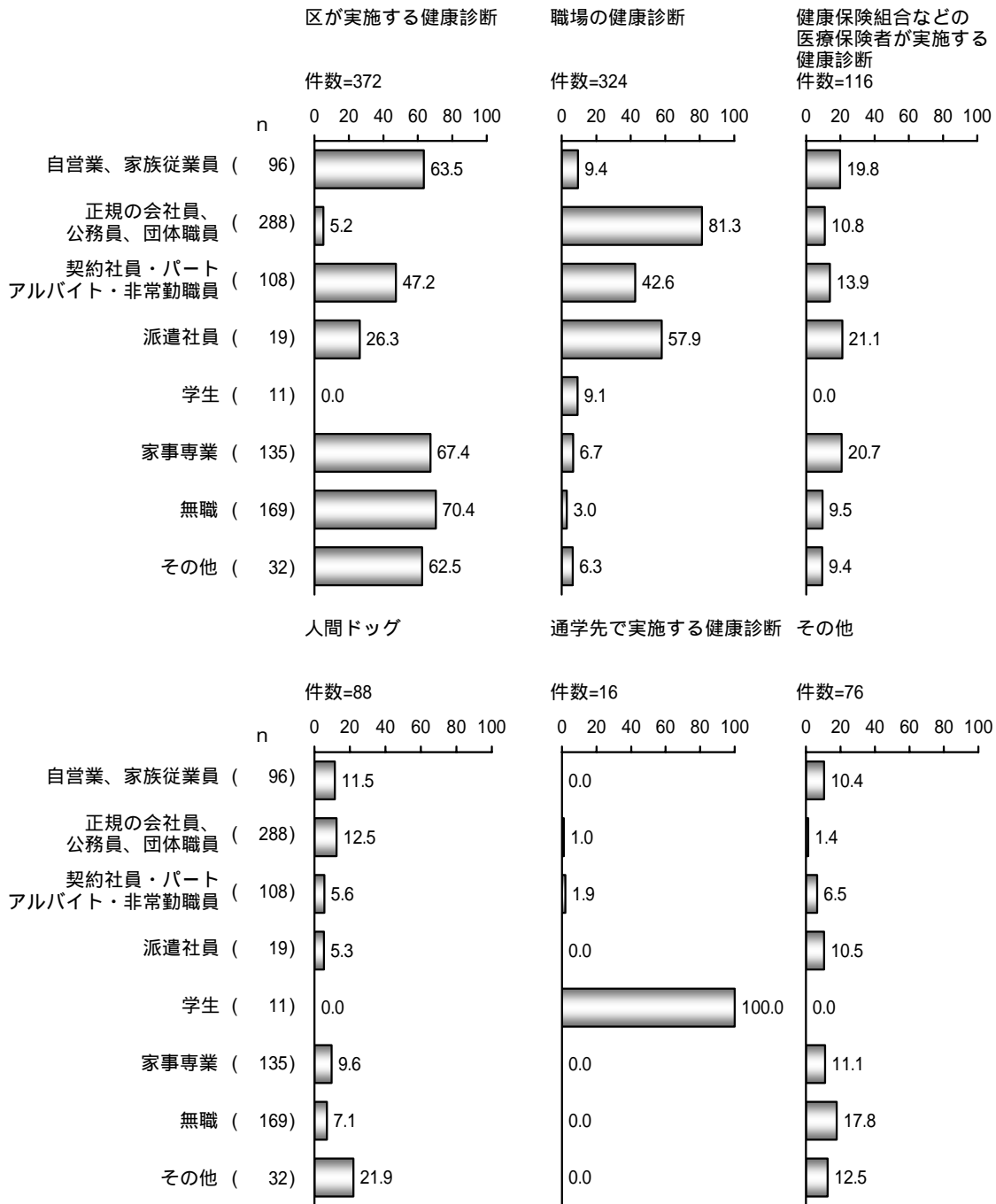
< 図 2 - 10 > 性別



< 図 2 - 11 > 年齢別



< 図 2 - 12 > 職業別



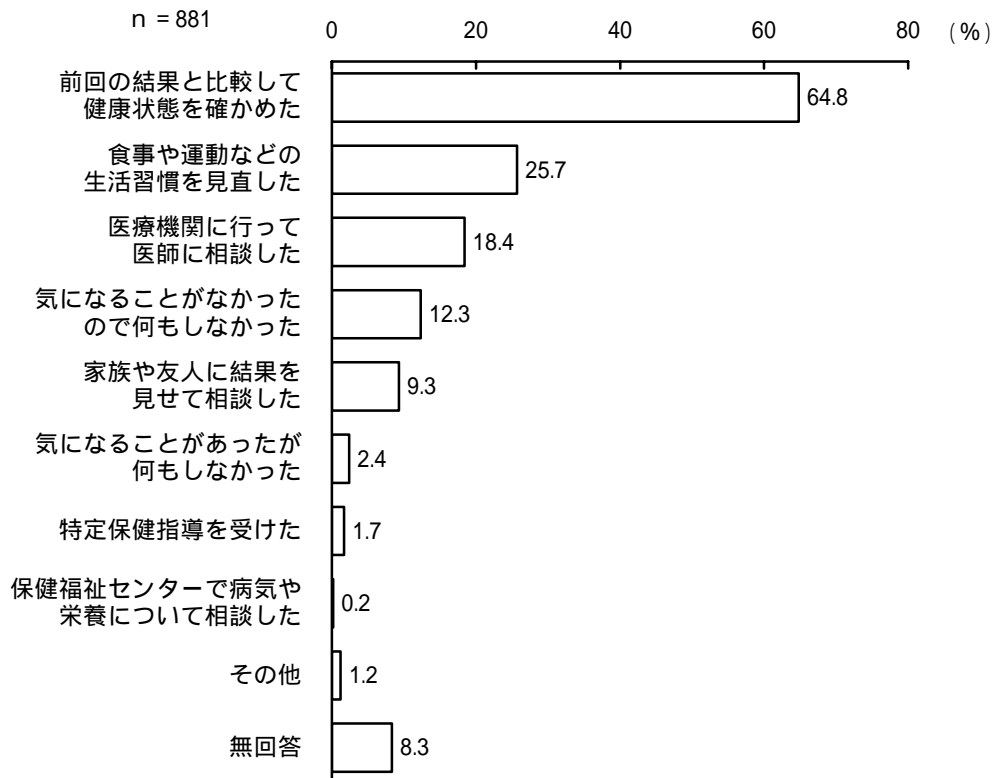
(4) 健康診断結果の活用

前回結果と比較した人が6割半

(問7で「毎年1回以上健康診断を受けている」「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた方に)

問9. 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに)

<図2-13> 全体

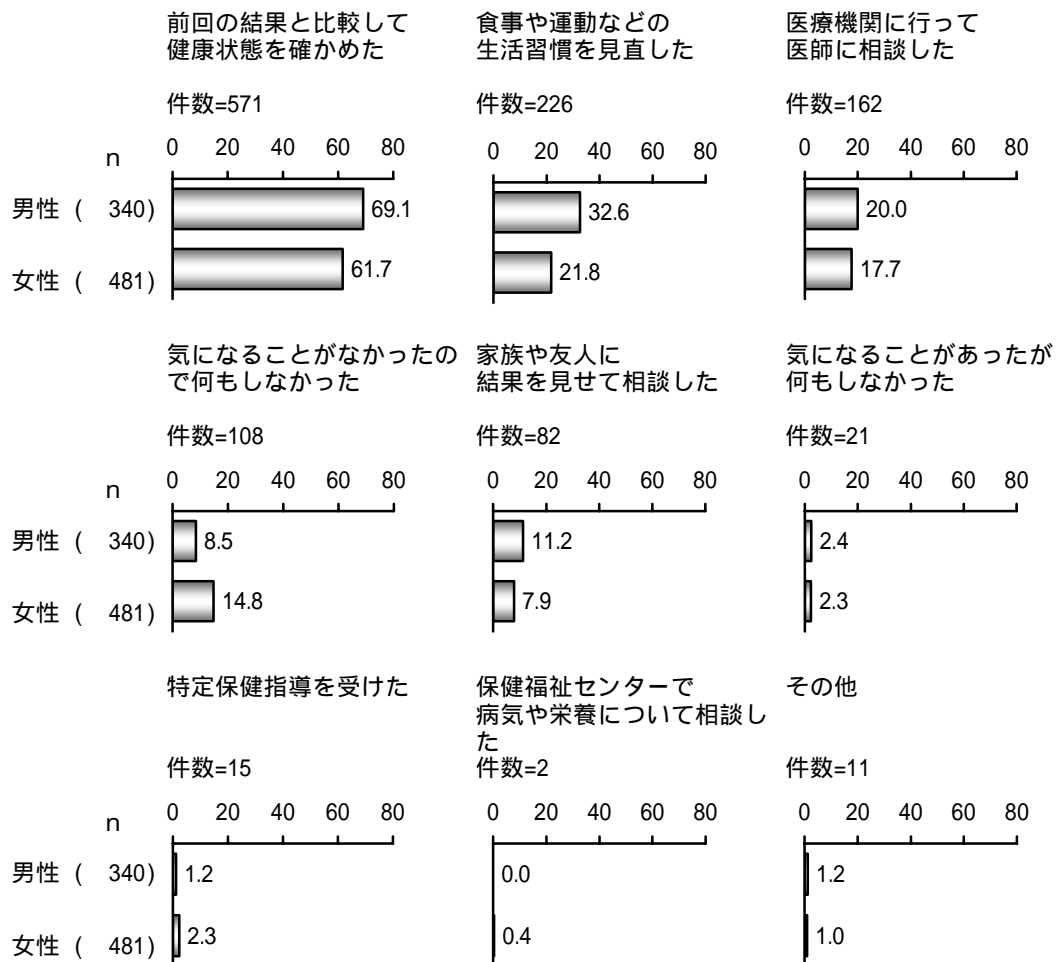


健康診断を受けている人に、健康診断の結果の活用についてたずねたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」(64.8%)と答えた人が最も多くなっている。以下、「食事や運動などの生活習慣を見直した」(25.7%)、「医療機関に行って医師に相談した」(18.4%)、「気になることがなかったので何もしなかった」(12.3%)、「家族や友人に結果を見せて相談した」(9.3%)、「気になることがあったが何もしなかった」(2.4%)、「特定保健指導を受けた」(1.7%)、「保健福祉センターで病気や栄養について相談した」(0.2%)の順になっている。(図2-13)

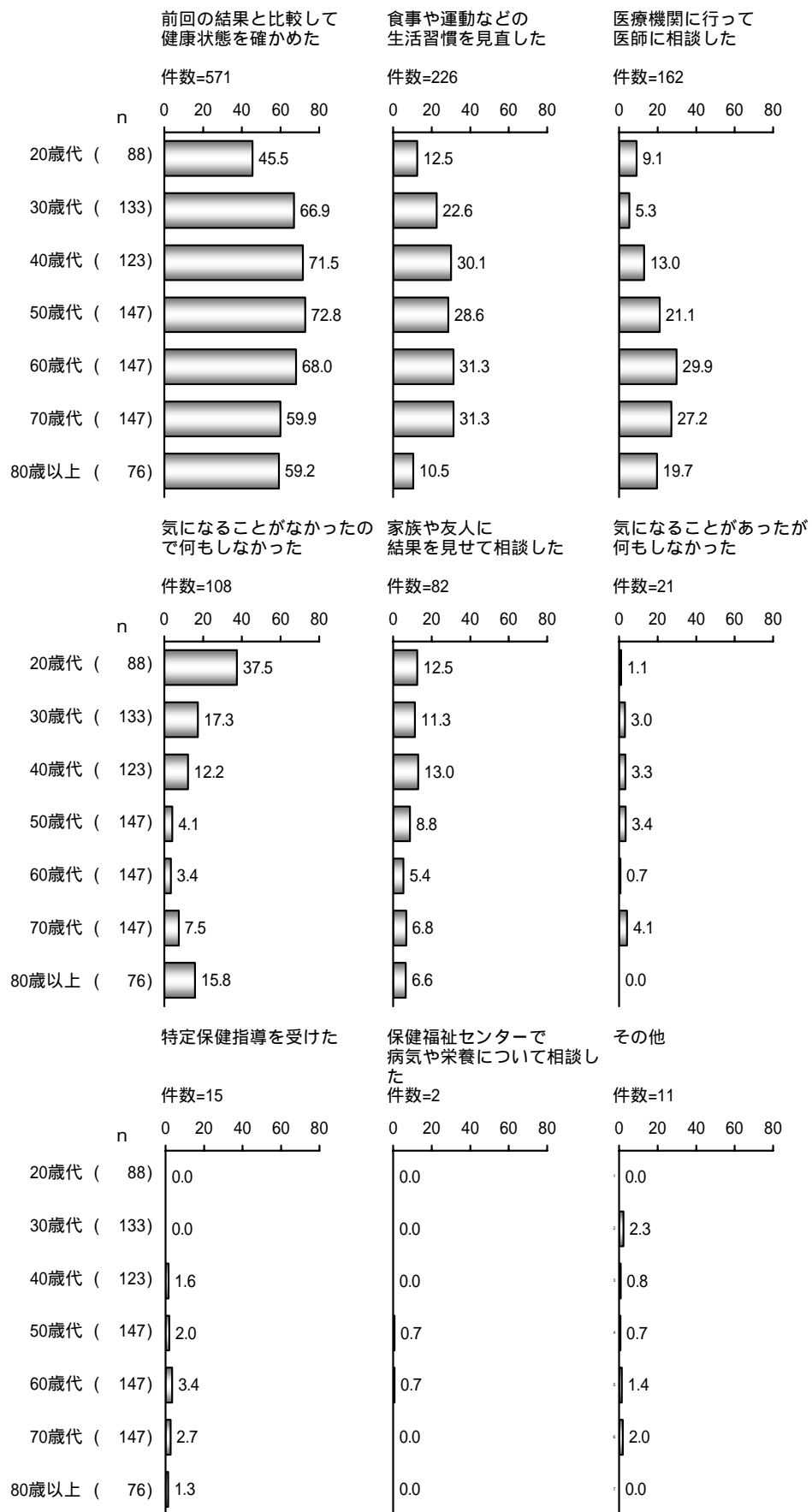
性別に見ると、男性、女性ともに、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」と答えた人が最も高くなっているが、7.4ポイントの差で男性の方が高い。また全体的に男性の方が相談している割合が高くなっている。(図2-14)

年齢別に見ると、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」と答えた人は、40歳代と50歳代で70%以上となっている。一方、「気になることがなかったので何もしなかった」と答えた人は、20歳代で37.5%と高くなっている。(図2-15)

< 図2-14 > 性別



< 図 2 - 15 > 年齢別



(5) 健康診断を受けなかった理由

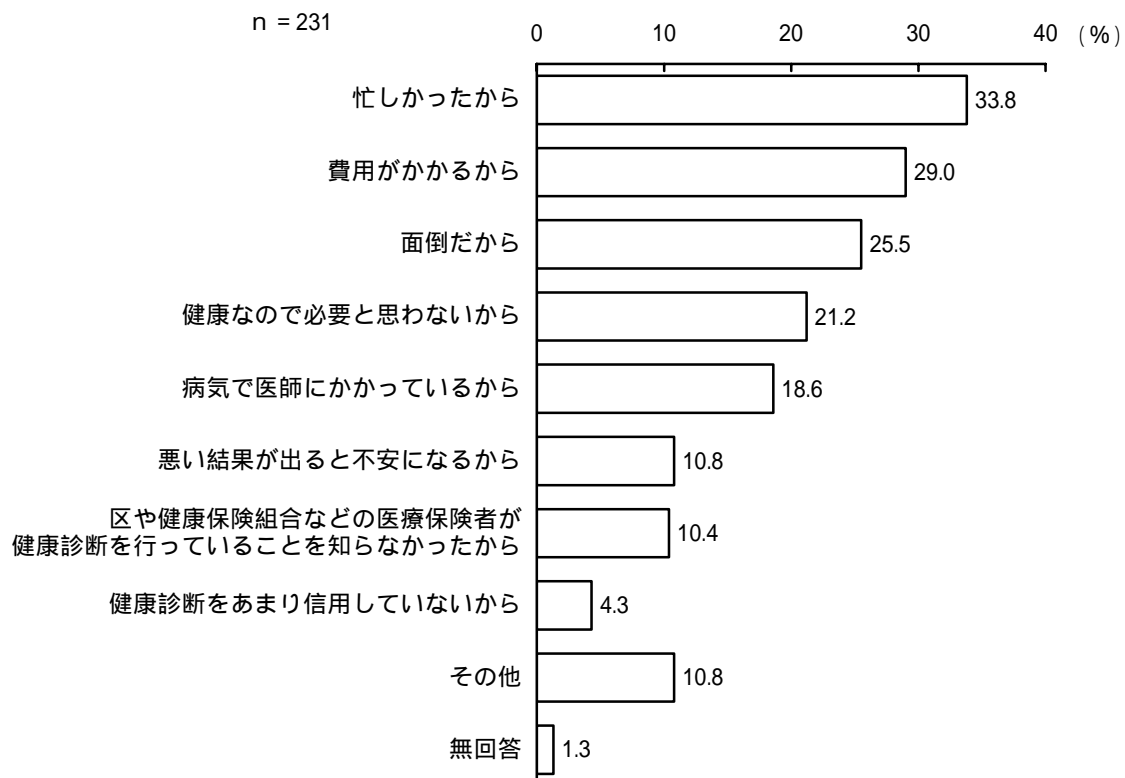
「忙しかったから」が3割強

(問7で「ここ数年間は健康診断を受けていない」に つけた方に)

問10. あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに)

< 図 2 - 16 > 全体

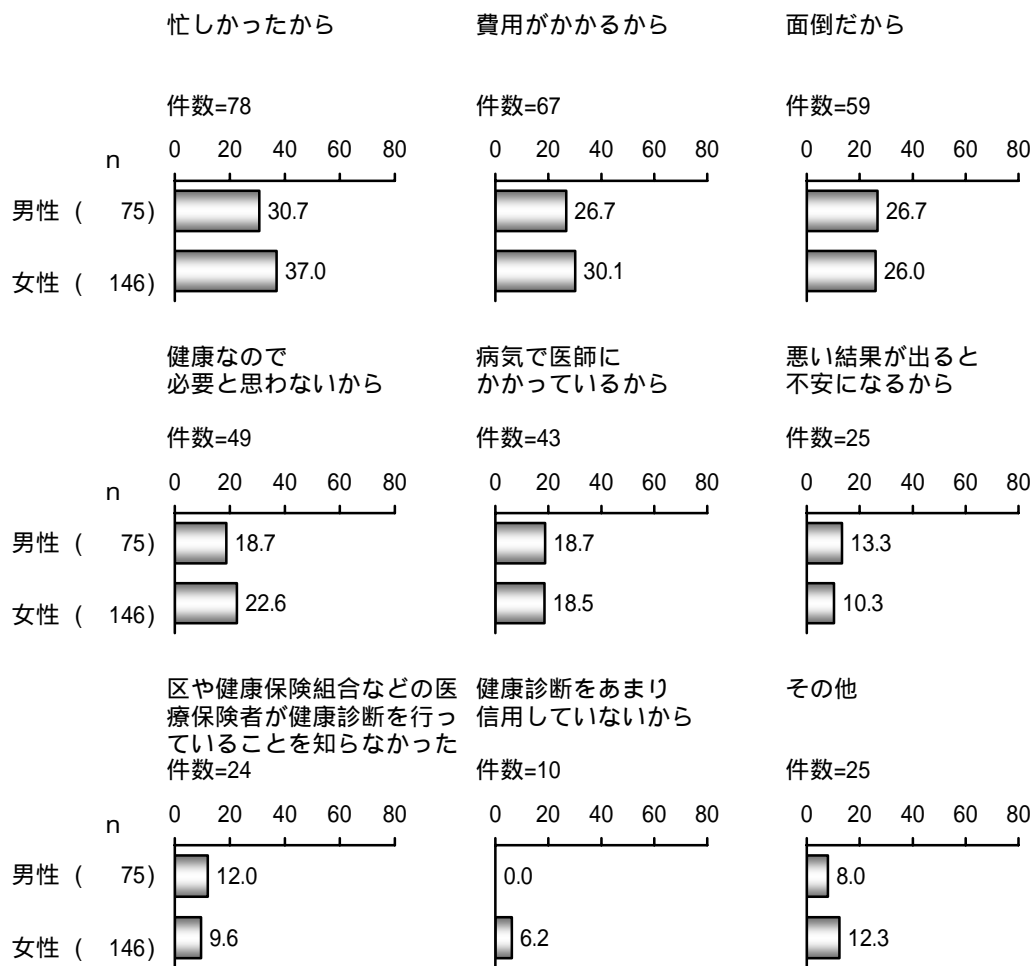


健康診断を受けなかった理由としては、「忙しかったから」(33.8%) が最も多く、次いで、「費用がかかるから」(29.0%)、「面倒だから」(25.5%)、「健康なので必要と思わないから」(21.2%)、「病気で医師にかかっているから」(18.6%)、「悪い結果が出ると不安になるから」(10.8%)、「区や健康保険組合などの医療保険者が健康診断を行っていることを知らなかったから」(10.4%)、「健康診断をあまり信用していないから」(4.3%) の順になっている。(図 2 - 16)

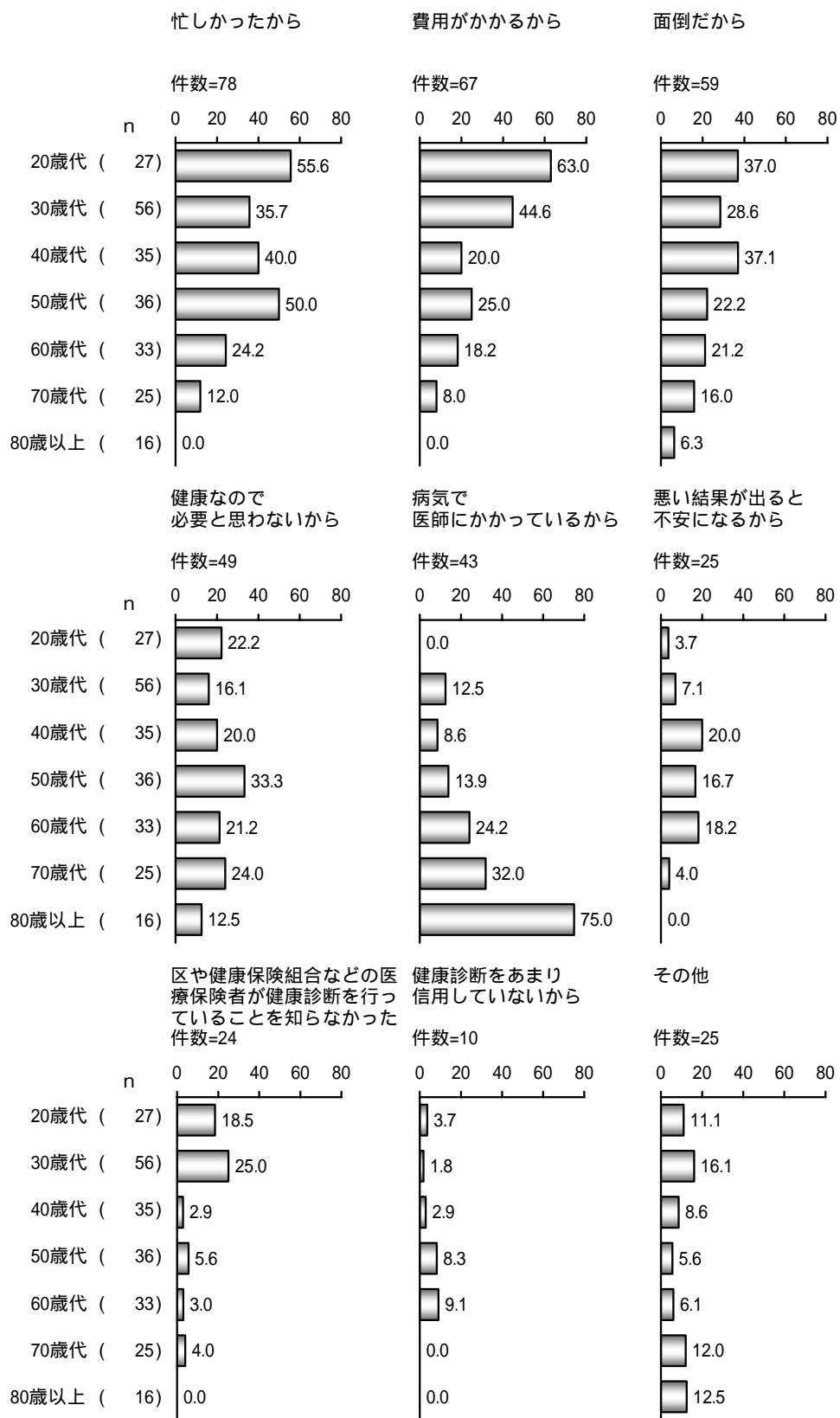
性別に見ると、女性、男性ともに、「忙しかったから」と答えた人が最も高くなっているが、6.3ポイントの差で女性の方が高い。また全体的に女性の方が割合が高くなっている傾向にある。(図 2 - 17)

年齢別に見ると、「忙しかったから」、「費用がかかるから」と答えた人は、20歳代で60%前後と高くなっている。また、「病気で医師にかかっているから」と答えた人は、80歳以上で75.0%と高くなっている。(図2-18)

< 図2-17 > 性別

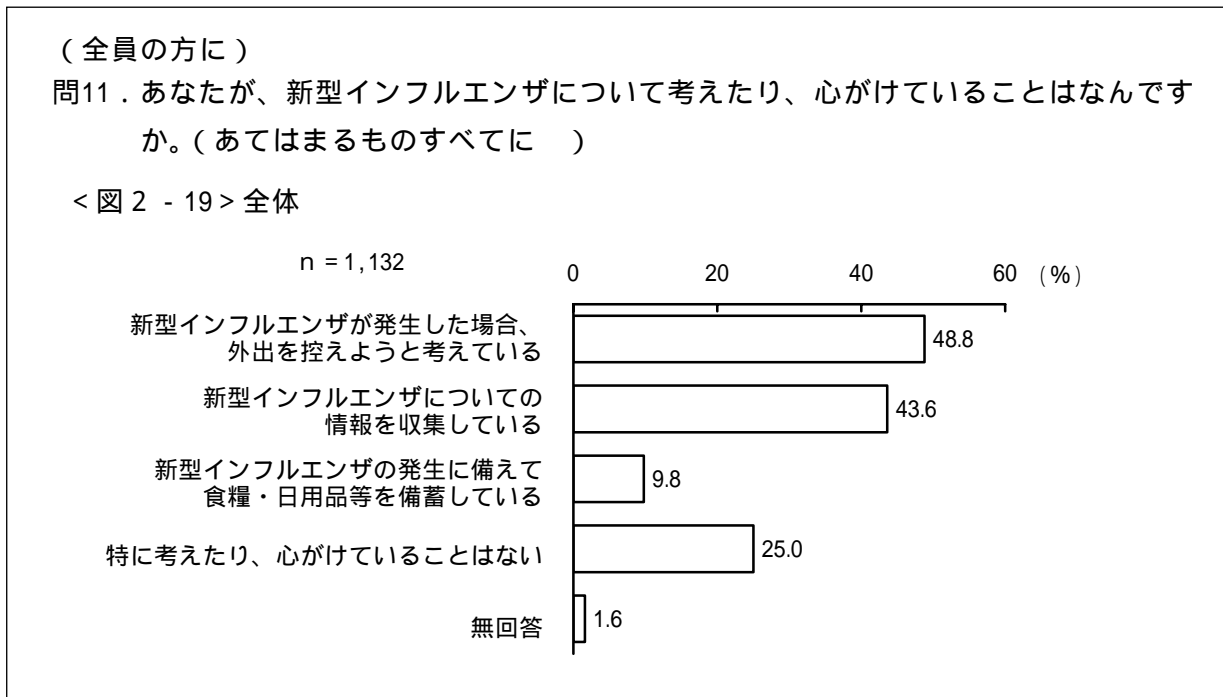


< 図 2 - 18 > 年齢別



(6) 新型インフルエンザについて考えたり、心がけていること

「外出を控える」が5割弱、特に考えていない人が2割半



新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることとしては、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」(48.8%)が最も多くなっている。また、「新型インフルエンザについての情報を収集している」は43.6%であるが、「新型インフルエンザの発生に備えて食糧・日用品等を備蓄している」(9.8%)は少ない。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人が25.0%となっている。

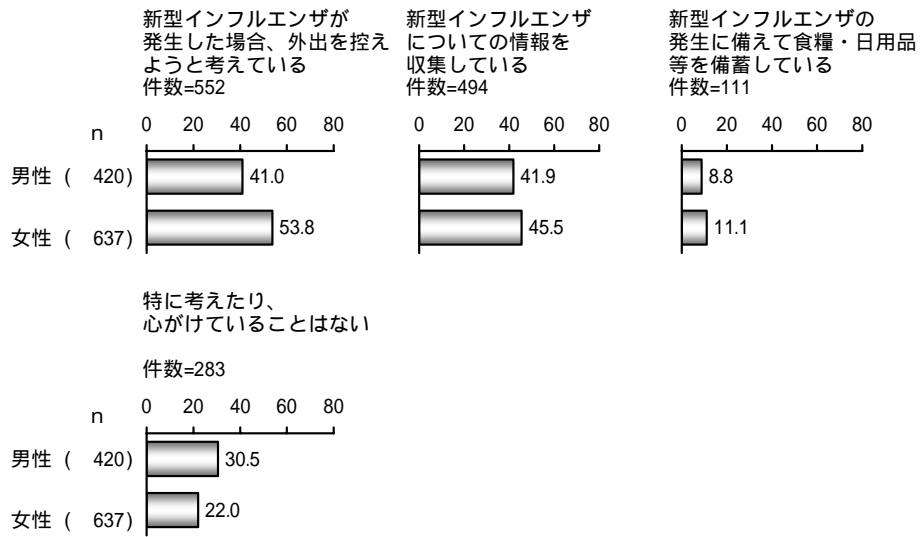
(図 2 - 19)

性別に見ると、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」と答えた人は女性(53.8%)が男性(41.0%)より12.8ポイント高くなっている。また「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人では男性(30.5%)が女性(22.0%)より8.5ポイント高くなっている。(図 2 - 20)

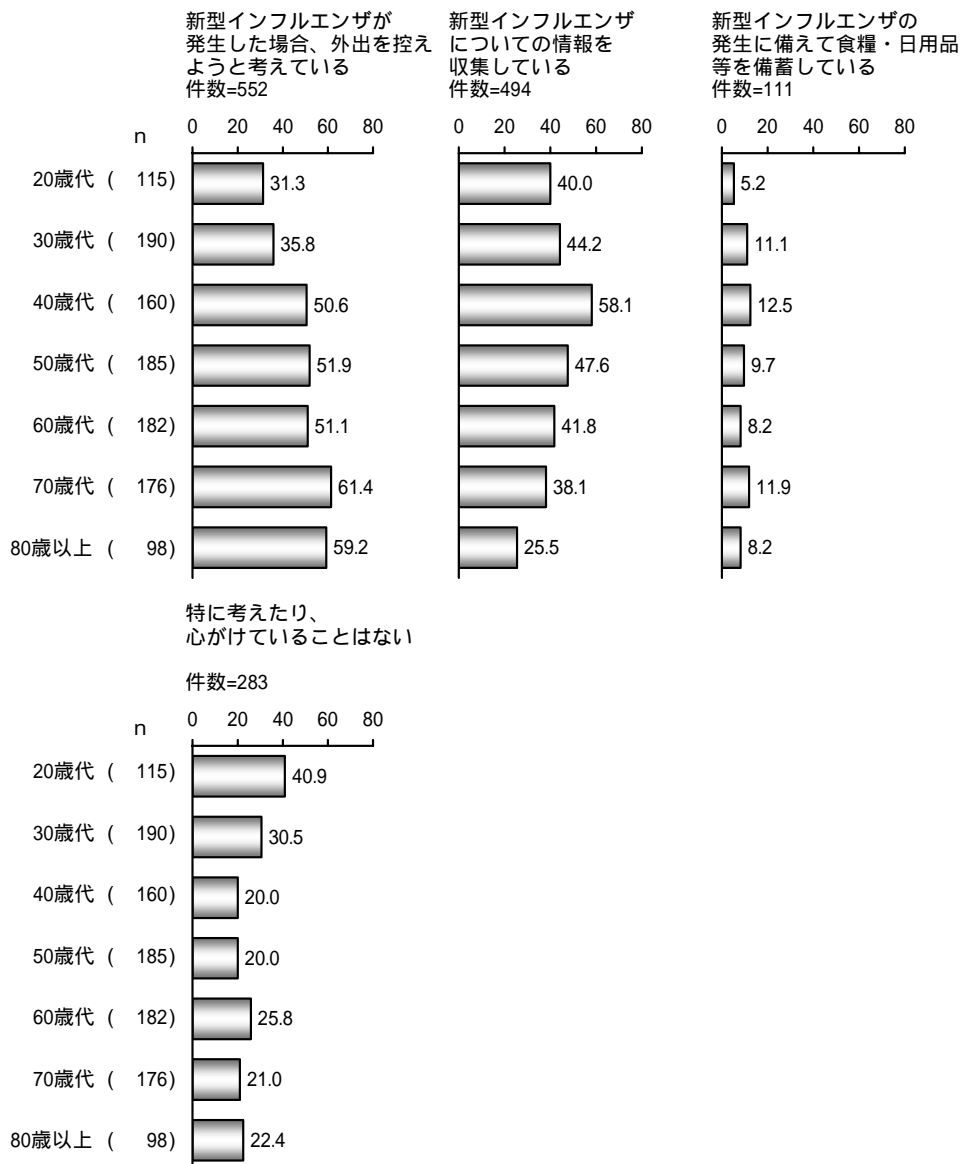
年齢別に見ると、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」と答えた人は70歳代以上で60%前後と高くなっている。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人は20歳代で40%と高くなっている。(図 2 - 21)

職業別に見ると、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」は家事専業で7割弱と高い。また、「新型インフルエンザについての情報を収集している」は派遣社員で6割半と高くなっている。(図 2 - 22)

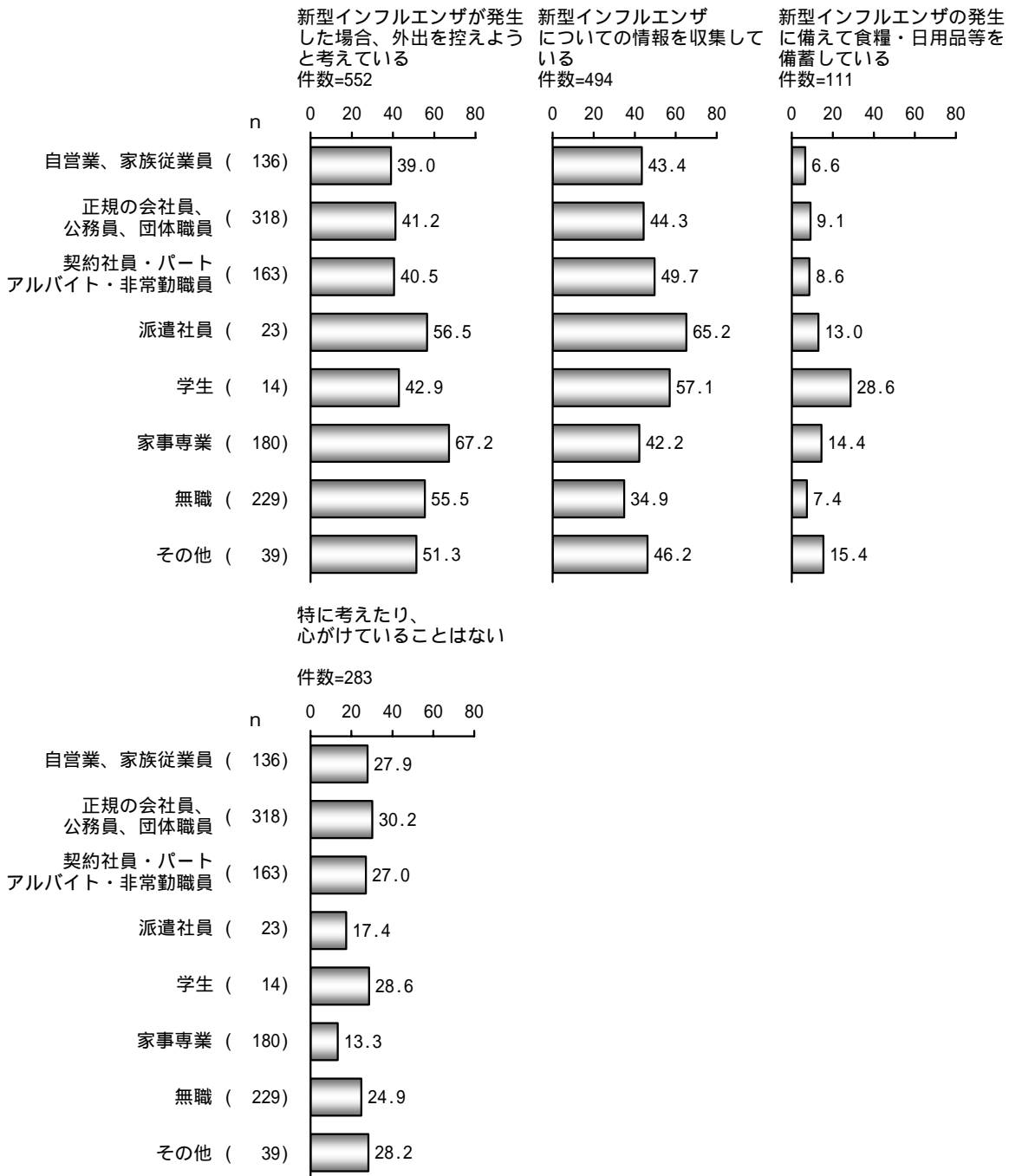
< 図 2 - 20 > 性別



< 図 2 - 21 > 年齢別



< 図 2 - 22 > 職業別



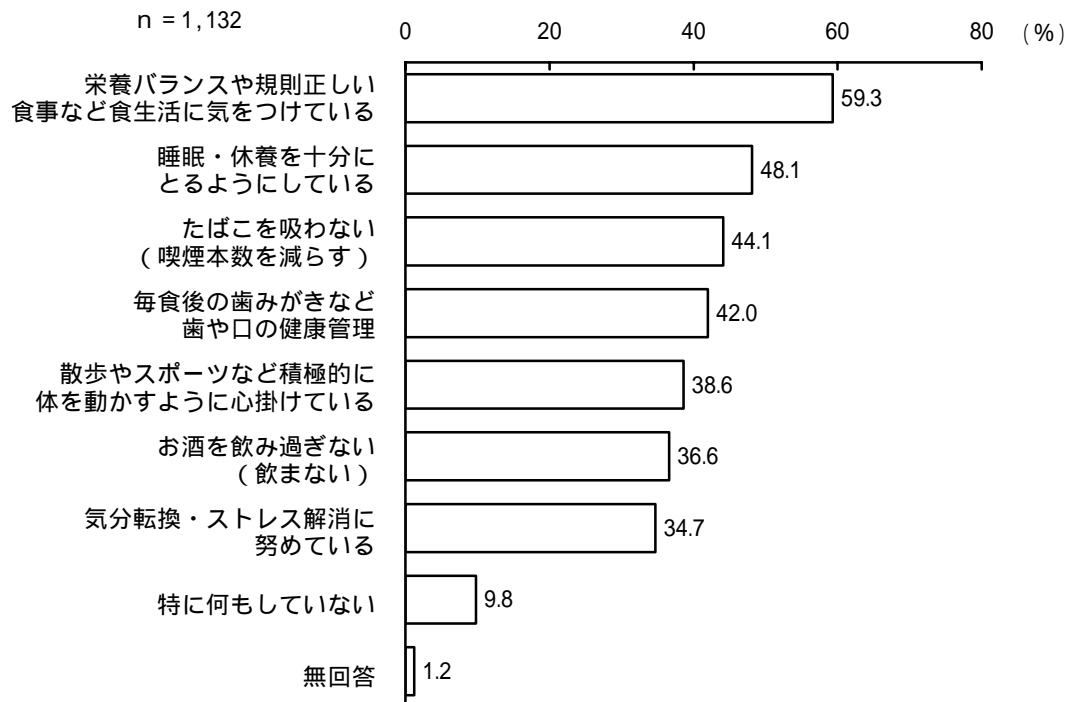
(7) 生活習慣病予防のために、実行していること

「食生活に気をつける」が6割、「十分な睡眠・休養」が5割弱

(全員の方に)

問12. がん、心臓病、脳卒中、糖尿病など、日頃の生活習慣が密接に関係する病気を「生活習慣病」と呼んでいます。あなたが、生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに)

<図2-23> 全体



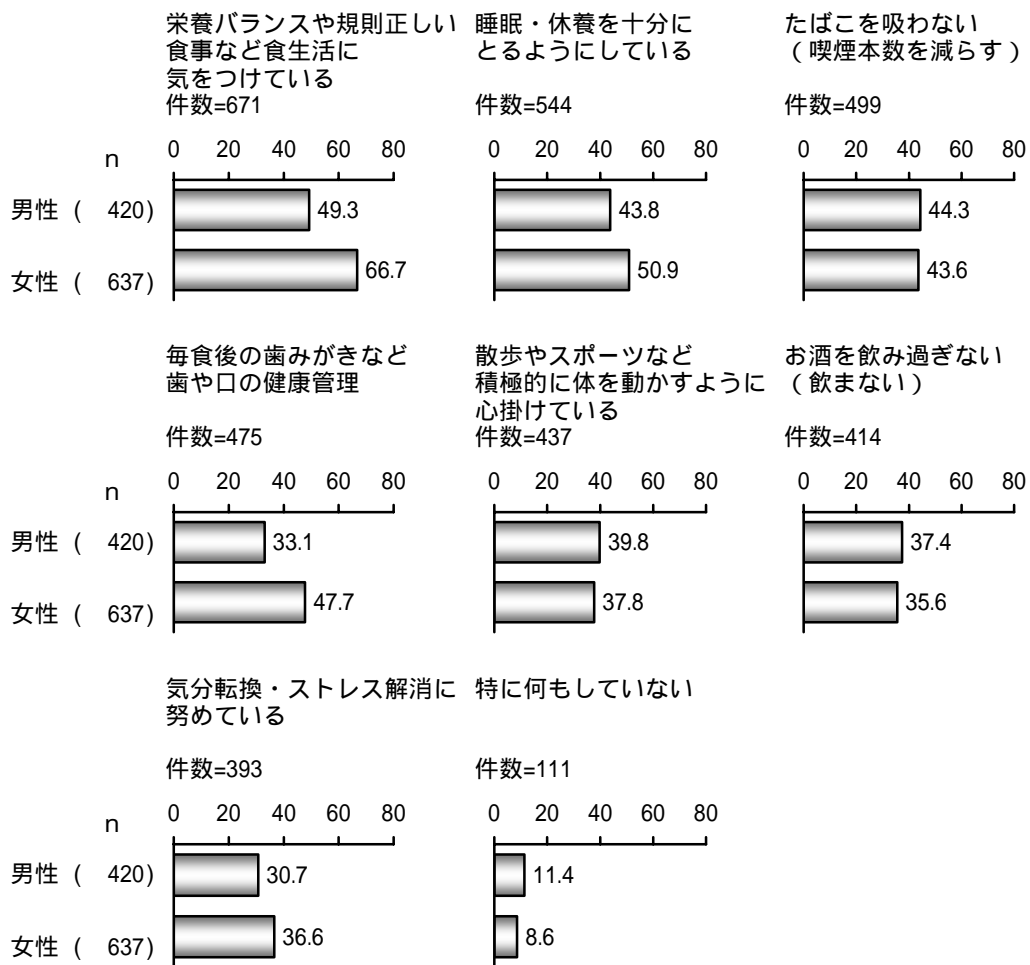
生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることとしては、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(59.3%)が最も高く、次いで、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」(48.1%)、「たばこを吸わない(喫煙本数を減らす)」(44.1%)、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理」(42.0%)が4割以上で続いている。以下「散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている」(38.6%)、「お酒を飲みすぎない(飲まない)」(36.6%)、「気分転換・ストレス解消に努めている」(34.7%)も3割以上となっている。(図2-23)

性別に見ると、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(女性66.7%、男性49.3%)、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理」(女性47.7%、男性33.1%)では、それぞれ女性が男性より10ポイント以上高くなっている。(図2-24)

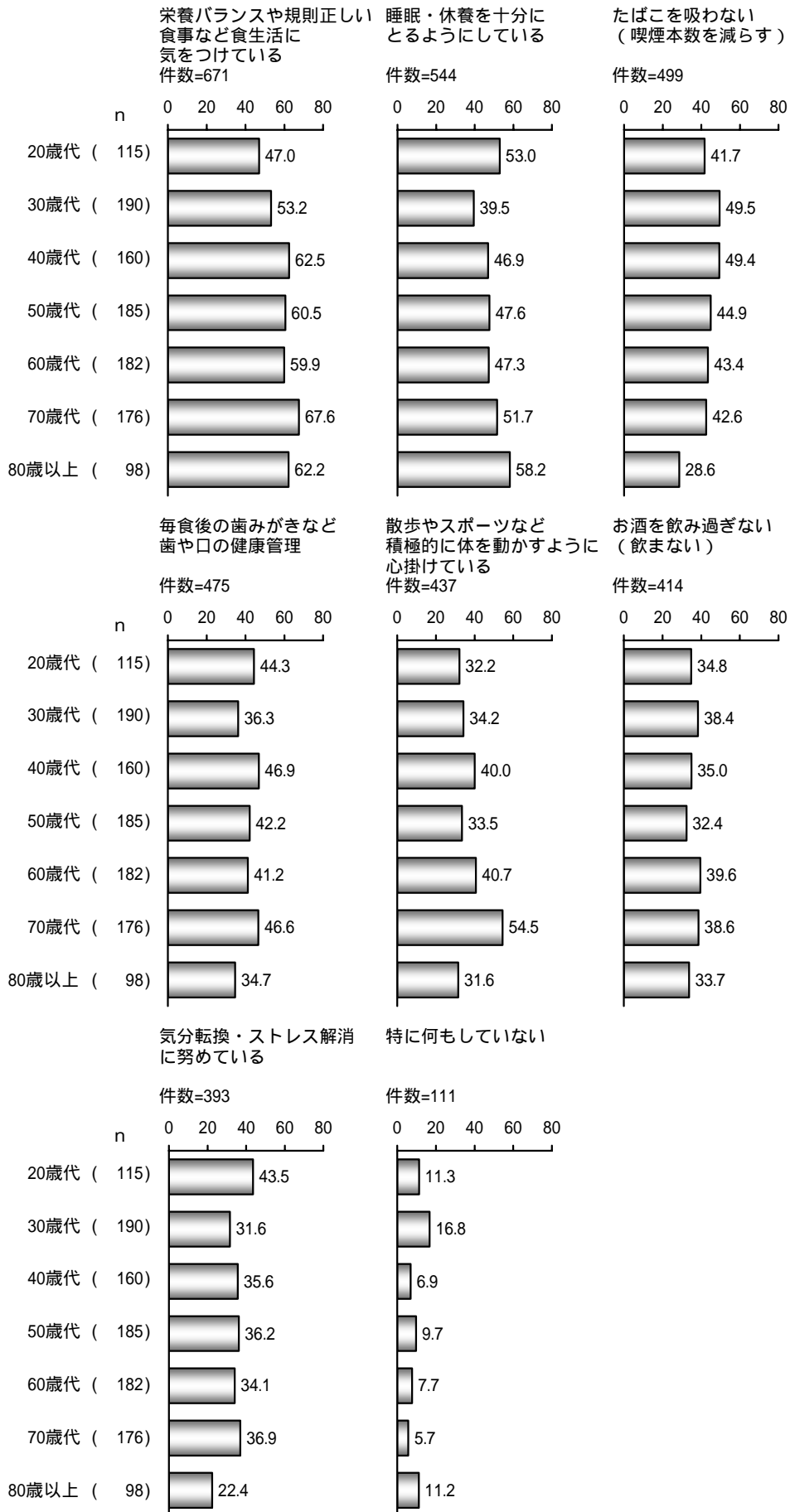
年齢別に見ると、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」と答えた人は70歳代で67.6%となっている。(図2 - 25)

世帯構成別に見ると、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」は3世代世帯で56.4%となっている。(図2 - 26)

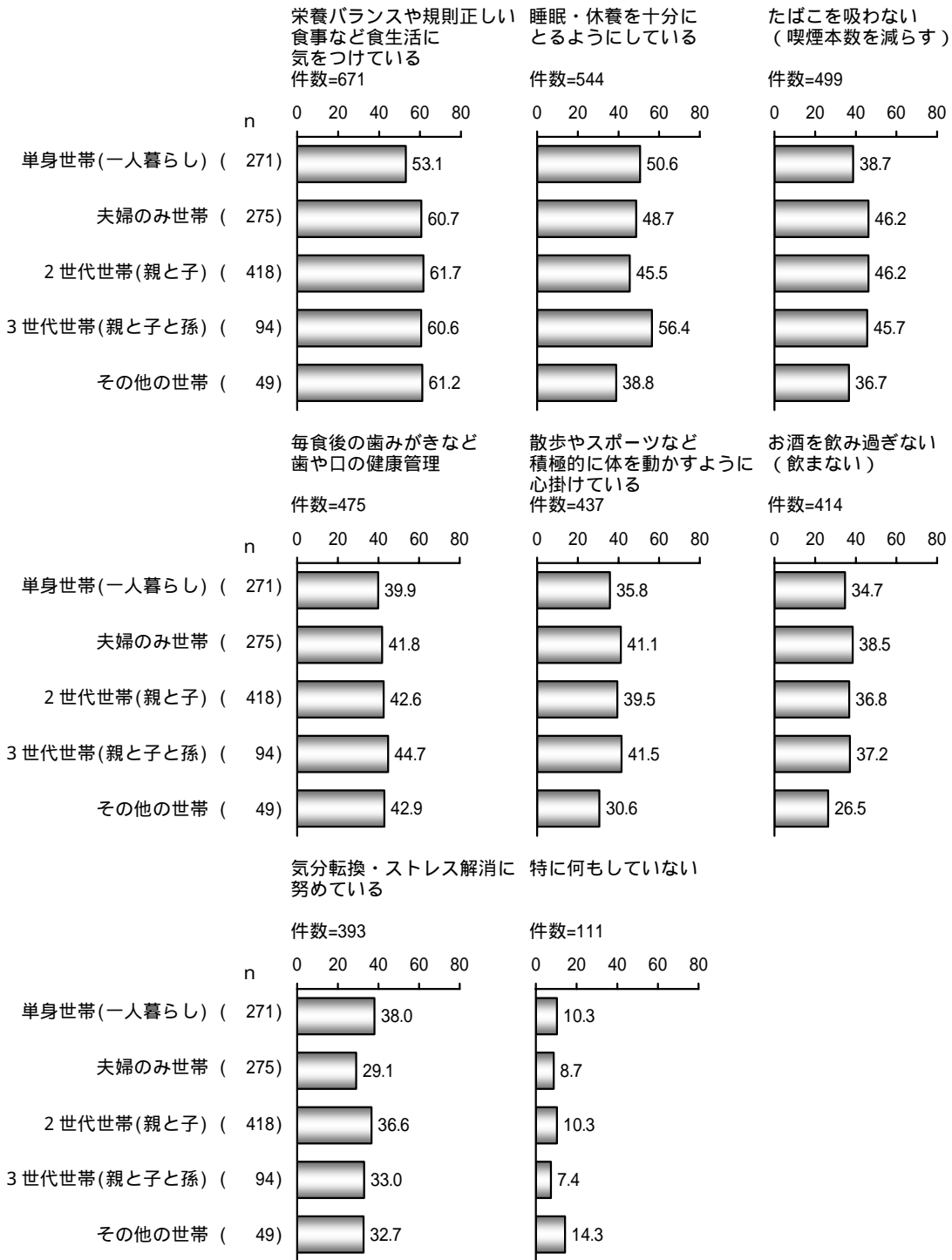
< 図2 - 24 > 性別



< 図 2 - 25 > 年齢別



< 図 2 - 26 > 世帯構成別



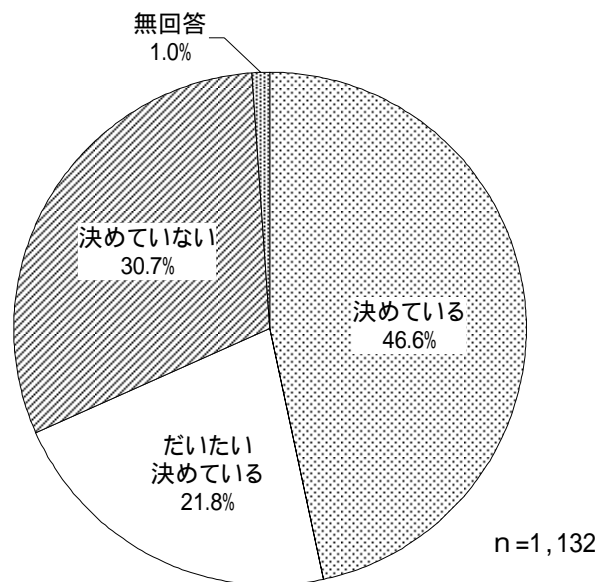
(8) かかりつけの診療所の有無

「決めている」と「だいたい決めている」を合わせると7割弱

(全員の方に)

問13 . あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所 (医院・クリニック) を決めていますか。(1 は 1 つ)

< 図 2 - 27 > 全体

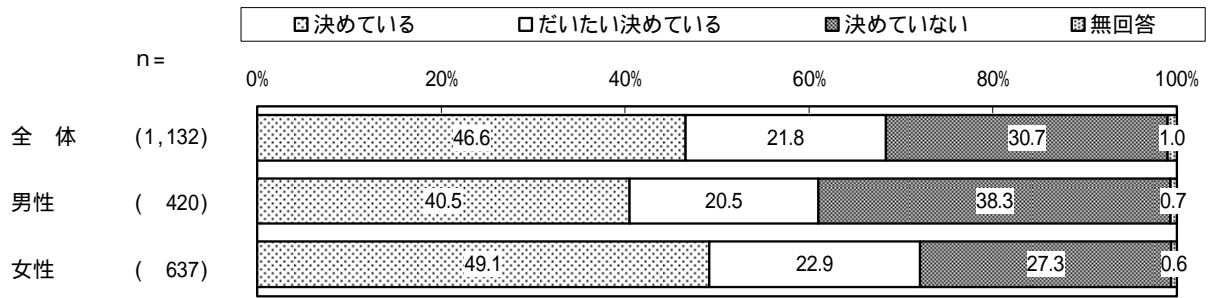


自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所 (医院・クリニック) を「決めている」と答えた人が 46.6%と約半数を占める。「だいたい決めている」と答えた人は 21.8%で「決めていない」と答えた人は 30.7%となっている。(図 2 - 27)

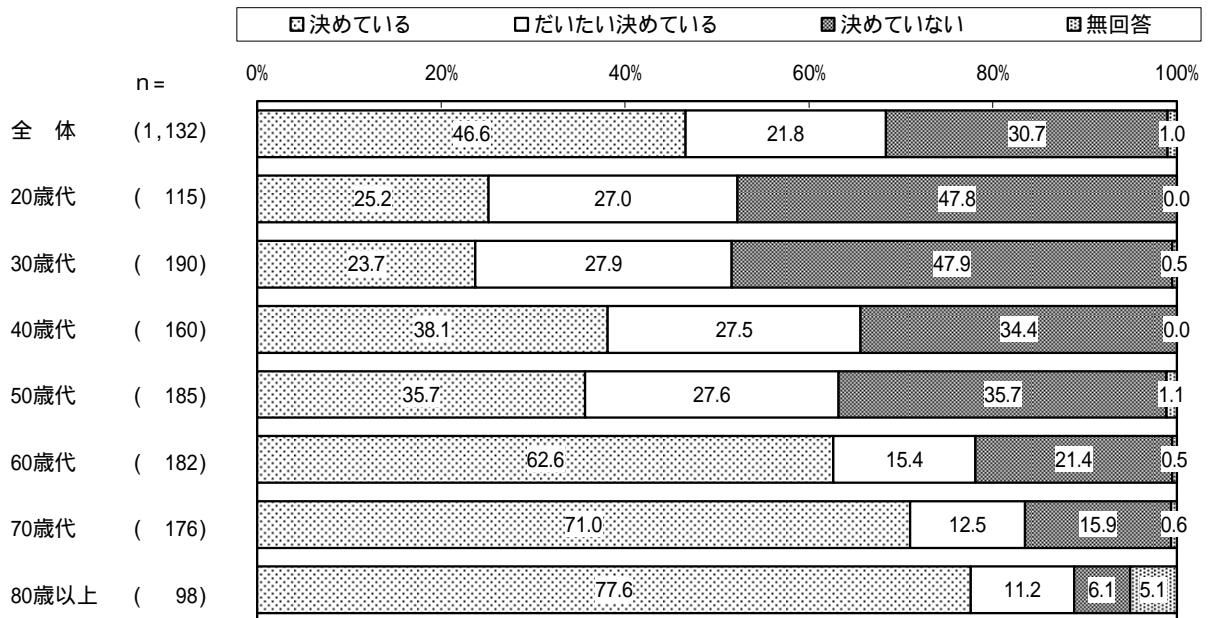
性別に見ると、「決めている」と答えた人は男女とも 4 割を超えている。一方、「決めていない」と答えた人は男性 (38.3%) が女性 (27.3%) より 11.0 ポイント高くなっている。(図 2 - 28)

年齢別に見ると、「決めている」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、特に 70 歳代以上では 70% 台と高くなっている。(図 2 - 29)

< 図 2 - 28 > 性別



< 図 2 - 29 > 年齢別



(9) かかりつけの診療所との信頼関係

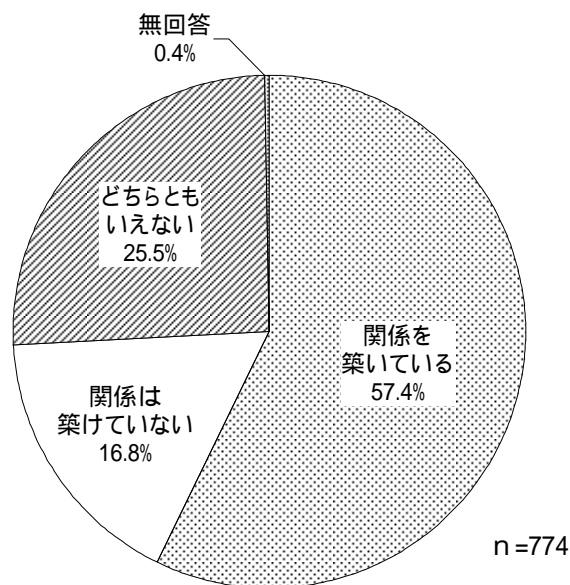
かかりつけの診療所（医院・クリニック）との間に関係を築いている人は6割弱

（問13で「決めている」「だいたい決めている」に つけた方に）

問14. かかりつけの診療所（医院・クリニック）との関係については、普段から気軽に相談し、あなたや家族の健康状態を踏まえた適切な治療やアドバイスが受けられる、また、必要ならばふさわしい専門医を紹介してくれるという関係を築いていくことが大切です。

あなたは、かかりつけの診療所（医院・クリニック）との間にそうした関係を築いていますか。（ は1つ）

< 図 2 - 30 > 全体

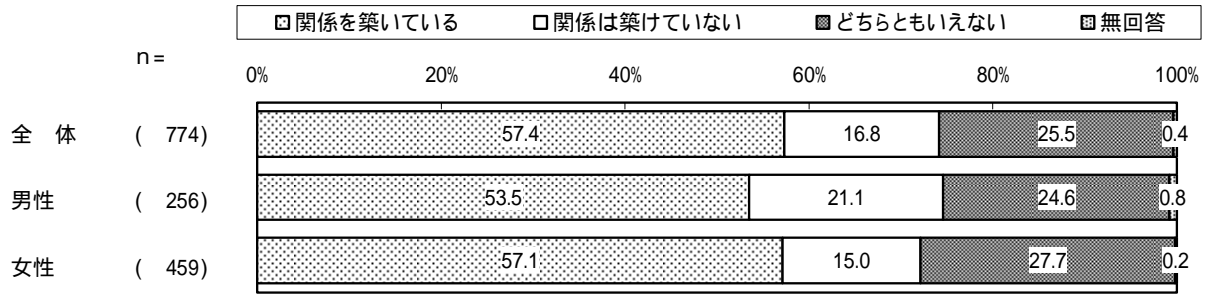


かかりつけの診療所（医院・クリニック）との間に「関係を築いている」と答えた人が57.4%と6割弱となっている。一方、「関係は築けていない」と答えた人は16.8%となっている。（図2 - 30）

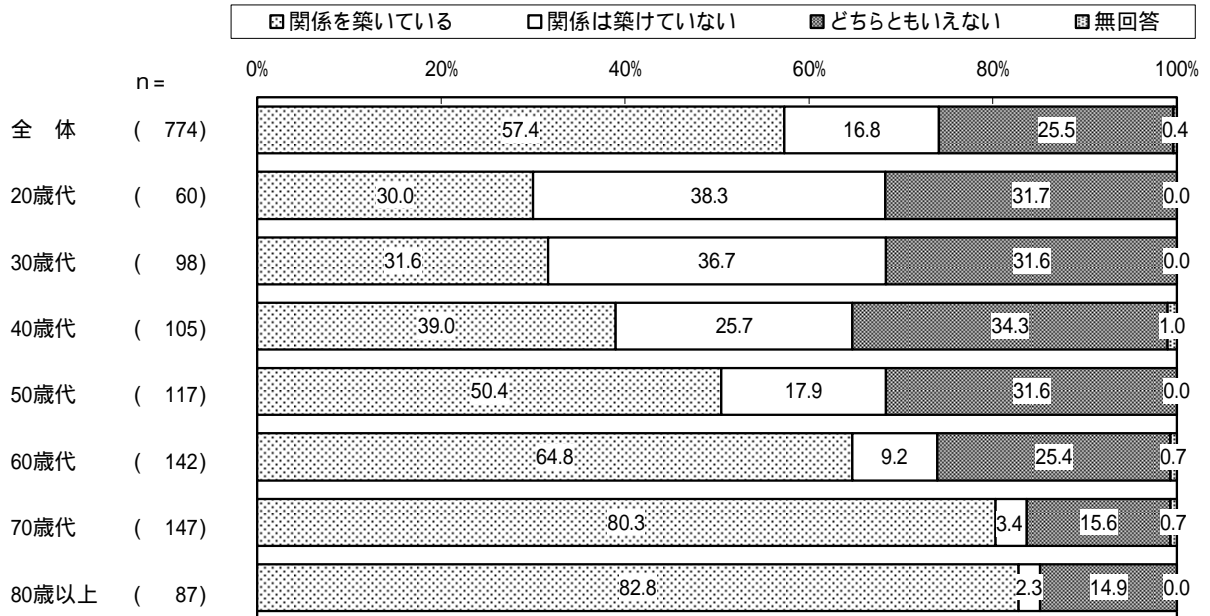
性別に見ると、「関係を築いている」答えた人は男女とも半数を超えている。一方、「関係は築けていない」と答えた人は男性（21.1%）が女性（15.0%）より6.1ポイント高くなっている。（図2 - 31）

年齢別に見ると、「関係を築いている」答えた人は年齢が上がるほど高くなっており、特に70歳代以上では80%を超えている。（図2 - 32）

< 図 2 - 31 > 性別



< 図 2 - 32 > 年齢別



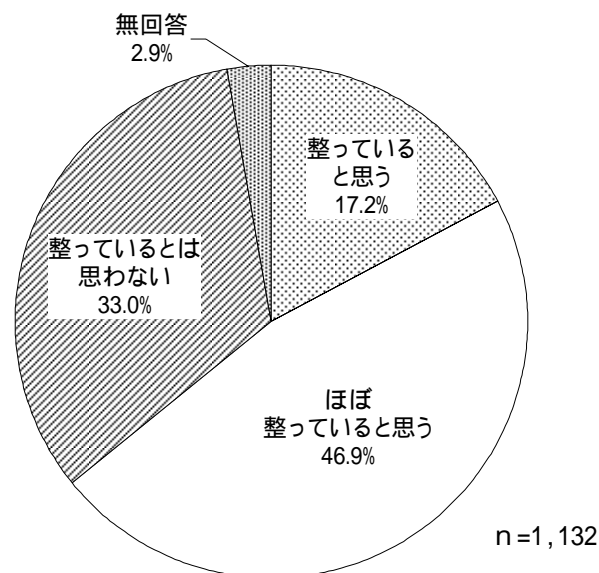
(10) 地域の救急医療体制が整っているか

「整っていると思う」と「ほぼ整っていると思う」を合わせると6割半

(全員の方に)

問15. あなたは救急患者が症状に応じた適切な医療を受けられる環境が、身近な地域に整っていると思いますか。(は1つ)

< 図 2 - 33 > 全体



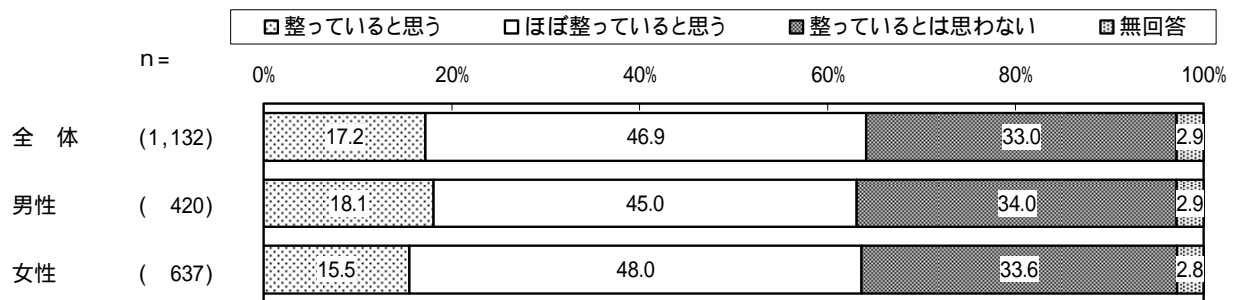
救急患者が症状に応じた適切な医療を受けられる環境が、身近な地域に「整っていると思う」と答えた人は17.2%、「ほぼ整っていると思う」と答えた人は46.9%となっており、この両者を合わせた“おおむね整っていると思う”が6割半となっている。一方、「整っているとは思わない」と答えた人は33.0%となっている。(図2-33)

性別に見ると、大きな差は見られない。(図2-34)

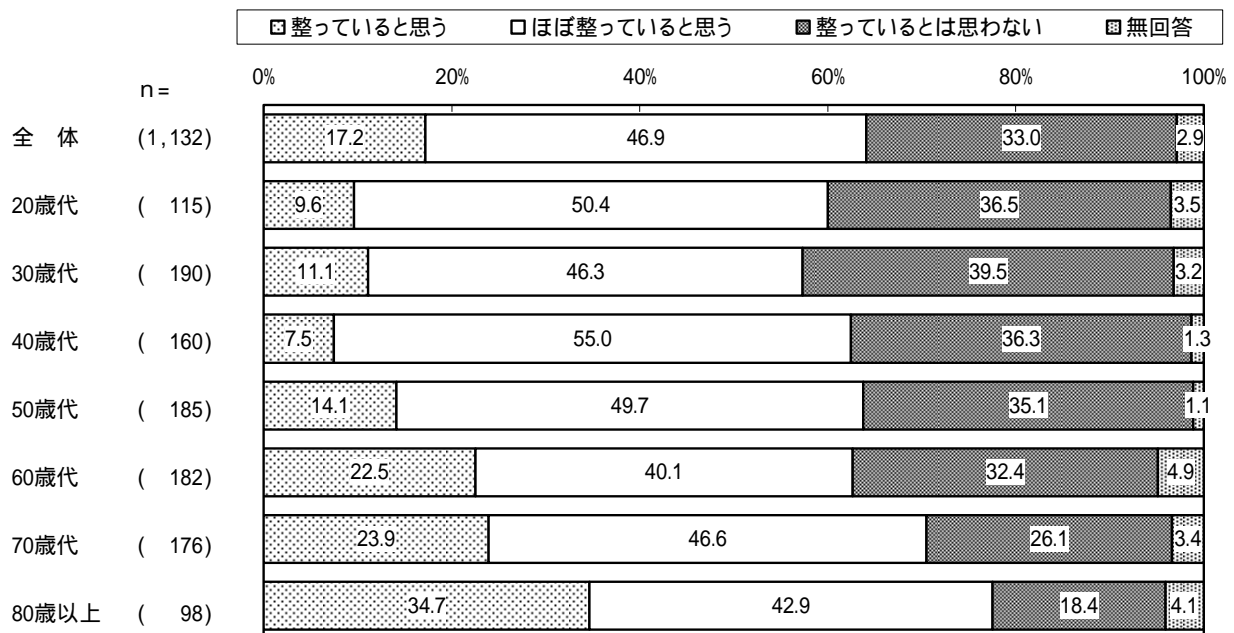
年齢別に見ると、“おおむね整っていると思う”は70歳以上では70%台と高くなっている。また、「整っているとは思わない」と答えた人は20~50歳代で30%台後半となっている。(図2-35)

居住地域別に見ると、“おおむね整っていると思う”は弥生町・新井地域で約8割と高く、一方、「整っているとは思わない」は沼袋・大和町地域で4割半と高くなっている。(図2-36)

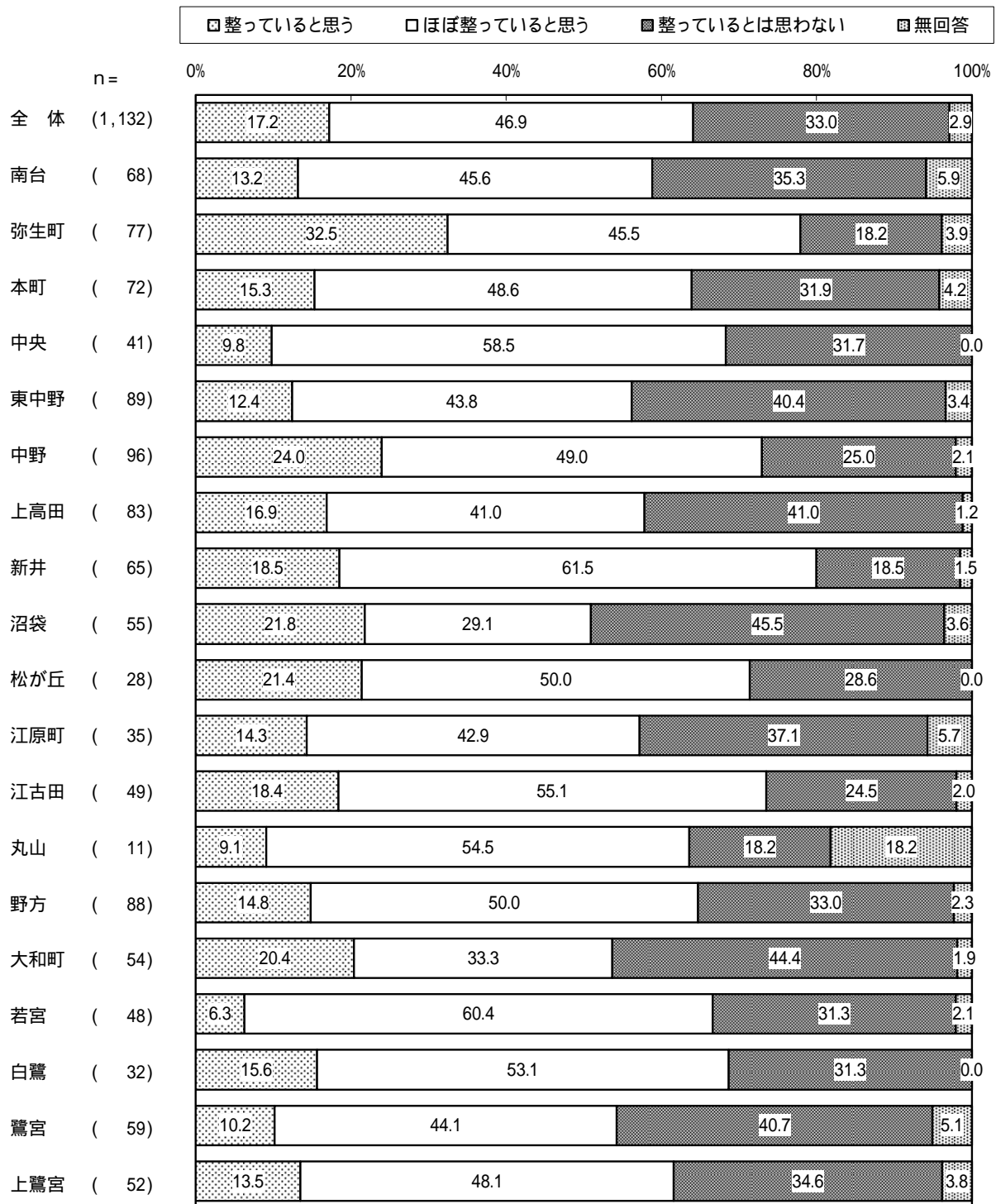
< 図 2 - 34 > 性別



< 図 2 - 35 > 年齢別



< 図 2 - 36 > 居住地域別



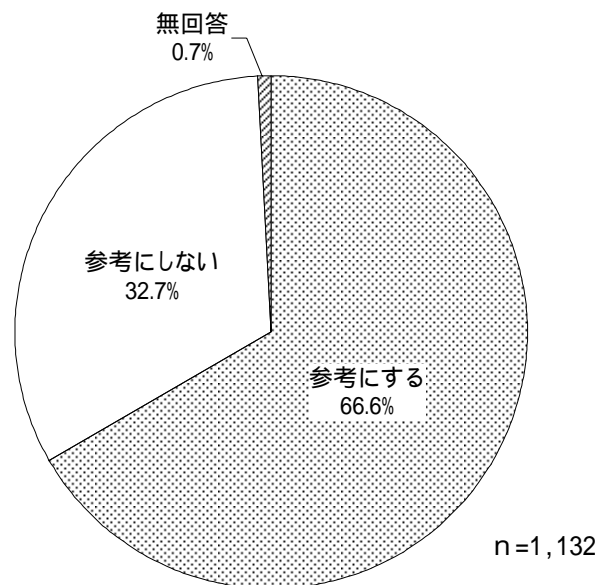
(11) 栄養成分表示の参考

栄養成分の表示を参考にすると答えた人は7割弱

(全員の方に)

問16. あなたは、食品や調理済の料理を購入する時または外食の時に、栄養成分の表示があれば参考にしますか。(は1つ)

<図2 - 37> 全体



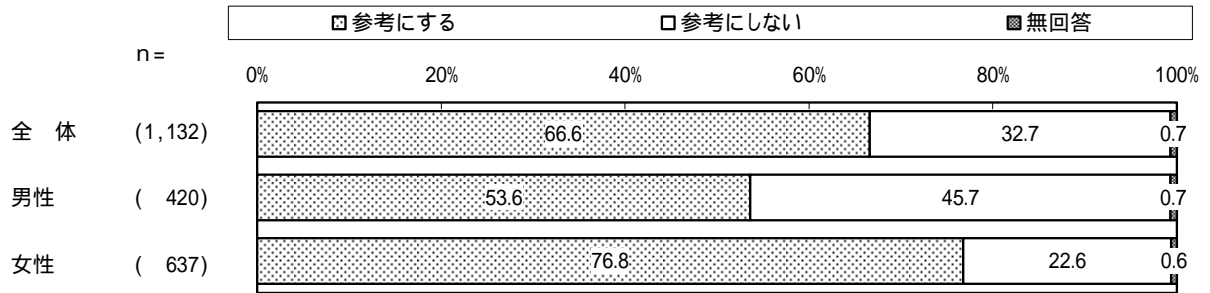
食品や調理済の料理を購入する時や外食の時に、栄養成分の表示を「参考にする」と答えた人が66.6%を占めている。一方、「参考にしない」と答えた人は32.7%となっている。

(図2 - 37)

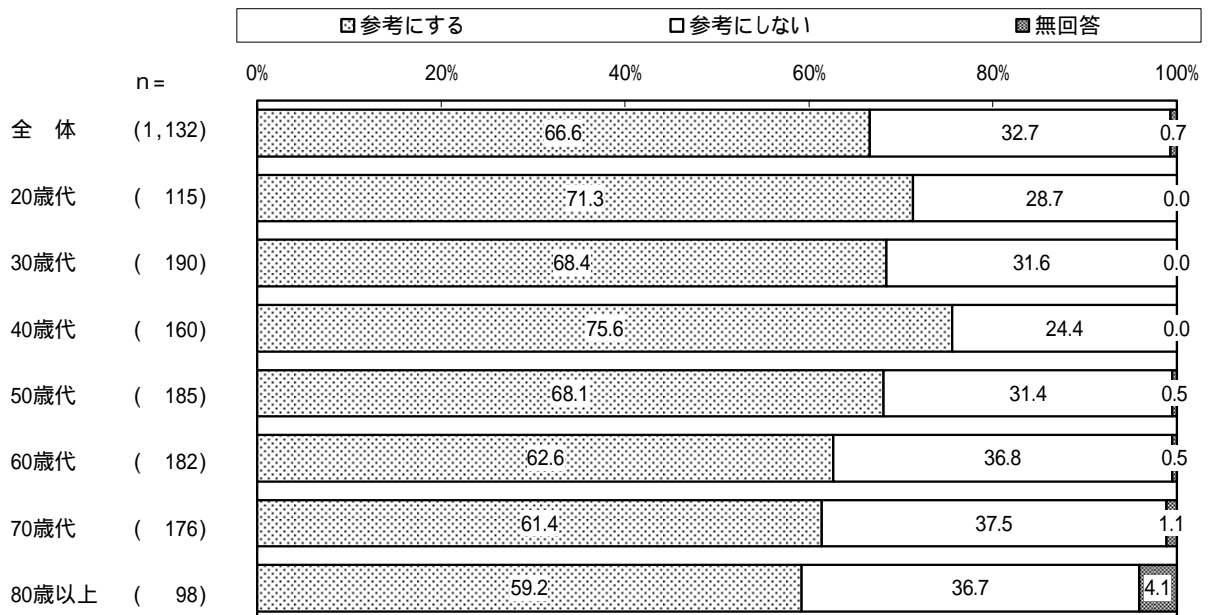
性別に見ると、「参考にする」と答えた人は女性(76.8%)が男性(53.6%)より23.2ポイント高くなっている。(図2 - 38)

年齢別に見ると、「参考にする」は40歳代では7割半ばとなっている。一方、「参考にしない」は60歳代以上で30%後半となっている。(図2 - 39)

< 図 2 - 38 > 性別



< 図 2 - 39 > 年齢別



(12) 食中毒を防ぐために家庭で行っていること

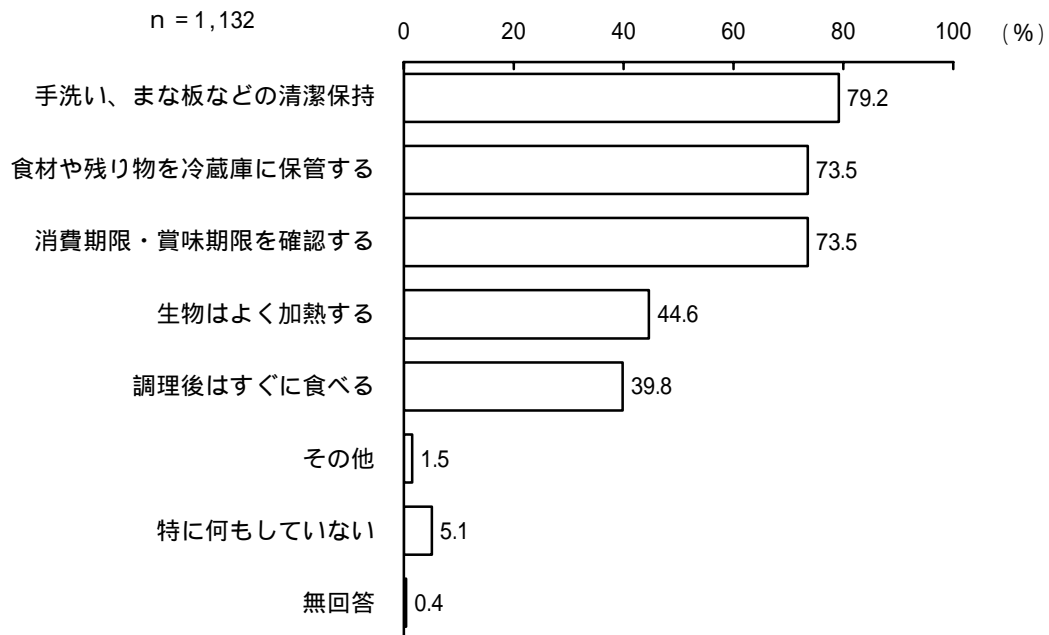
「手洗い、まな板などの清潔保持」が8割

(全員の方に)

問17. あなたが、食中毒を防ぐために家庭でいつも行っていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに)

<図2 - 40> 全体

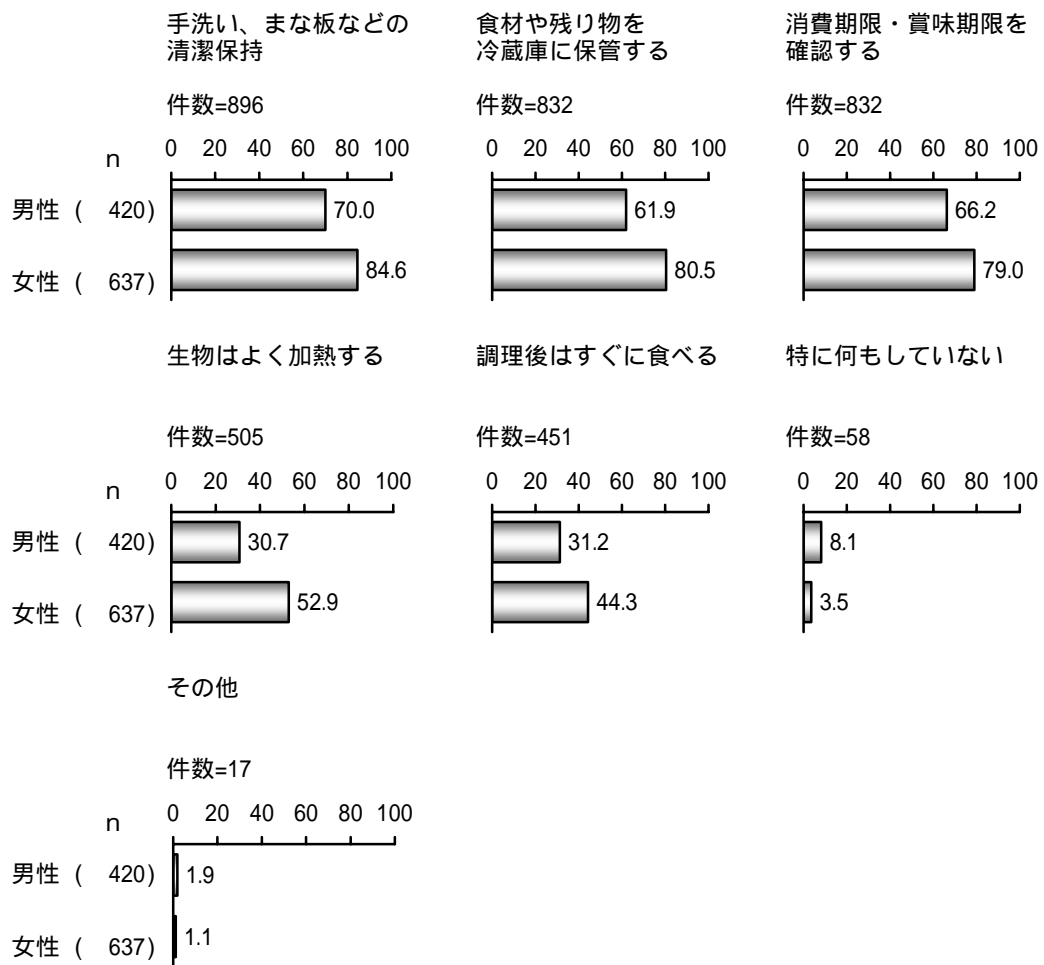


食中毒を防ぐために家庭でいつも行っていることは、「手洗い、まな板などの清潔保持」(79.2%)が最も多く、次いで、「食材や残り物を冷蔵庫に保管する」「消費期限・賞味期限を確認する」(73.5%)も7割以上となっている。以下、「生物はよく加熱する」(44.6%)、「調理後はすぐに食べる」(39.8%)となっている。(図2 - 40)

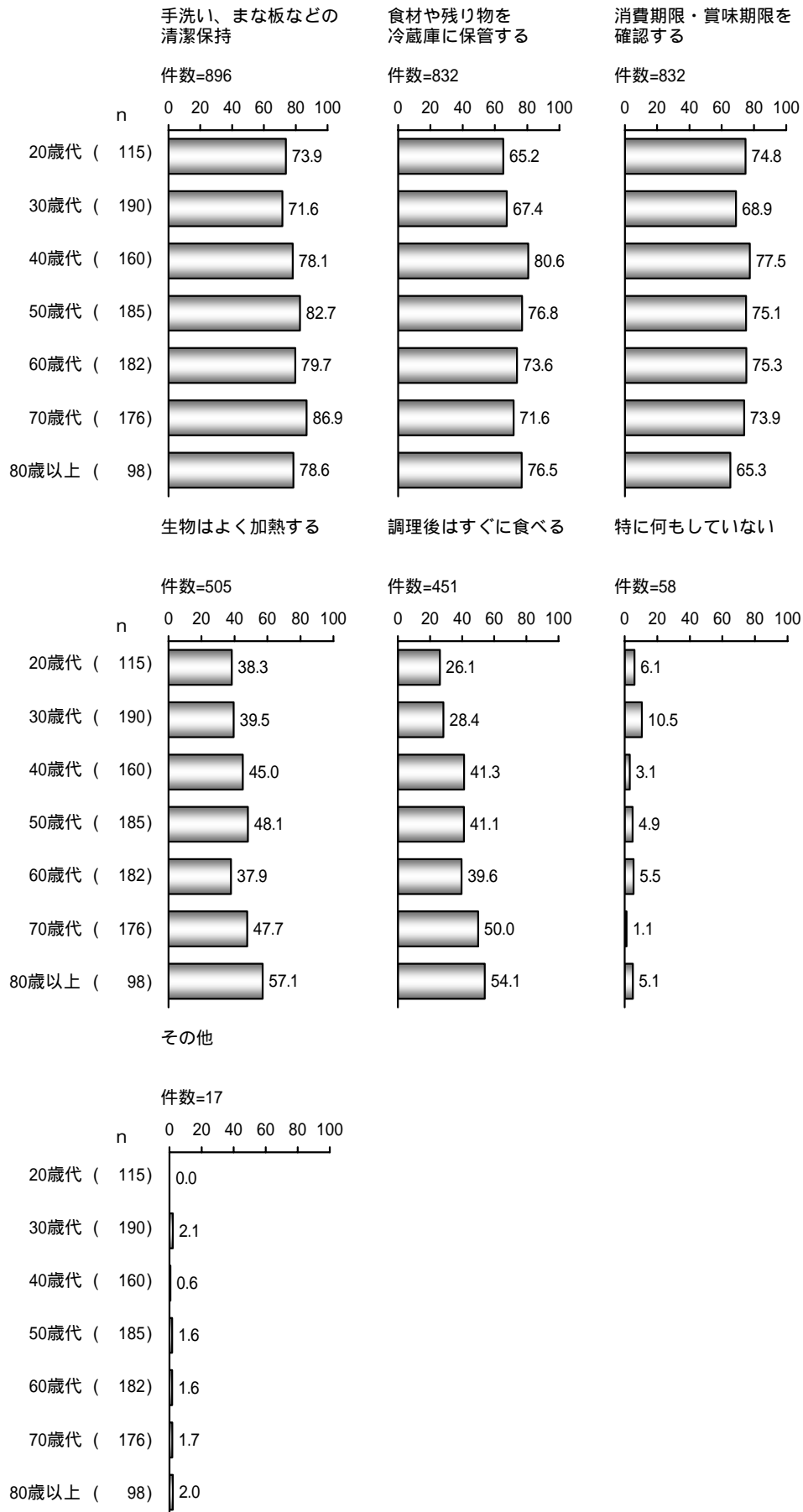
性別に見ると、すべての項目で男性より女性の方が高くなっている。(図2 - 41)

年齢別に見ると、「手洗い、まな板などの清潔保持」は、全年齢で70%以上と高くなっており、特に70歳代では86.9%と高くなっている。一方、「特に何もしていない」は、30歳代で10.5%となっている。(図2 - 42)

< 図 2 - 41 > 性別



< 図 2 - 42 > 年齢別



(13) うつ病に関して相談することへの抵抗感

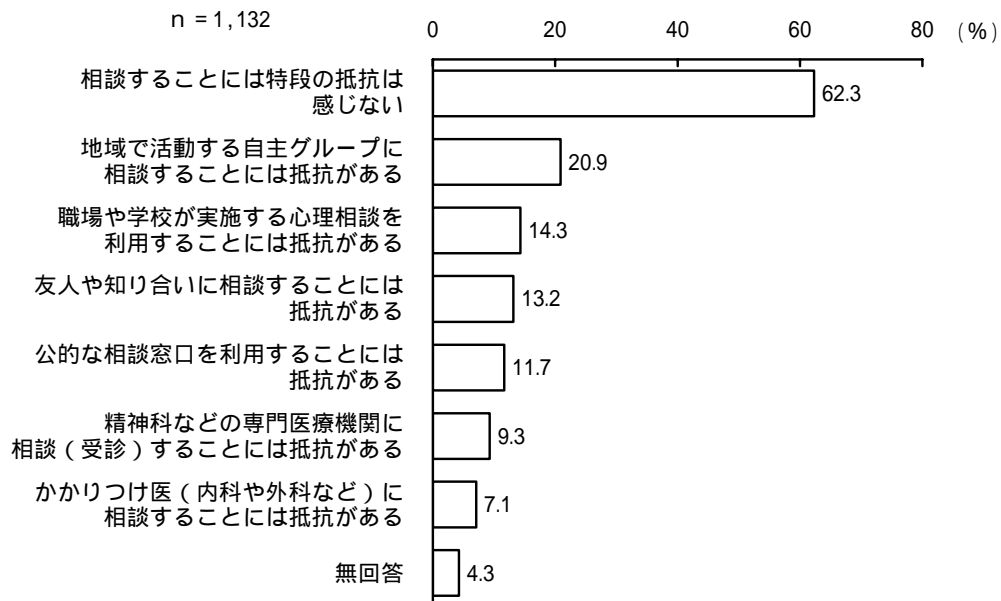
「相談することには特段の抵抗は感じない」が6割強

(全員の方向に)

問18.「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたのお考えに近いのはどれですか。

(あてはまるものすべてに)

< 図 2 - 43 > 全体

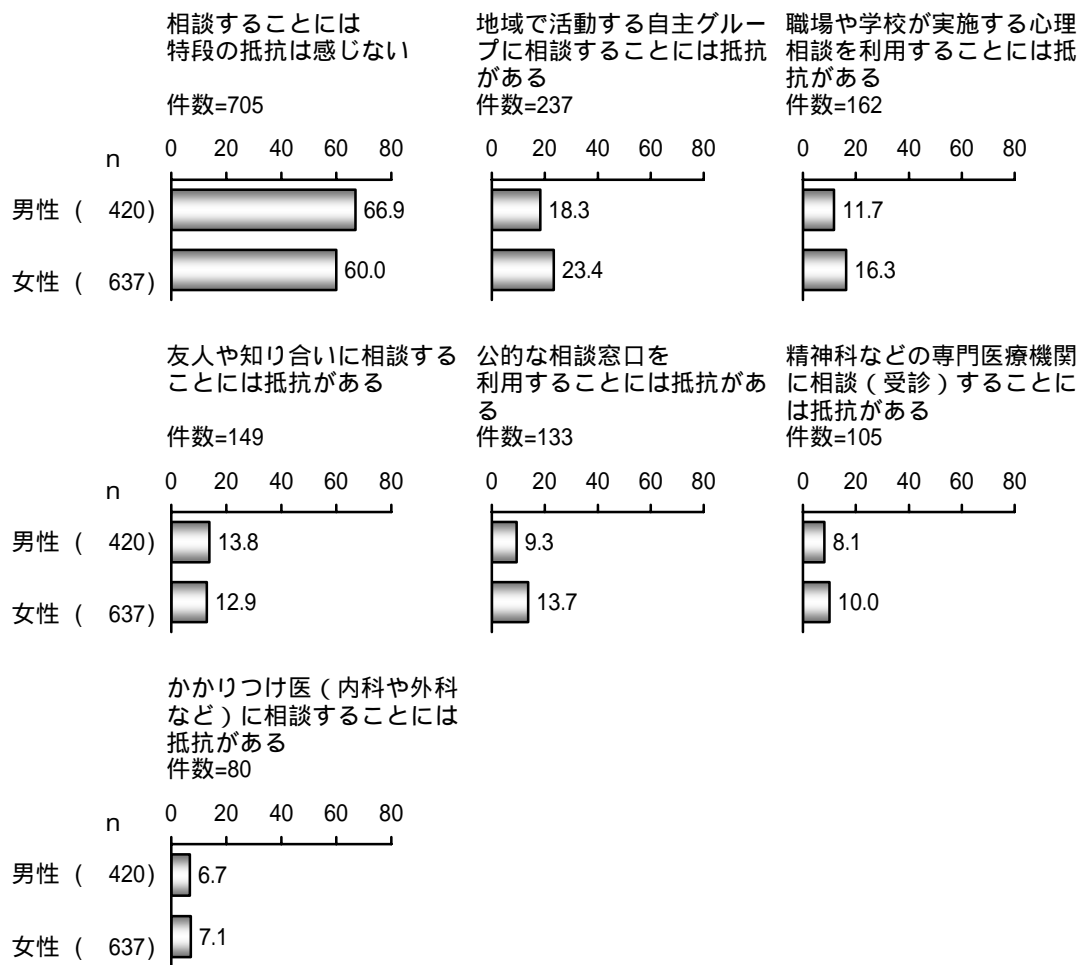


自分や家族がうつ病になったとき、相談することについては、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人が62.3%で最も多くなっている。以下、「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」(20.9%)、「職場や学校が実施する心理相談を利用することには抵抗がある」(14.3%)、「友人や知り合いに相談することには抵抗がある」(13.2%)、「公的な相談窓口を利用することには抵抗がある」(11.7%)、「精神科などの専門医療機関に相談(受診)することには抵抗がある」(9.3%)、「かかりつけ医(内科や外科など)に相談することには抵抗がある」(7.1%)の順になっている。(図2-43)

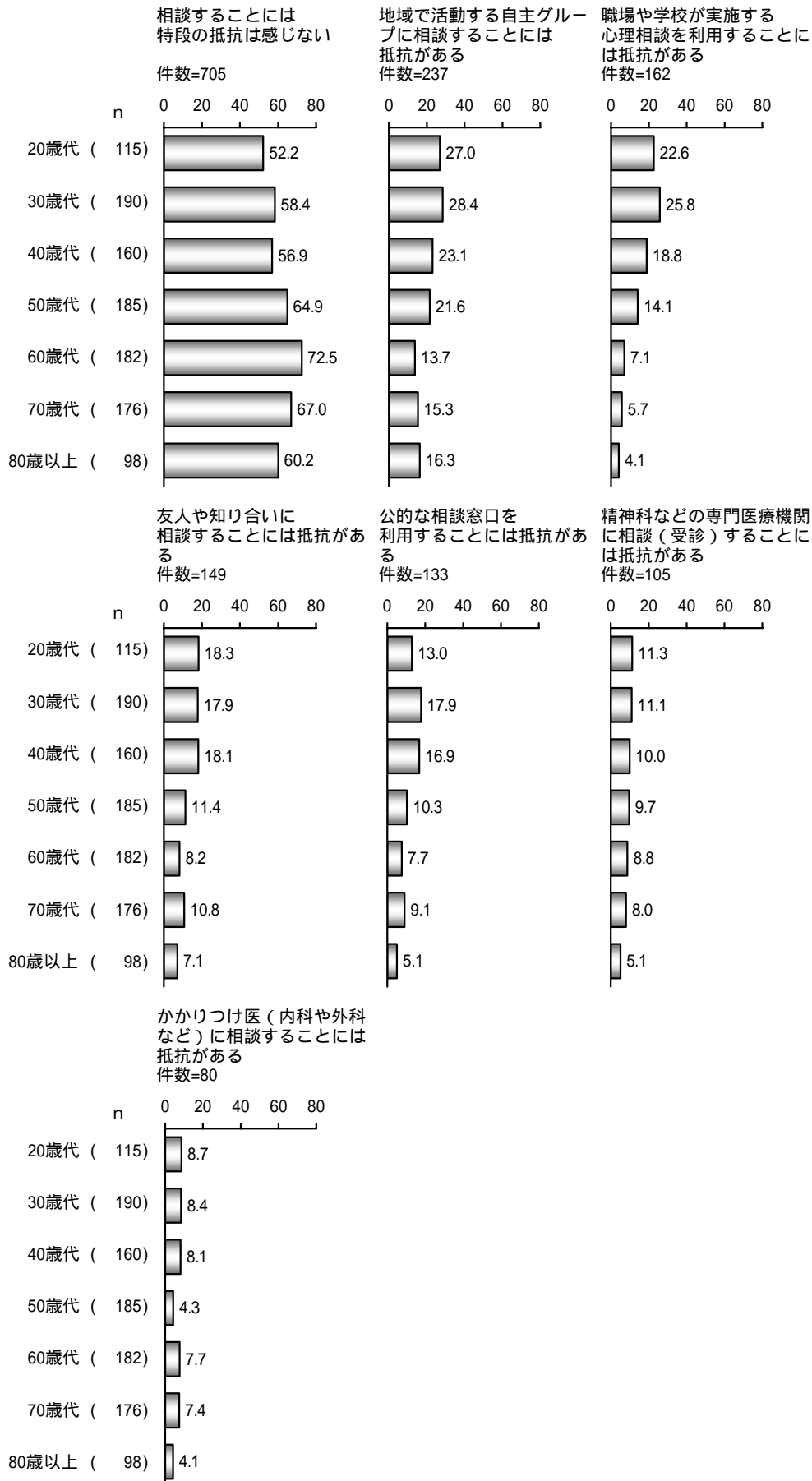
性別に見ると、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人では男性(66.9%)が女性(60.0%)より6.9ポイント高くなっている。また、「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」と答えた人では女性(23.4%)が男性(18.3%)より5.1ポイント高くなっている。(図2-44)

年齢別に見ると、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人は60~70歳代で70%前後と高くなっている。また、「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」と答えた人では20歳代と30歳代で、約30%と高くなっている。(図2-45)

< 図 2 - 44 > 性別



< 図 2 - 45 > 年齢別



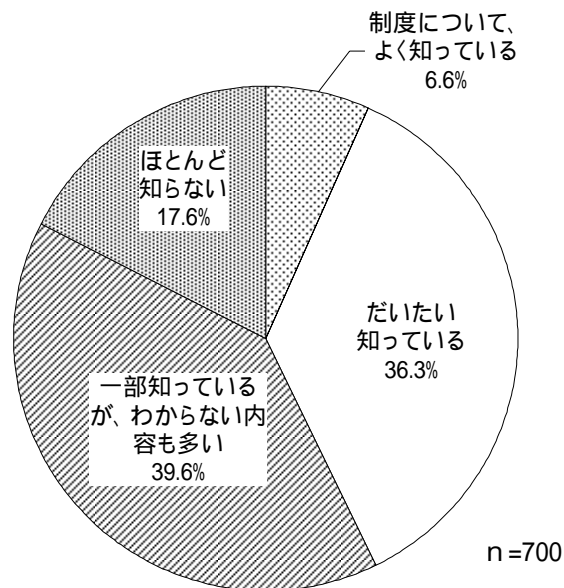
(14) 国民健康保険制度のしくみを認識している度合い

「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせると4割強

(国民健康保険に加入されている方に)

問19. あなたは、国民健康保険のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか。(は1つ)

< 図 2 - 46 > 全体

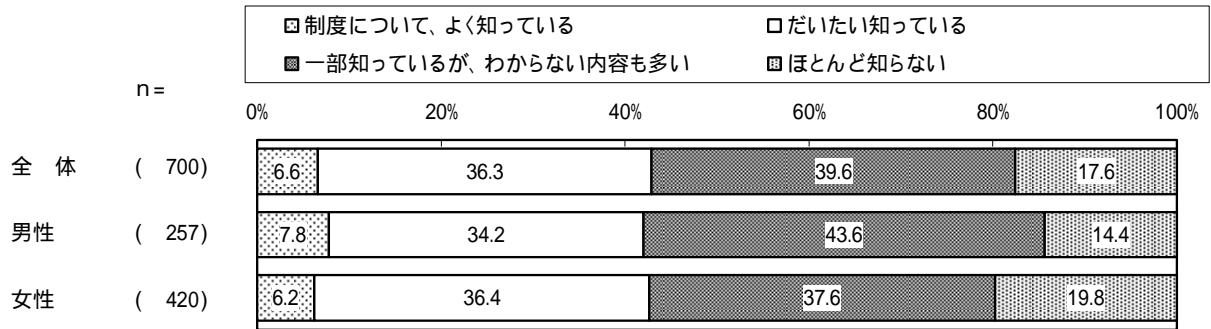


国民健康保険に加入している人に、国民健康保険制度のしくみについてどの程度知っているか聞いたところ、「制度について、よく知っている」と答えた人が6.6%、「だいたい知っている」と答えた人が36.3%で、この両者を合わせた“おおむね知っている”が4割強となっている。また、「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は39.6%、「ほとんど知らない」と答えた人は17.6%となっている。(図2-46)

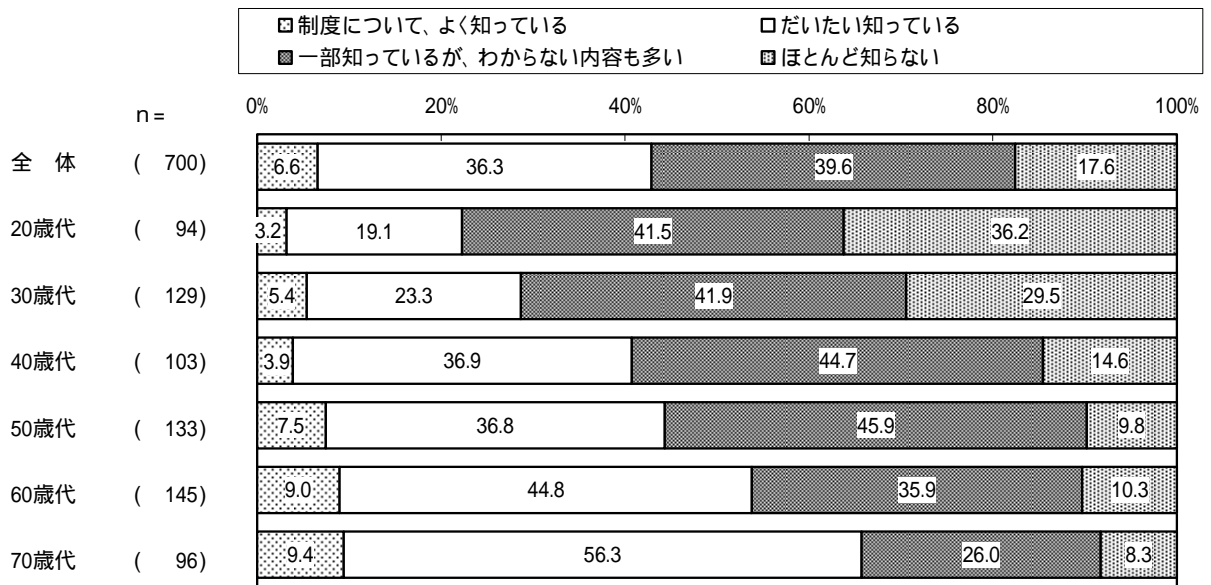
性別に見ると、「ほとんど知らない」と答えた人は女性が(19.8%)が男性(14.4%)より5.4ポイント高くなっている。(図2-47)

年齢別に見ると、“おおむね知っている”と答えた人は年齢が上がるほど割合が高く、特に70歳代では6割半ばと高くなっている。「ほとんど知らない」と答えた人は20歳代で3割半ばとなっている。(図2-48)

< 図 2 - 47 > 性別



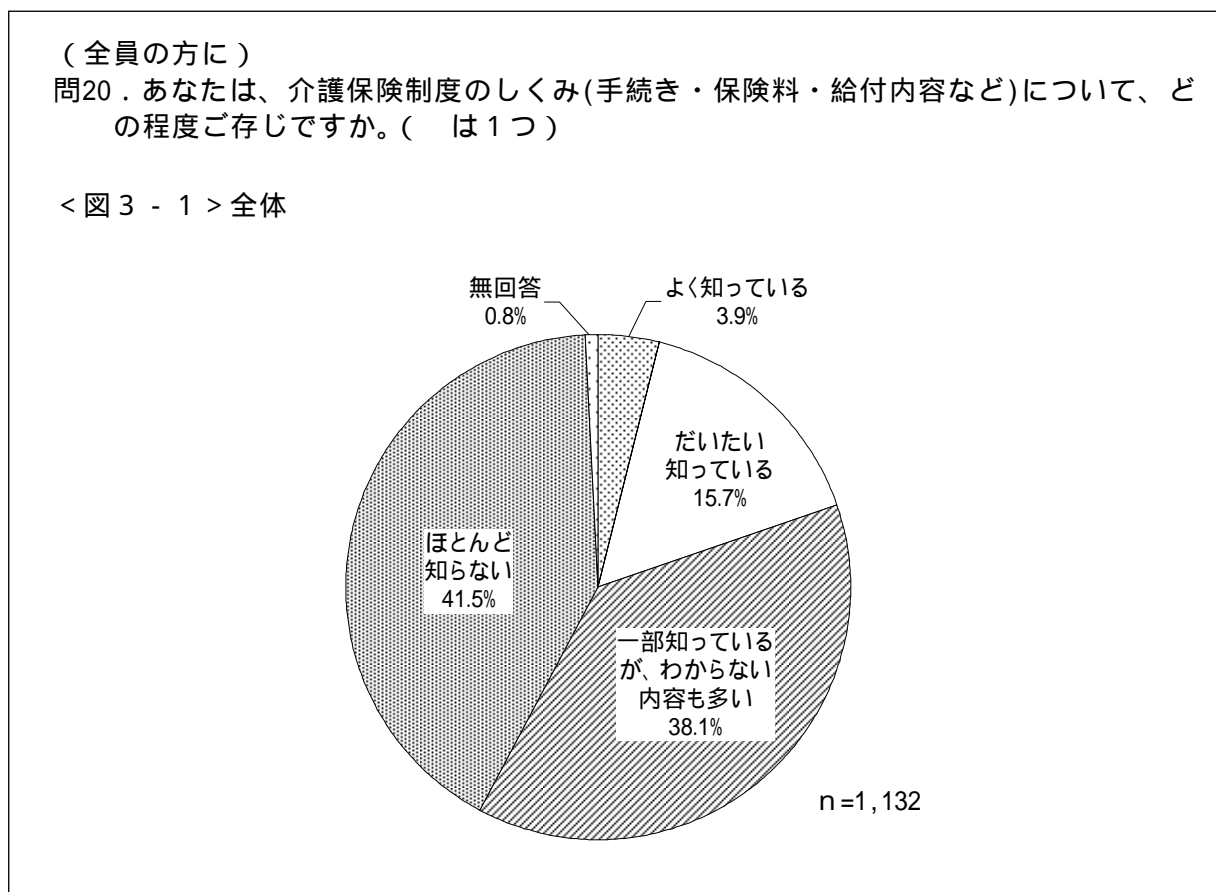
< 図 2 - 48 > 年齢別



3 . 介護保険制度などについて

(1) 介護保険制度のしくみを認識している度合い

“ おおむね知っている ” が 2 割、一方、「ほとんど知らない」が 4 割強



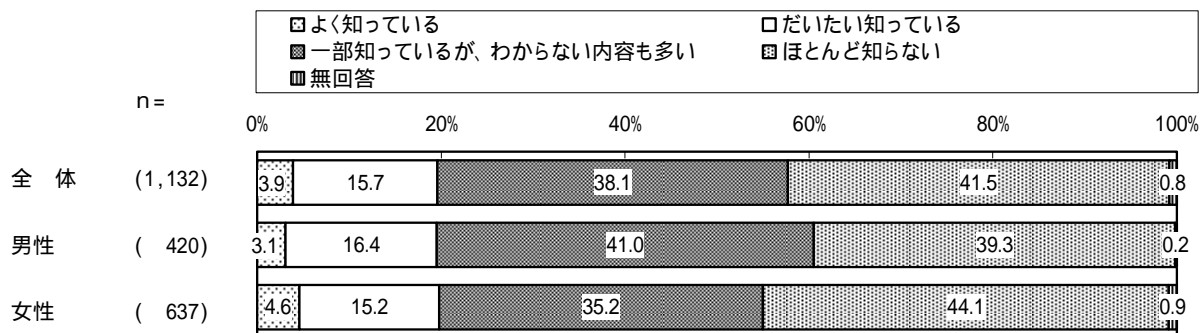
介護保険制度のしくみについては、「よく知っている」と答えた人は 3.9%、「だいたい知っている」と答えた人は 15.7%で、この両者を合わせた“ おおむね知っている ” が 2 割である。「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は 38.1%、「ほとんど知らない」と答えた人は 41.5%となっている。(図 3 - 1)

性別に見ると、「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は男性(41.0%) が女性(35.2%) より 5.8 ポイント高く、「ほとんど知らない」と答えた人は女性(44.1%) が男性(39.3%) より 4.8 ポイント高くなっている。(図 3 - 2)

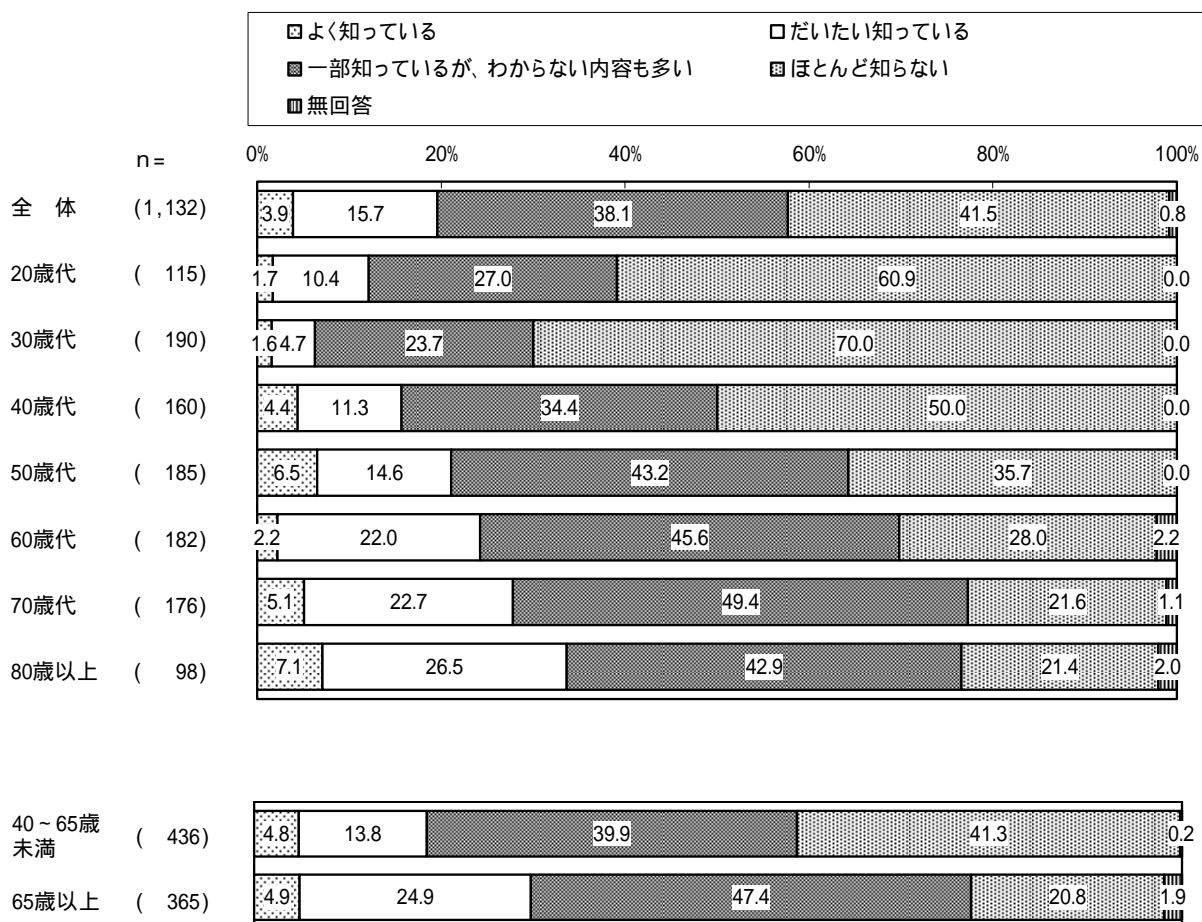
年齢別に見ると、“ おおむね知っている ” は 70 歳以上で 30%前後と高くなっている。一方、「一部知っているが、わからない内容も多い」と「ほとんど知らない」を合わせた “ あまり知らない ” は、20 歳代と 30 歳代で 90%前後と非常に高くなっている。

(図 3 - 3)

< 図 3 - 2 > 性別



< 図 3 - 3 > 年齢別



(2) 介護保険制度をよくなるための取組

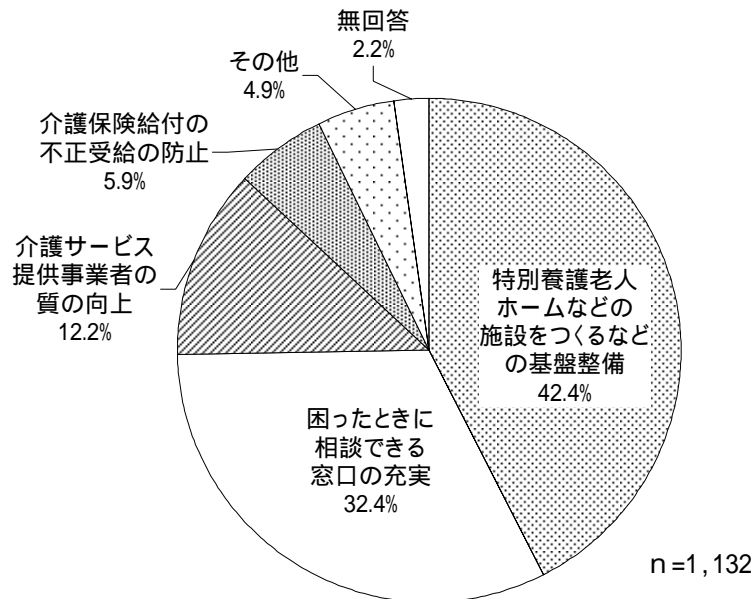
「特別養護老人ホームなどの施設をつくるなどの基盤整備」が4割強

(全員の方に)

問21. 介護保険制度をよくなるために区がもっとも力を入れるべきことは何ですか。

(は1つ)

< 図3 - 4 > 全体



介護保険制度をよくなるために区がもっとも力を入れるべきことは、「特別養護老人ホームなどの施設をつくるなどの基盤整備」と答えた人が42.4%と最も多くなっている。以下、「困ったときに相談できる窓口の充実」(32.4%)、「介護サービス提供事業者の質の向上」(12.2%)、「介護保険給付の不正受給の防止」(5.9%)の順になっている。

(図3 - 4)

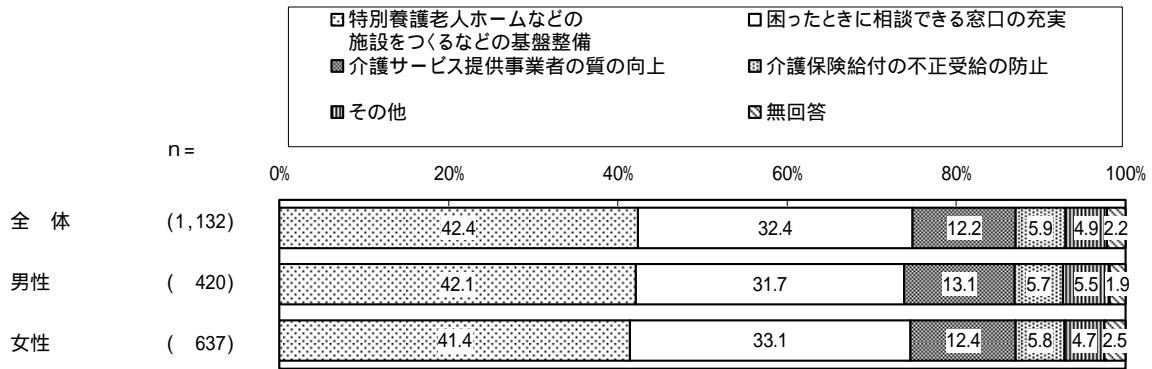
性別に見ると、大きな差は見られない。(図3 - 5)

年齢別に見ると、「特別養護老人ホームなどの施設をつくるなどの基盤整備」と答えた人は60歳代で50.5%と高くなっている。また、「困ったときに相談できる窓口の充実」と答えた人は40歳代と50歳代で30%台後半と高くなっている。(図3 - 6)

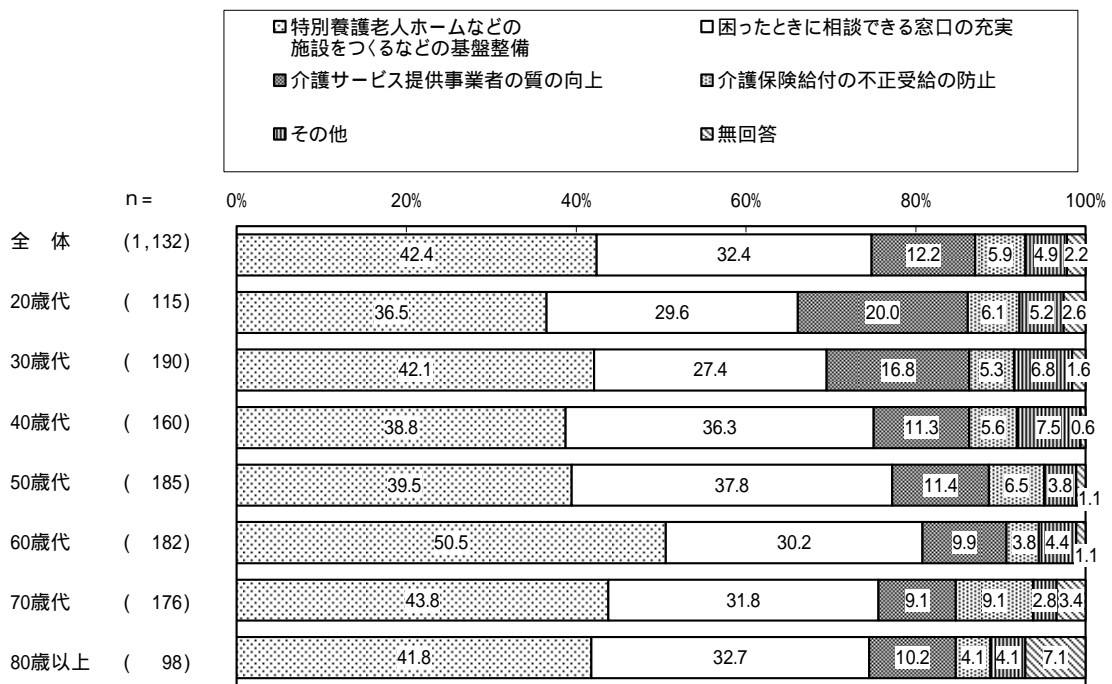
世帯構成別に見ると、「特別養護老人ホームなどの施設をつくるなどの基盤整備」と答えた人はいずれも3割半を超えており、特に夫婦のみ世帯で45.8%と高くなっている。

(図3 - 7)

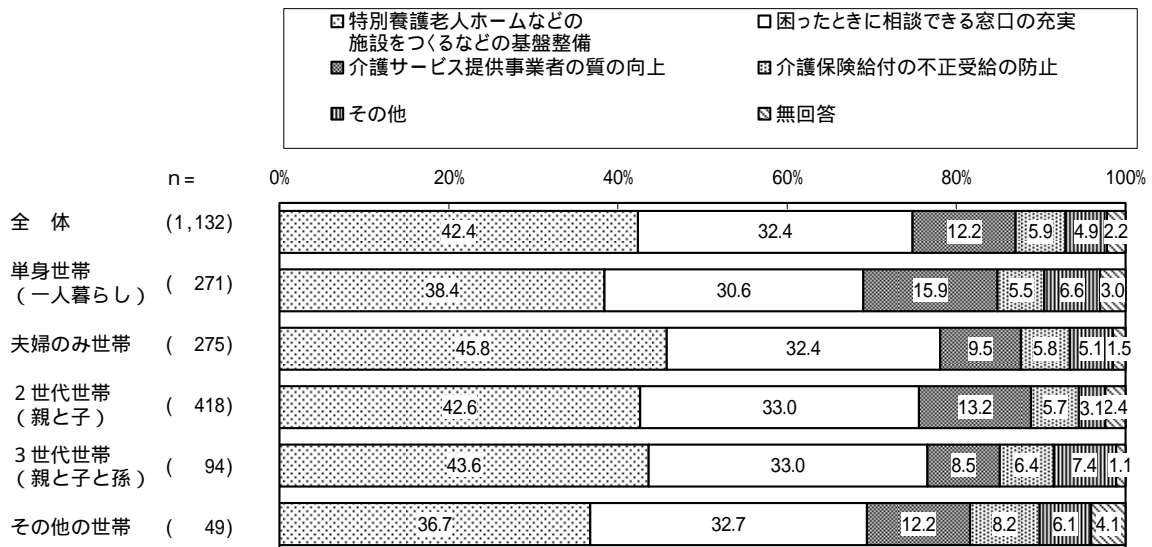
< 図 3 - 5 > 性別



< 図 3 - 6 > 年齢別



< 図 3 - 7 > 世帯構成別



(3) 認知症の症状や対応方法を理解している割合

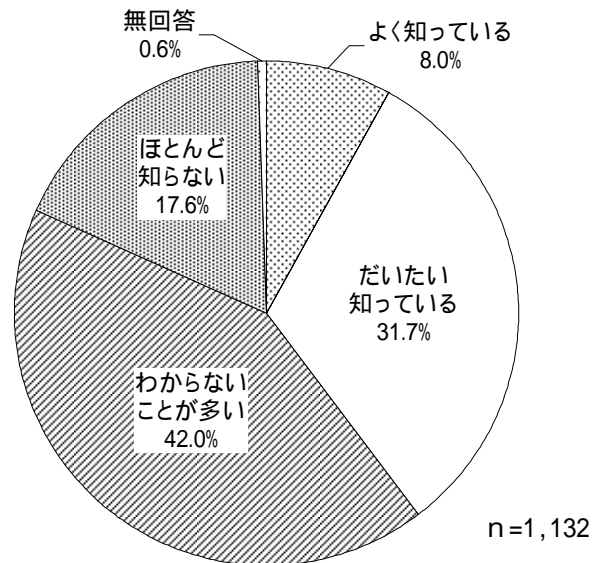
「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせると4割

(全員の方に)

問22. あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。

(は1つ)

< 図3 - 8 > 全体

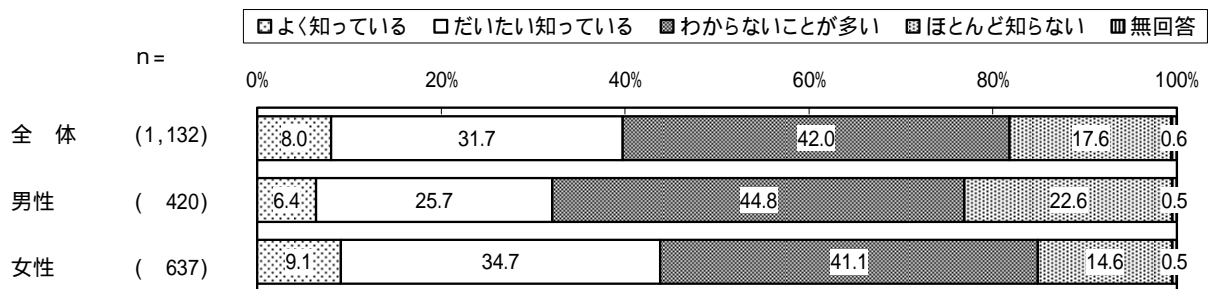


認知症の症状や対応方法について、「よく知っている」と答えた人は8.0%、「だいたい知っている」と答えた人は31.7%で、この両者を合わせた“おおむね知っている”が4割となっている。一方、「わからないことが多い」と答えた人は42.0%、「ほとんど知らない」と答えた人は17.6%となっている。(図3 - 8)

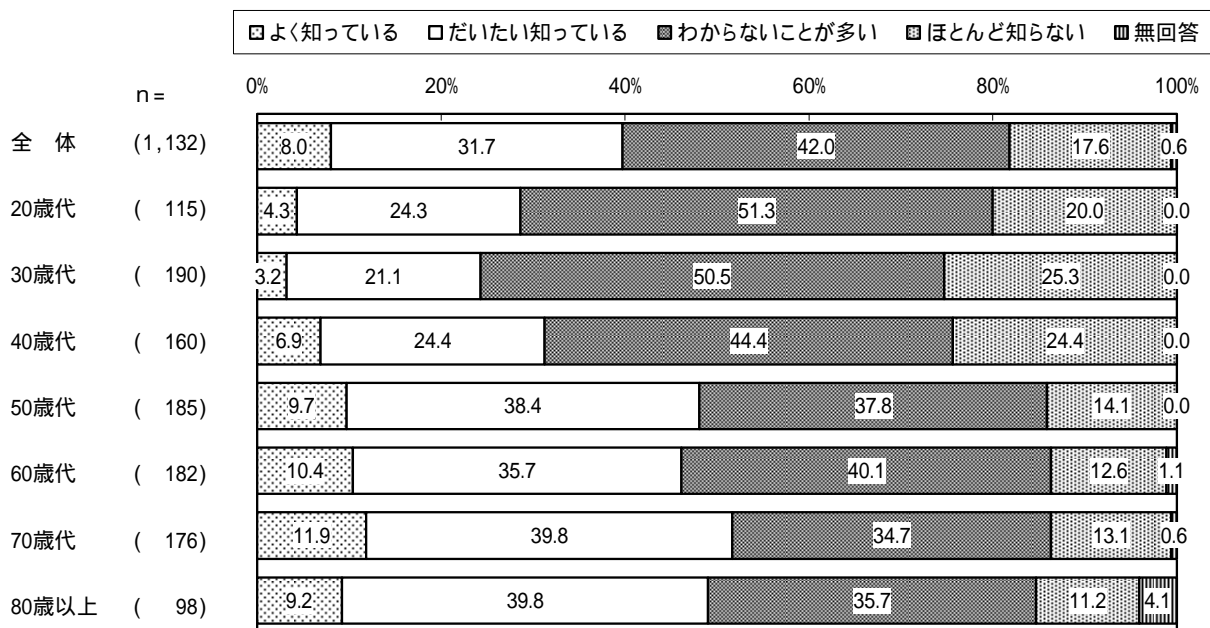
性別に見ると、“おおむね知っている”と答えた人は女性(43.8%)が男性(32.1%)より11.7ポイント高くなっている。一方、「ほとんど知らない」と答えた人は男性(22.6%)が女性(14.6%)より8.0ポイント高くなっている。(図3 - 9)

年齢別に見ると、“おおむね知っている”と答えた人は40歳代以下の年代に比べて、50歳代以上の年代で割合が高くなっている。一方、「わからないことが多い」と答えた人は20歳代と30歳代で50%台前半と高くなっている。(図3 - 10)

< 図 3 - 9 > 性別



< 図 3 - 10 > 年齢別



(4) 地域包括支援センターを認識している度合い

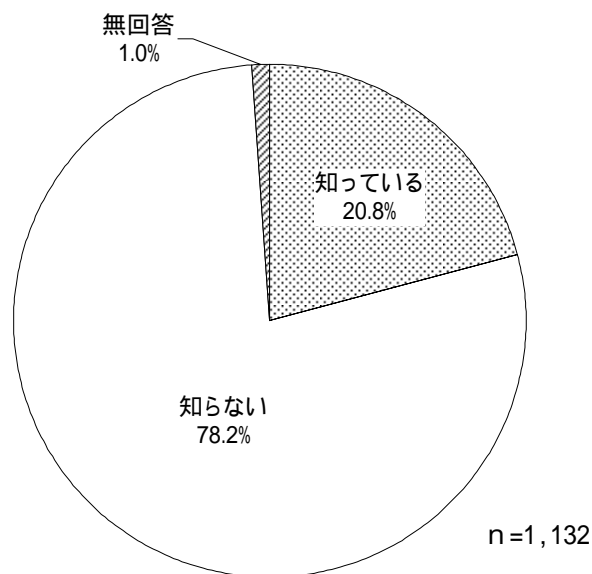
知っている人は2割

(全員の方に)

問23. 高齢者の介護予防や在宅生活を支える各種相談を行う地域包括支援センターが区内に8か所設置されています。

あなたは、ご自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターはどこか(名称・所在地など)ご存じですか。(は1つ)

<図3-11> 全体



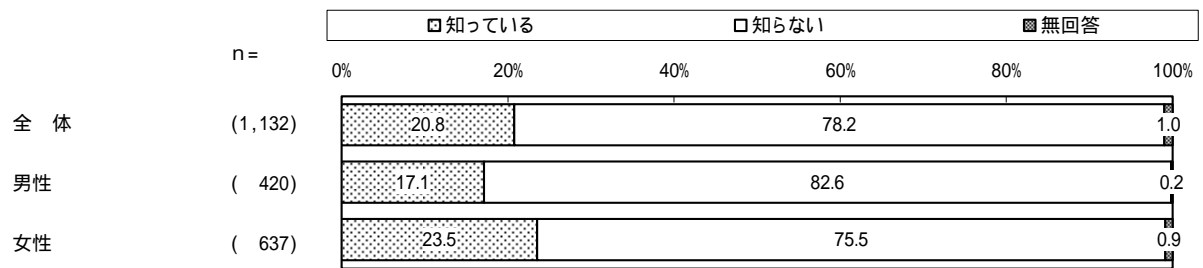
自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターを「知っている」と答えた人は20.8%、「知らない」と答えた人は78.2%となっている。(図3-11)

性別に見ると、「知っている」と答えた人は女性(23.5%)が男性(17.1%)より6.4ポイント高くなっている。(図3-12)

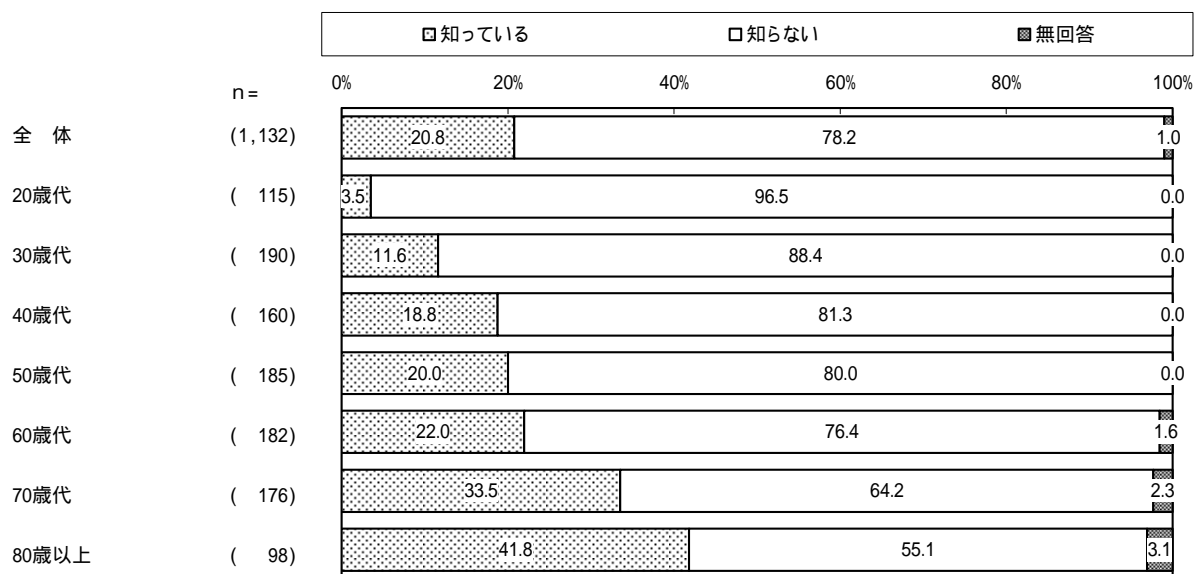
年齢別に見ると、「知っている」と答えた人は年齢が上がるほど割合が高くなっており、特に80歳以上で41.8%と高くなっている(図3-13)

介護保険制度のしくみを認識している度合い(67ページ問20)別に見ると、「知っている」と答えた人は、介護保険制度をよく知っている人で7割、だいたい知っている人で4割と高くなっている。(図3-14)

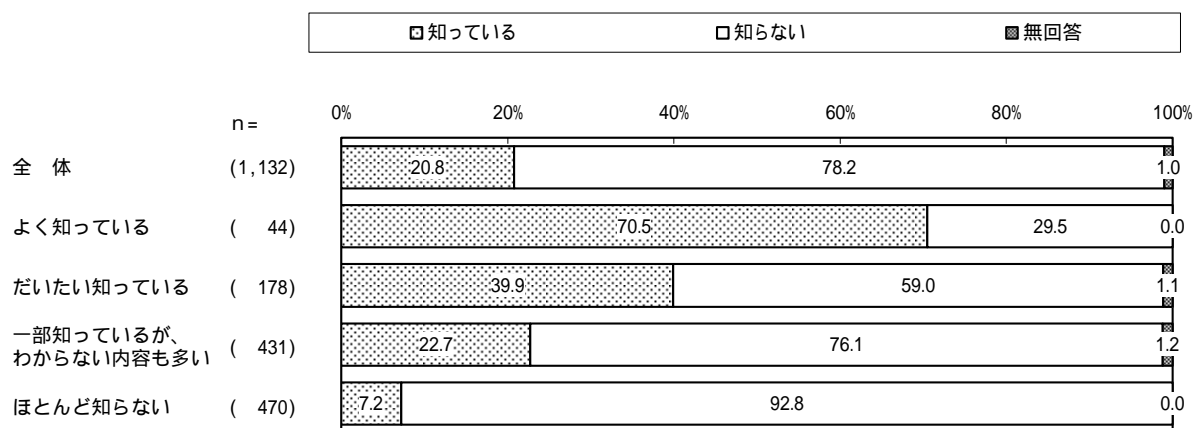
< 図 3 - 12 > 性別



< 図 3 - 13 > 年齢別



< 図 3 - 14 > 介護保険制度のしくみを認識している度合い（問 20）別



(5) 介護予防を意識している度合い

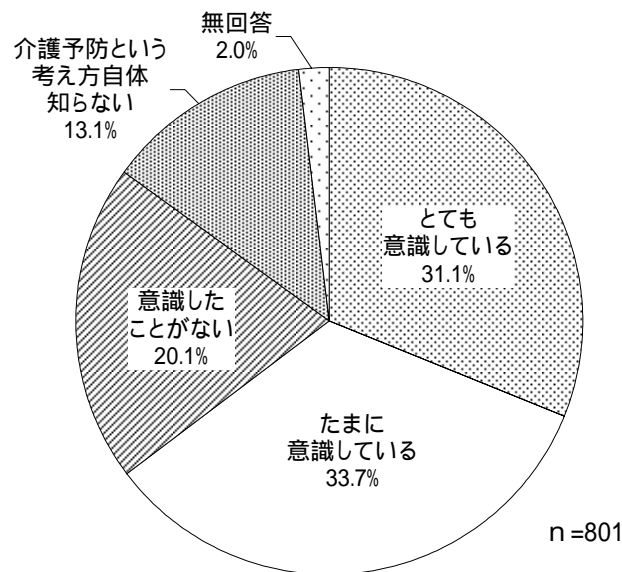
「とても意識している」と「たまに意識している」を合わせると6割半

(40歳以上の方に)

問24. 寝たきりにならない、介護を必要としないよう心身の衰えを予防する「介護予防」という考え方が普及しています。あなたは日頃、介護予防を意識していますか。

(は1つ)

< 図3 - 15 > 全体

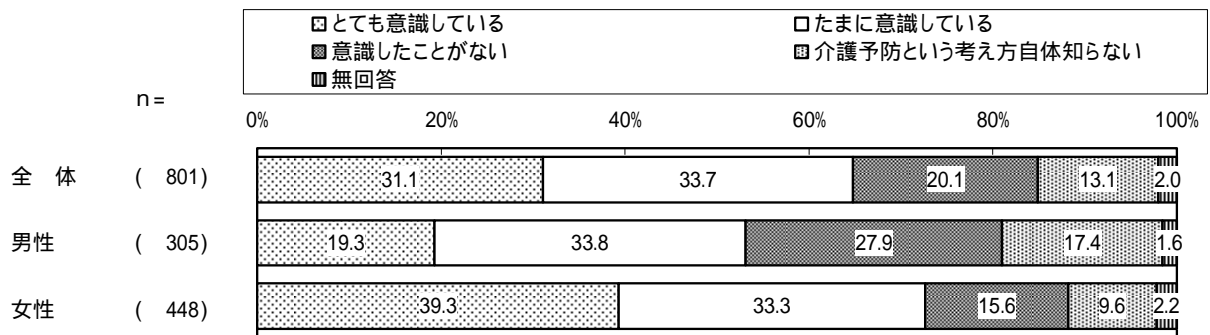


日頃の生活習慣における介護予防を「とても意識している」と答えた人は31.1%、「たまに意識している」と答えた人は33.7%で、この両者を合わせた“意識している”が6割半となっている。一方、「意識したことがない」と答えた人は20.1%、「介護予防という考え方自体知らない」と答えた人は13.1%となっている。(図3 - 15)

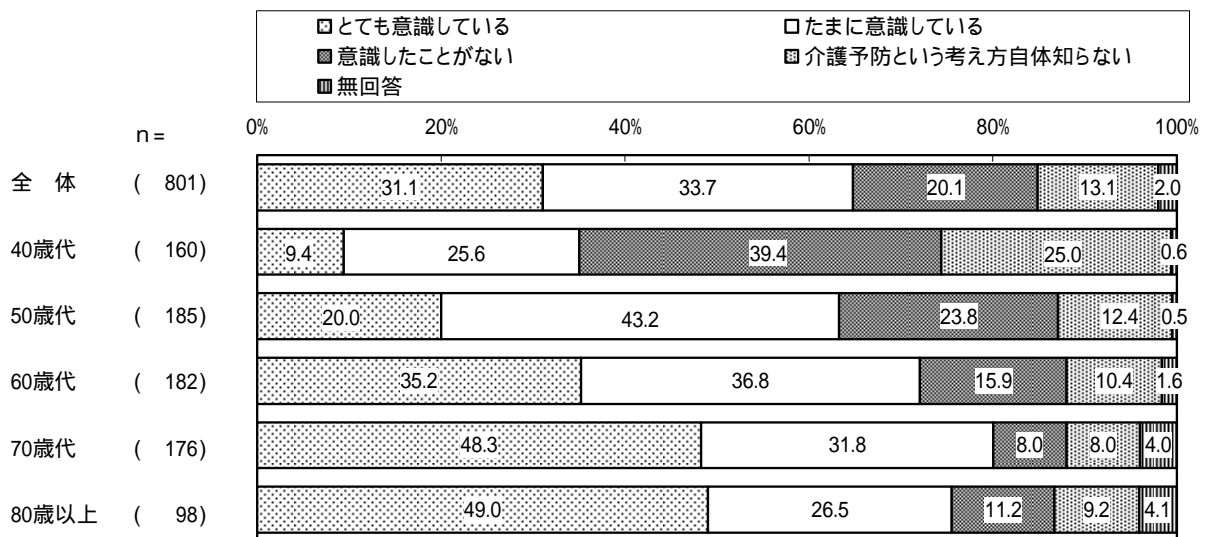
性別に見ると、「とても意識している」と答えた人は女性(39.3%)が男性(19.3%)よりも20.0ポイント高くなっている。一方、「意識したことがない」と答えた人は男性(27.9%)が女性(15.6%)より12.3ポイント高くなっている。(図3 - 16)

年齢別に見ると、「とても意識している」と答えた人は年齢が上がるほど割合が高くなっており、特に70歳代以上で5割近くと高くなっている。一方、「意識したことがない」と答えた人は40歳代で39.4%と高くなっている。(図3 - 17)

< 図 3 - 16 > 性別



< 図 3 - 17 > 年齢別



(6) 地域の犬や猫の飼い主のマナー

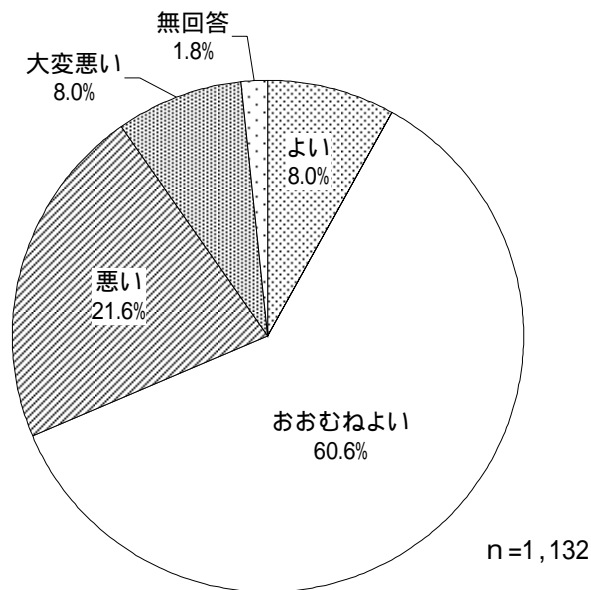
「よい」と「おおむねよい」を合わせると7割弱

(全員の方に)

問28. あなたのお住まいの地域で犬や猫の飼い主のマナーをどのように感じますか。

(は1つ)

<図3 - 18> 全体



お住まいの地域で犬や猫の飼い主のマナーは、「よい」と答えた人は8.0%、「おおむねよい」と答えた人は60.6%で、この両者を合わせた“よいと感じる”が7割弱となっている。一方、「悪い」と答えた人は21.6%、「大変悪い」と答えた人は8.0%となっている。

(図3 - 18)

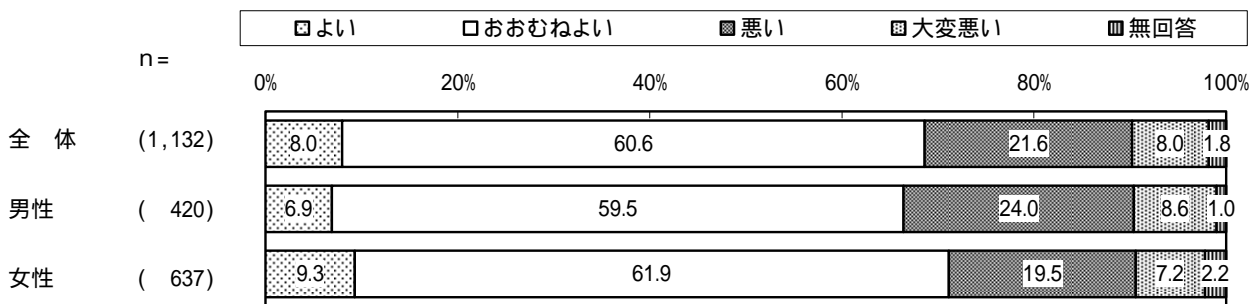
性別に見ると、“よいと感じる”は女性(71.2%)が男性(66.4%)より4.8ポイント高くなっている。(図3 - 19)

年齢別に見ると、“よいと感じる”は年齢が低いほど割合が高くなる傾向が見られる。一方、「大変悪い」と答えた人は70歳代以上で10%台前半となっている。(図3 - 20)

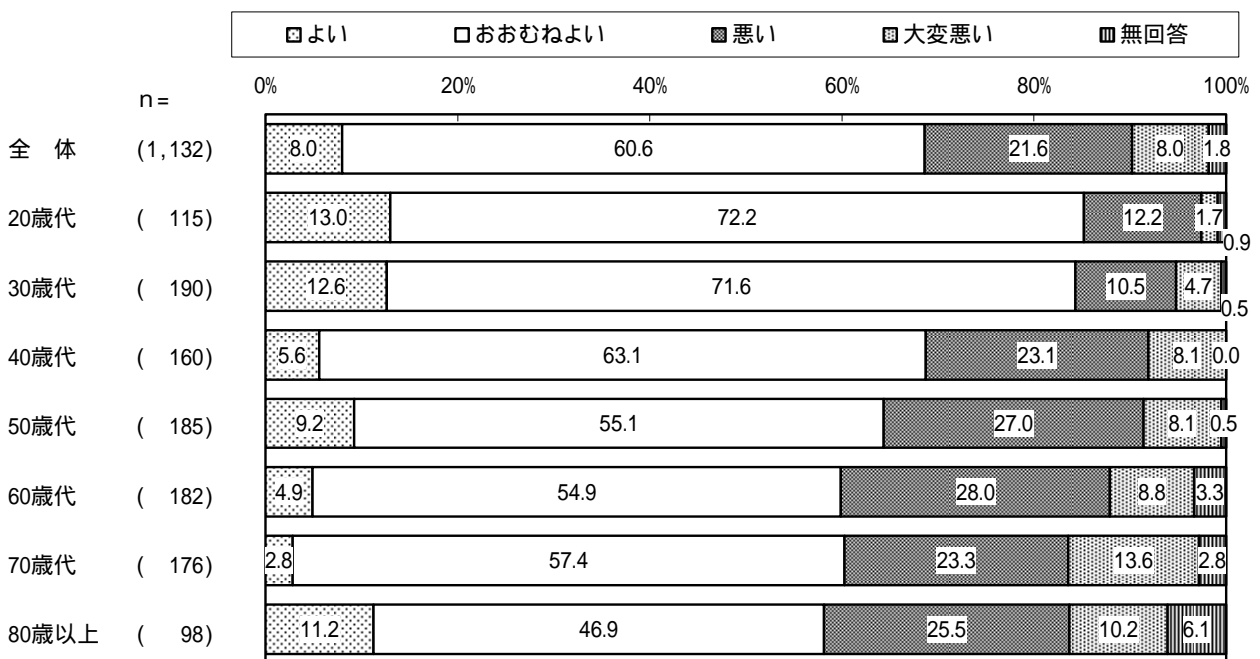
居住地域別に見ると、“よいと感じる”は丸山で約90%と特に高く、上鷲宮・中野・東中野・松が丘地域でも70%後半と高くなっている。一方、「大変悪い」と答えた人は弥生町・大和町・本町・江原町・若宮・江古田・鷲宮地域で10%台前半となっている。

(図3 - 21)

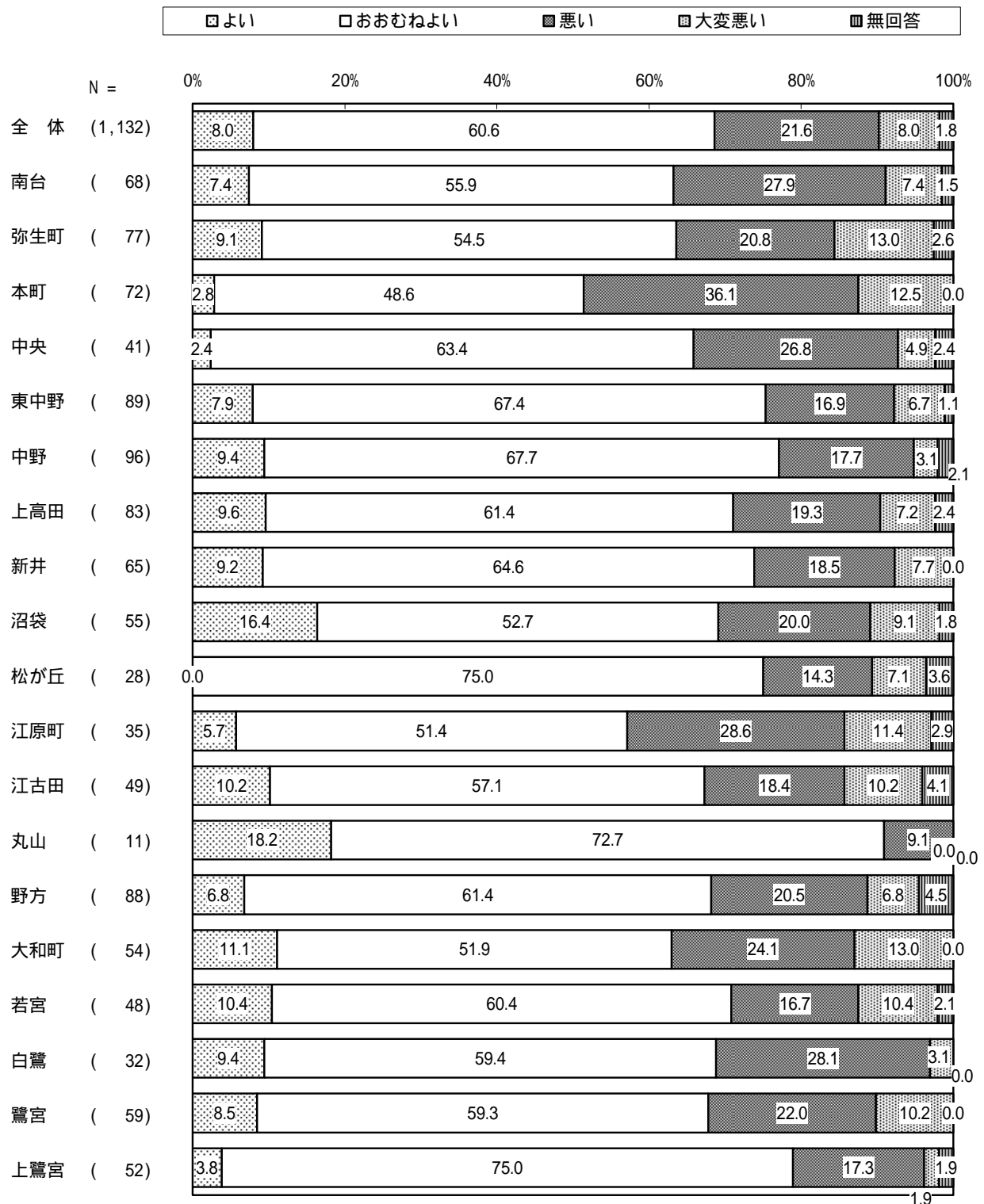
< 図 3 - 19 > 性別



< 図 3 - 20 > 年齢別



< 図 3 - 21 > 居住地域別



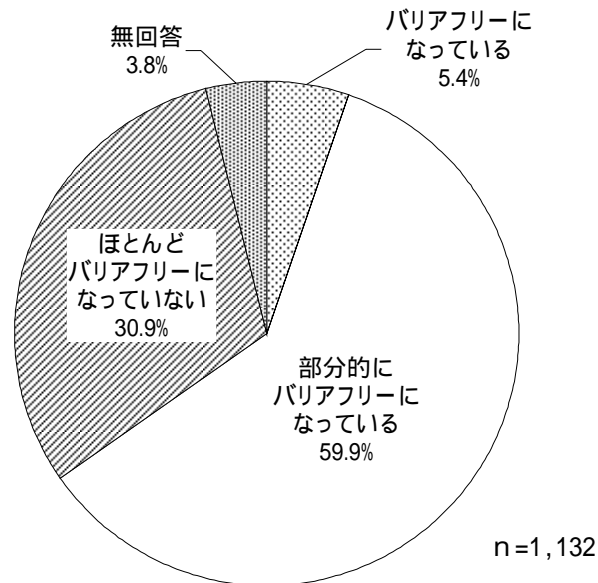
(7) 交通機関・道路・建物などのバリアフリー化の度合い

「なっている」が5.4%、「部分的にバリアフリーになっている」が6割

(全員の方に)

問26. あなたは、地域の交通機関や道路、建物などが、障害者や高齢者、乳幼児親子等にとって外出しやすく、バリアフリーになっていると思いますか。(は1つ)

<図3 - 22> 全体



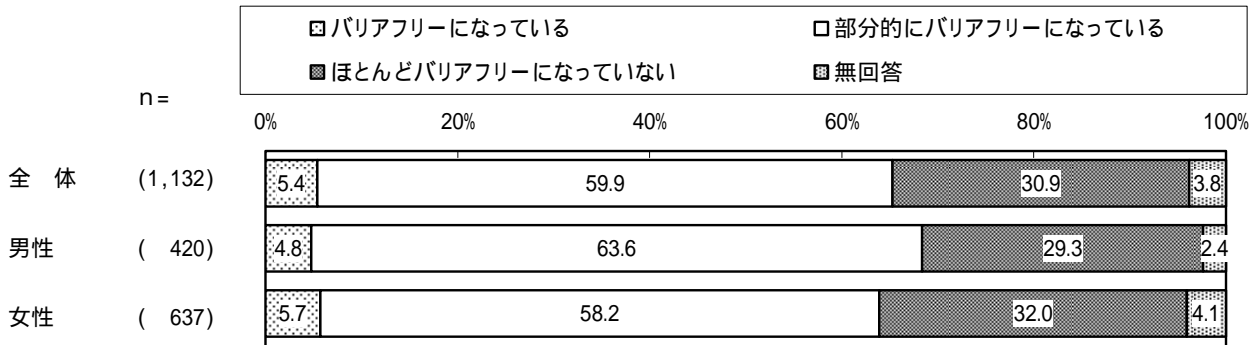
障害者や高齢者、乳幼児親子等にとって外出しやすく、「バリアフリーになっている」と答えた人は5.4%、「部分的にバリアフリーになっている」と答えた人は59.9%となっている。一方、「ほとんどバリアフリーになっていない」と答えた人は30.9%となっている。(図3 - 22)

性別に見ると「部分的にバリアフリーになっている」は男性(63.6%)が女性(58.2%)より5.4ポイント高くなっている。一方、「ほとんどバリアフリーになっていない」と答えた人は女性(32.0%)が男性(29.3%)より2.7ポイント高くなっている。(図3 - 23)

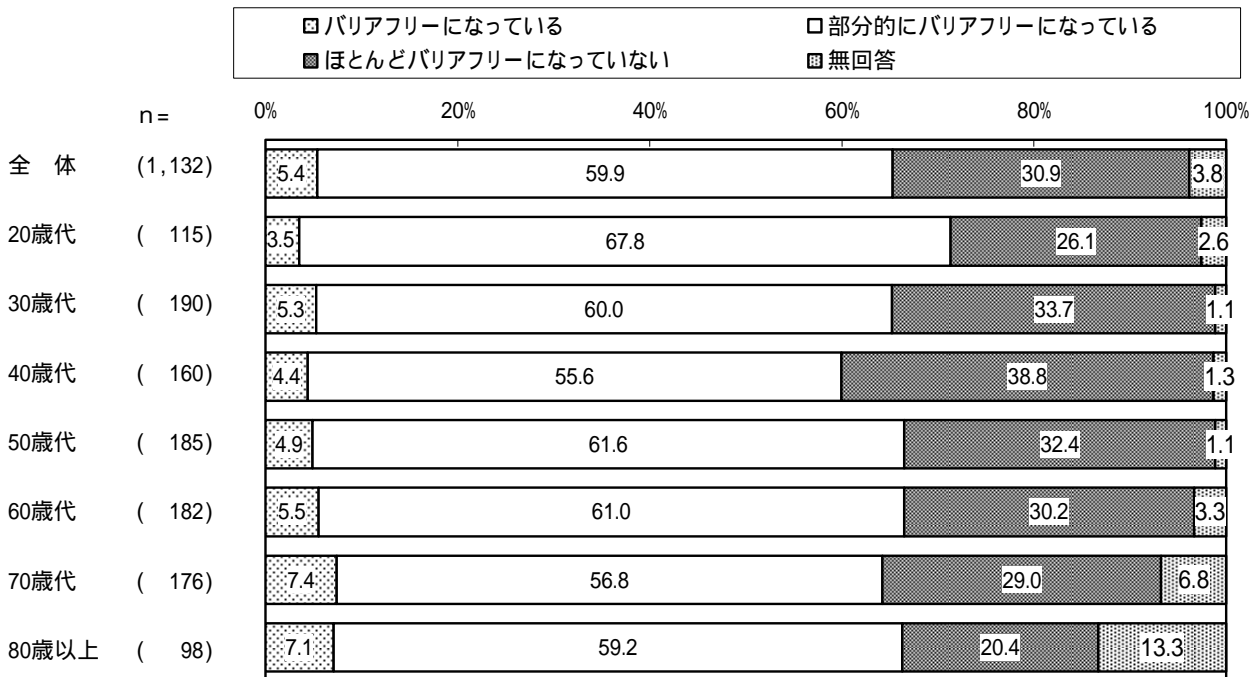
年齢別に見ると、「部分的にバリアフリーになっている」は20歳代で67.8%と最も高くなっている。一方、「ほとんどバリアフリーになっていない」と答えた人は40歳代で38.8%となっている。(図3 - 24)

居住地別に見ると、「ほとんどバリアフリーになっていない」と答えた人は丸山・弥生町・沼袋地域で40%を越えている。(図3 - 25)

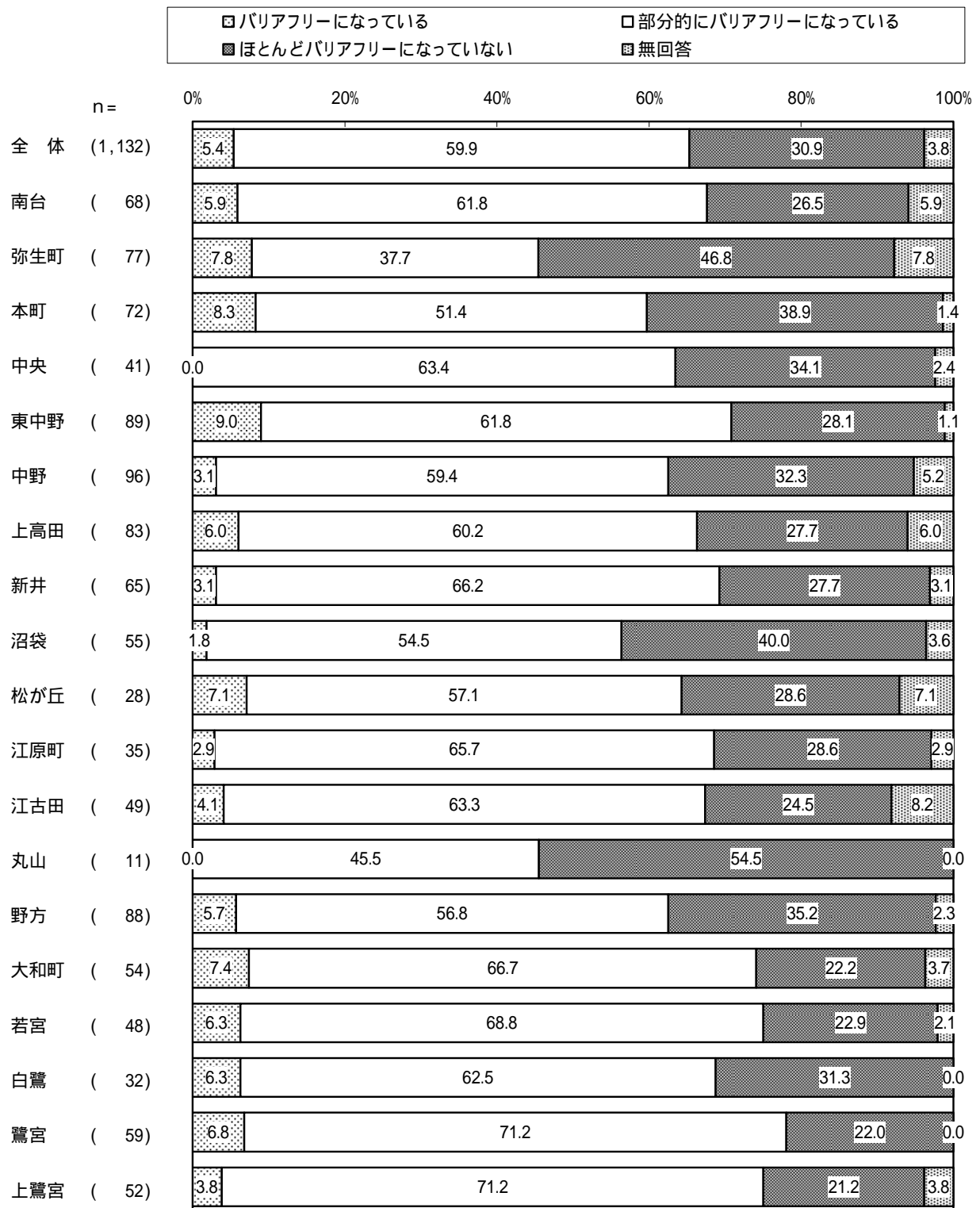
< 図 3 - 23 > 性別



< 図 3 - 24 > 年齢別



< 図 3 - 25 > 居住地域別



(8) バリアフリーになっていないと思う施設

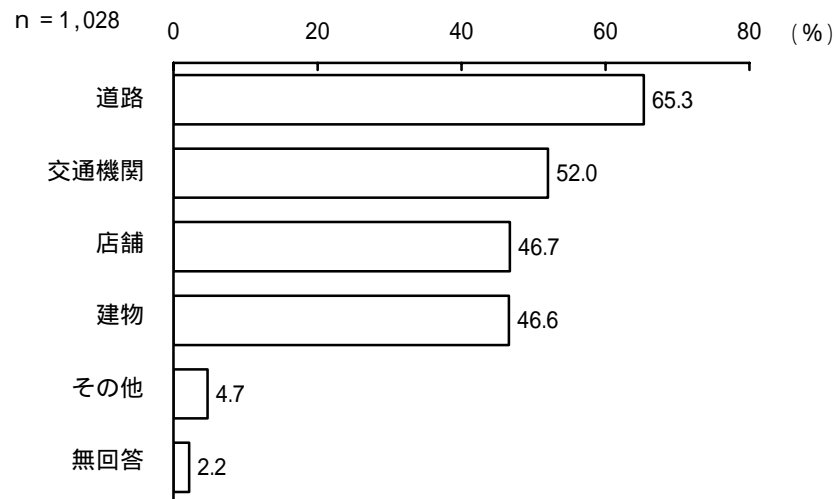
「道路」が6割半、「交通機関」が5割強

(問 26 で「部分的にバリアフリーになっている」「ほとんどバリアフリーになっていない」と回答した方に)

問27 . バリアフリーになっていないと感じるものは何ですか。

(あてはまるものすべてに)

< 図 3 - 26 > 全体



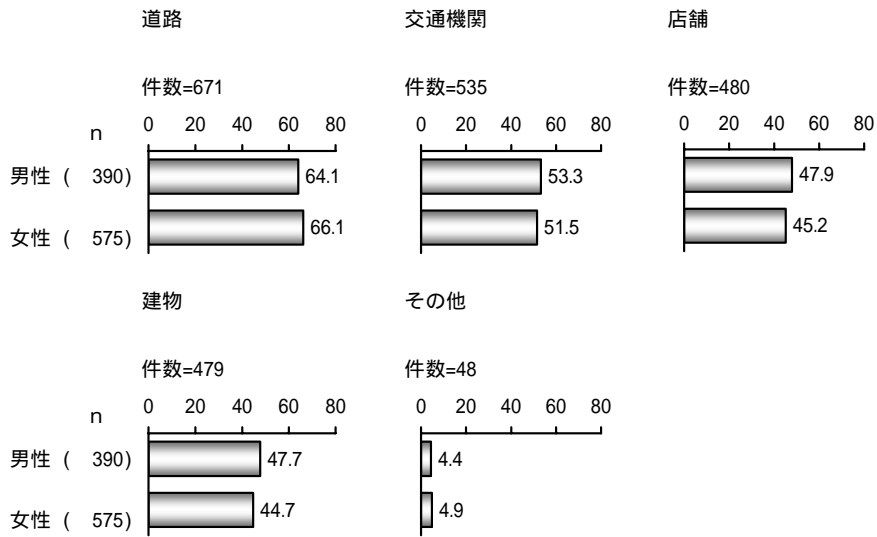
バリアフリーになっていないと感じるものは、「道路」と答えた人は65.3%と最も高くなっている。以下、「交通機関」(52.0%)、「店舗」(46.7%)、「建物」(46.6%)の順になっている。(図 3 - 26)

性別に見ると、各項目とも男女間で大きな差は見られない。(図 3 - 27)

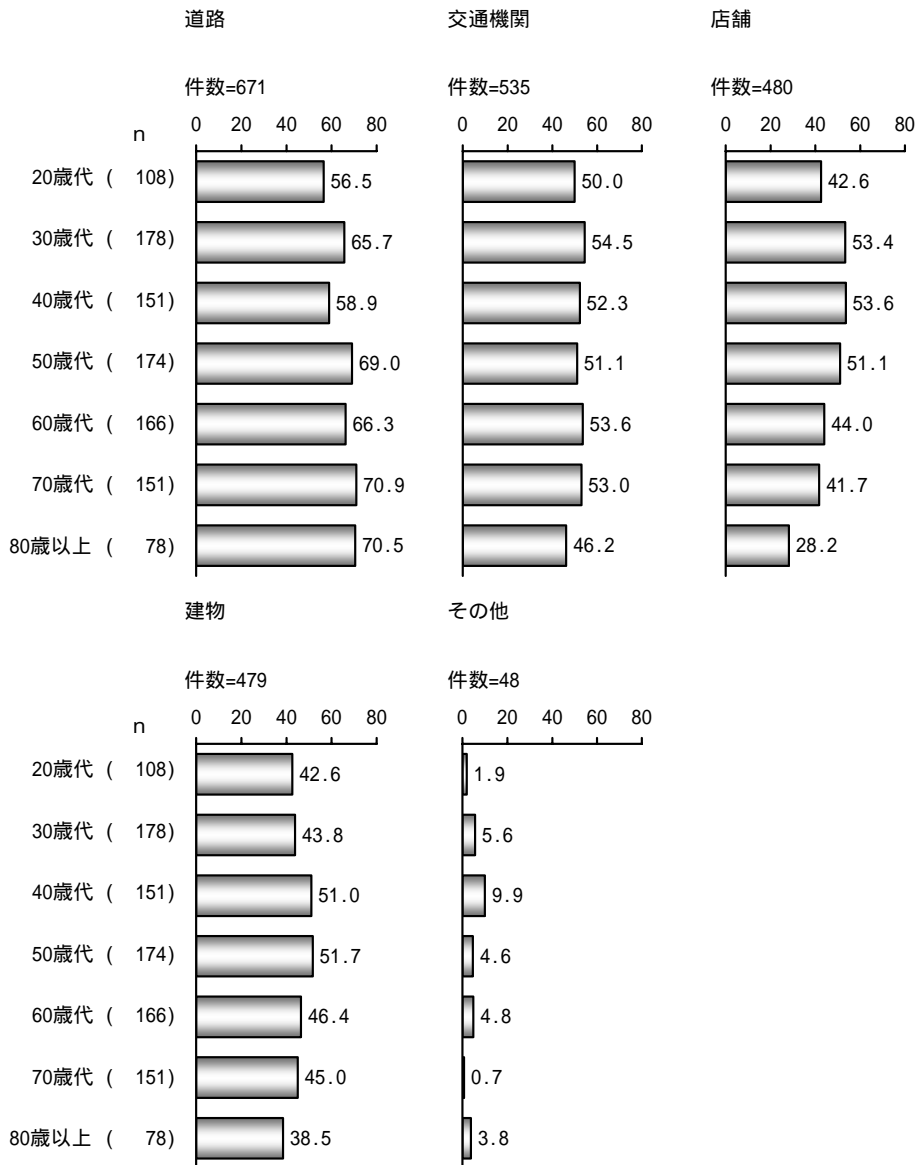
年齢別に見ると、「道路」と答えた人は70歳代以上で70%を超えている。「交通機関」と答えた人は80歳以上を除いて50%を超えている。(図 3 - 28)

居住地域別に見ると、「道路」と答えた人は丸山・弥生町・大和町・白鷺・江原町地域で70%を超えている。また、「交通機関」と答えた人は丸山・野方・本町・中央地域で60%以上になっている。(図 3 - 29)

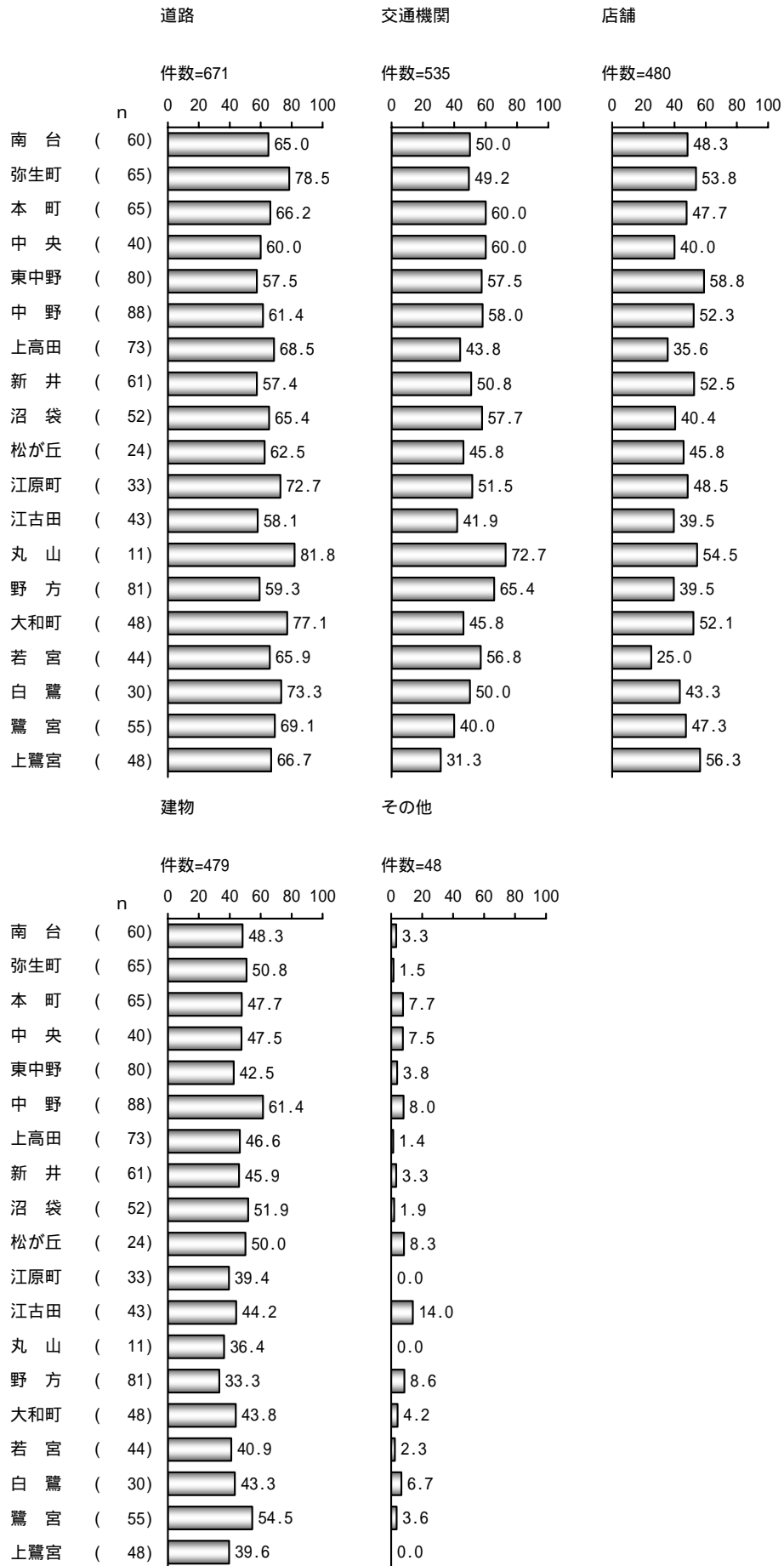
< 図 3 - 27 > 性別



< 図 3 - 28 > 年齢別



< 図 3 - 29 > 居住地域別



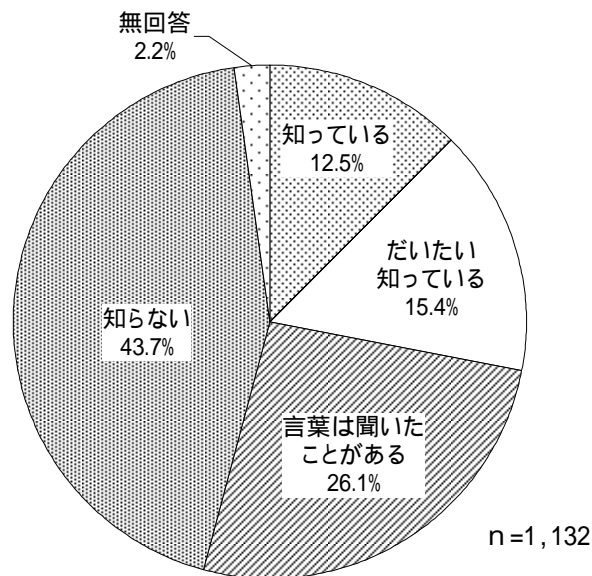
(9)「ユニバーサルデザイン」という言葉を認識している度合い

「知っている」と「だいたい知っている」を合わせると3割弱

(全員の方に)

問 28. あなたは、「ユニバーサルデザイン」という言葉と意味についてどの程度ご存知ですか。(は1つ)

<図3 - 30> 全体



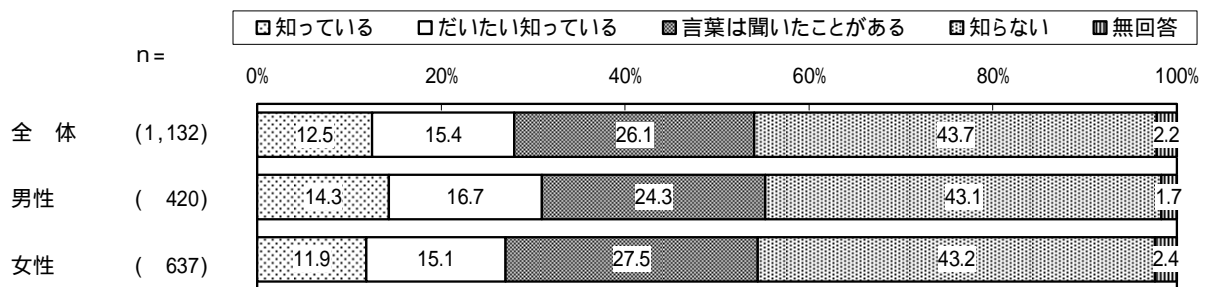
「ユニバーサルデザイン」という言葉と意味についてどの程度知っているかたずねたところ、「知っている」と答えた人は12.5%、「だいたい知っている」と答えた人は15.4%で両者を合わせた“おおむね知っている”は3割弱となっている。また、「言葉は聞いたことがある」と答えた人は26.1%、「知らない」と答えた人は43.7%となっている。

(図3 - 30)

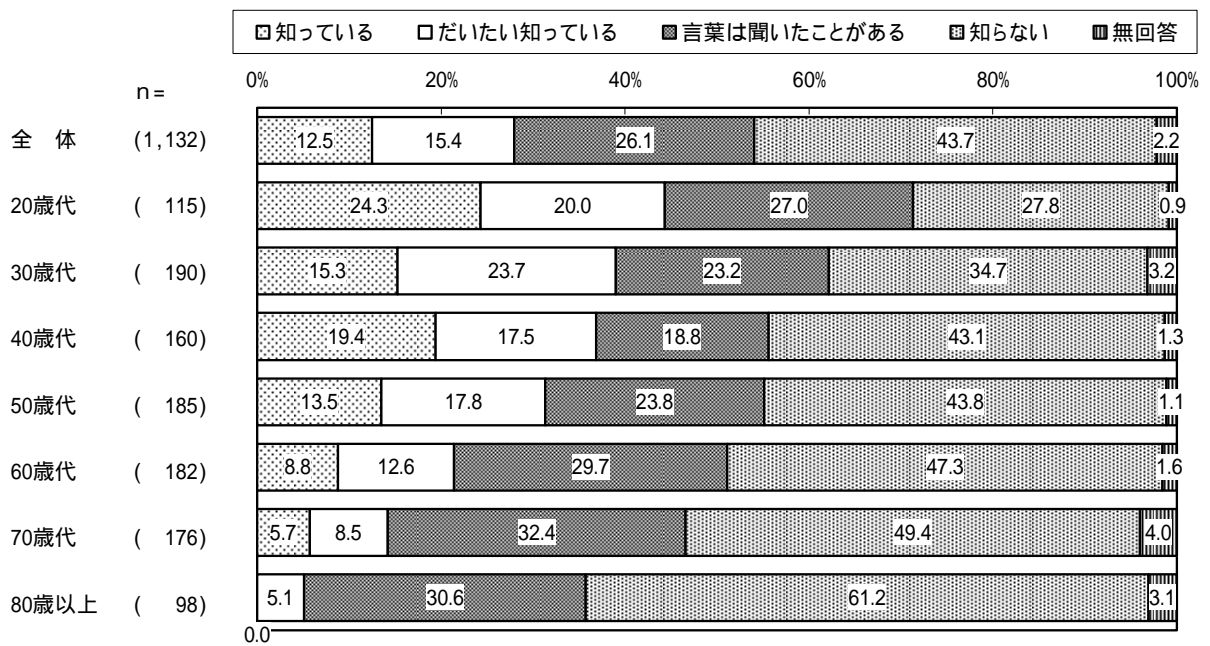
性別に見ると、“おおむね知っている”は男性(31.0%)の方が女性(27.0%)より4.0ポイント高くなっている。(図3 - 31)

年齢別に見ると、“おおむね知っている”は年齢が若いほど高くなっており、特に20歳代と30歳代では4割以上となっている。一方、「知らない」と答えた人は80歳以上で61.2%となっている。(図3 - 32)

< 図 3 - 31 > 性別



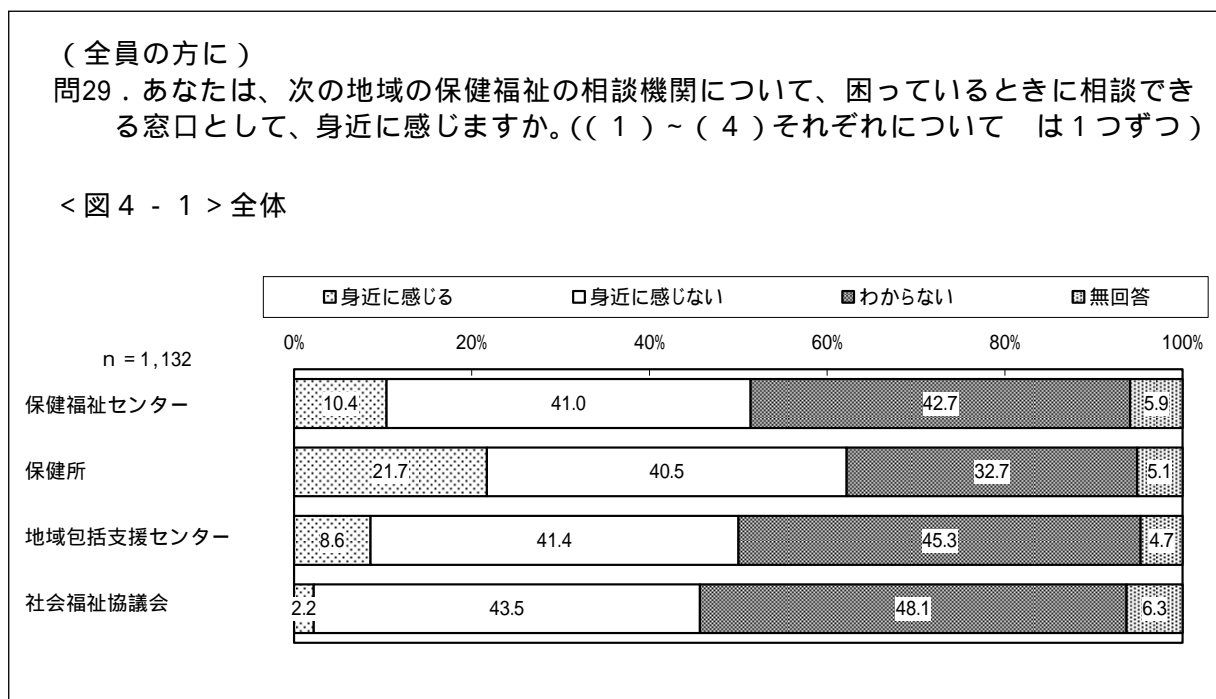
< 図 3 - 32 > 年齢別



4 . 保健福祉の相談窓口について

(1) 身近に感じる機関

保健所を身近に感じる人が 2 割を超える



困っている時に相談できる窓口として、4 つの窓口をあげて身近に感じるかどうかたずねたところ、「身近に感じる」と答えた人が最も多いのは「保健所」で 21.7%、次いで「保健福祉センター」が 10.4% となっている。以下、「地域包括センター」(8.6%)、「社会福祉協議会」(2.2%) となっている。(図 4 - 1)

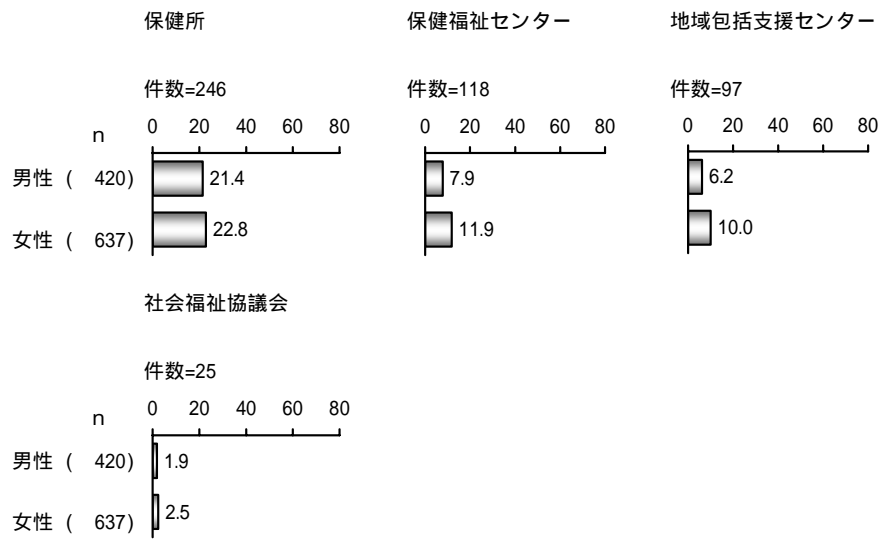
「身近に感じる」と答えた人の割合を性別に見ると、すべての窓口で女性の方が「身近に感じる」割合が高くなっている。(図 4 - 2)

「身近に感じる」と答えた人の割合を年齢別に見ると、「保健所」を「身近に感じる」と答えた人は 80 歳以上を除いて他の窓口より高くなっており、特に 50 歳代で 31.4% と最も高くなっている。「地域包括支援センター」は 80 歳以上で 17.3% となっている。

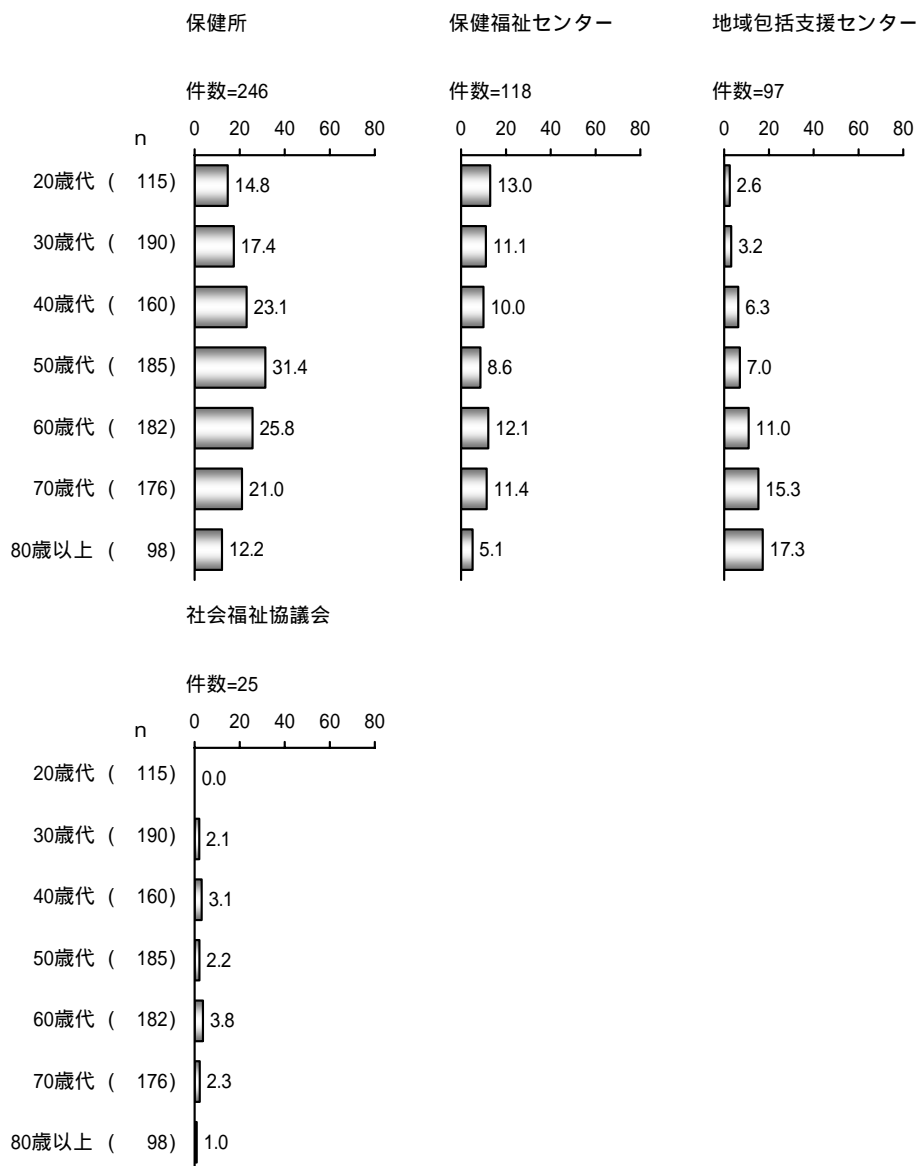
(図 4 - 3)

「身近に感じる」と答えた人の割合を職業別に見ると、「保健所」を「身近に感じる」と答えた人は学生以外で最も高くなっている。(図 4 - 4)

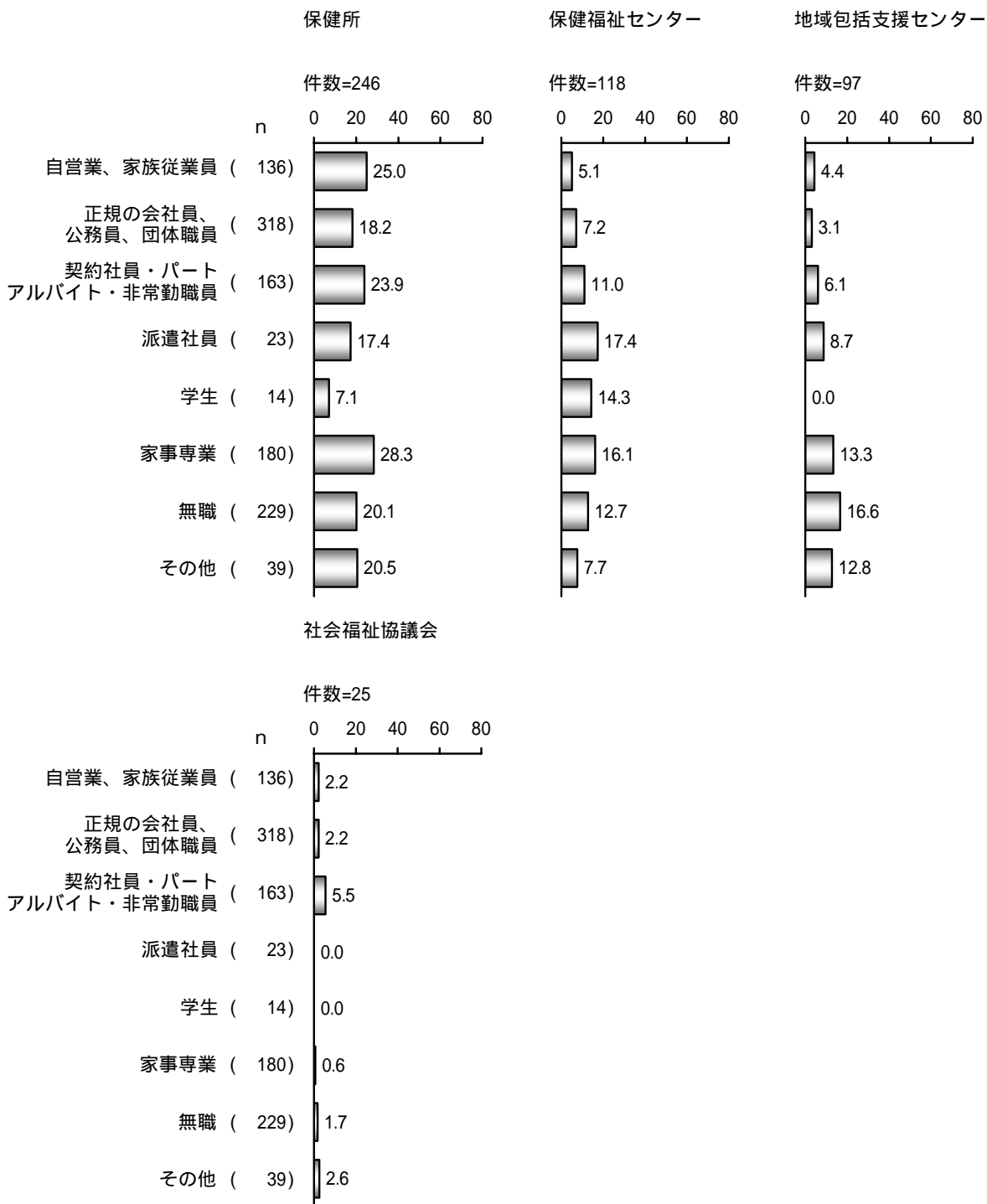
< 図 4 - 2 > 性別



< 図 4 - 3 > 年齢別



< 図 4 - 4 > 職業別



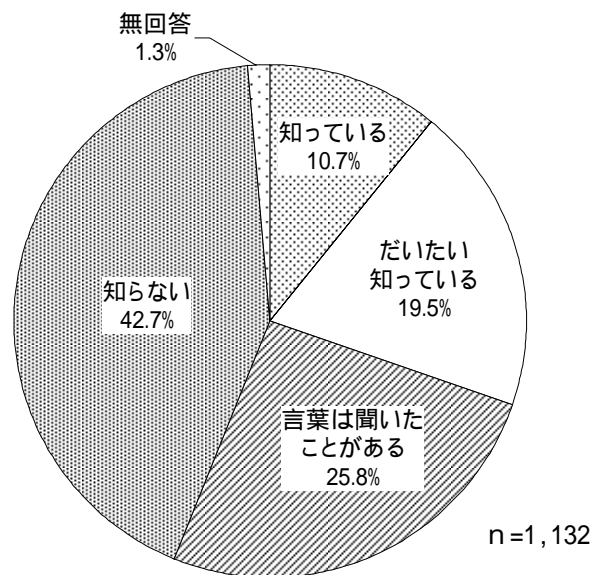
(2)「成年後見制度」という言葉を認識している度合い

「知っている」が1割、一方「知らない」は4割強

(全員の方に)

問30.「成年後見制度」という言葉やしぐみについてどの程度ご存じですか。(は1つ)

<図4-5>全体

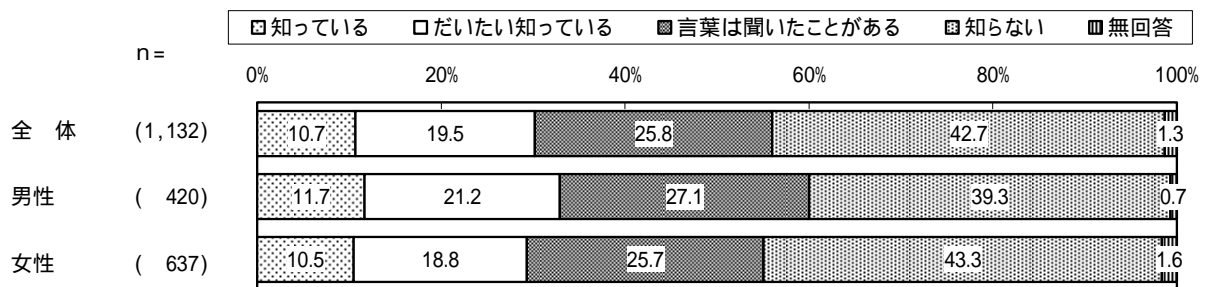


「成年後見制度」という言葉やしぐみについてどの程度知っているかたずねたところ、「知っている」と答えた人は10.7%、「だいたい知っている」と答えた人は19.5%、「言葉は聞いたことがある」と答えた人は25.8%となっている。また「知らない」と答えた人は42.7%となっている。(図4-5)

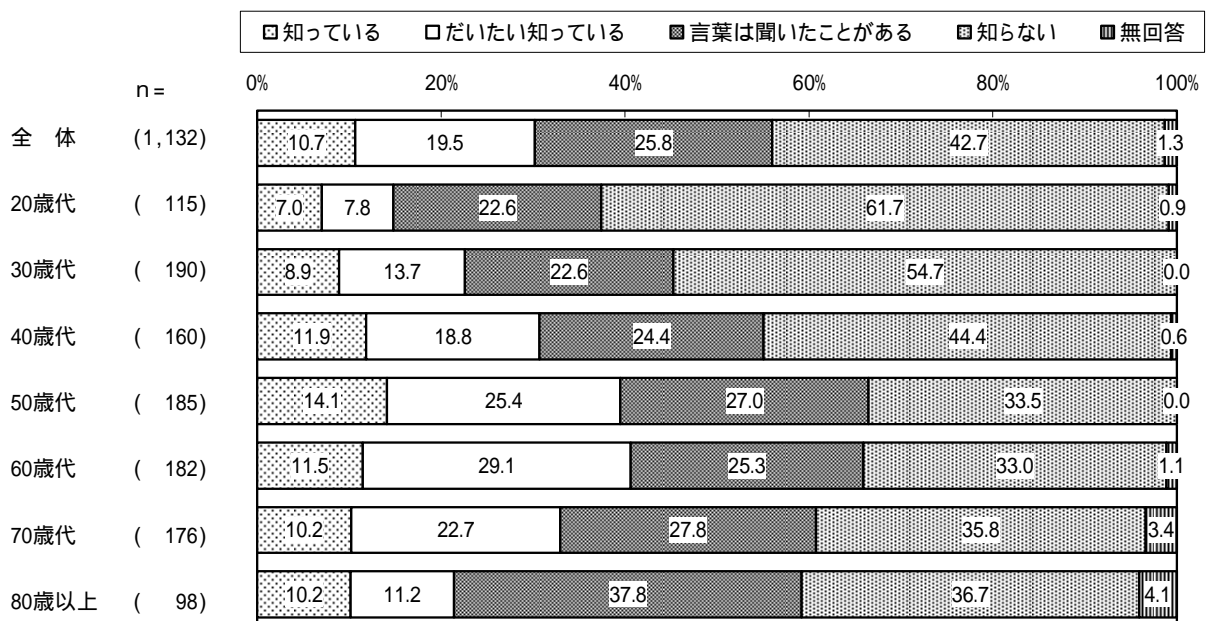
性別に見ると、「知っている」と「だいたい知っている」を合わせた“知っている”と答えた人は男性(32.9%)が女性(29.3%)より3.6ポイント高くなっている。一方、「知らない」と答えた人は女性(43.3%)が男性(39.3%)より4.0ポイント高くなっている。(図4-6)

年齢別に見ると、「知っている」と「だいたい知っている」を合わせた“知っている”と答えた人は50歳代と60歳代で4割前後と高くなっている。一方、「知らない」と答えた人は20歳代で6割強、30歳代で5割半となっている。(図4-7)

< 図 4 - 6 > 性別



< 図 4 - 7 > 年齢別



(3) 犯罪被害者等相談支援窓口を認識している割合

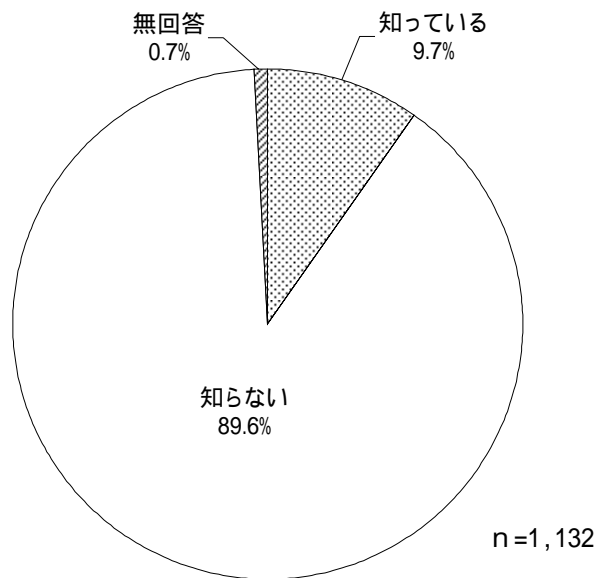
「知っている」は1割

(全員の方に)

問31. あなたは、区に犯罪被害者等相談支援窓口が開設されたことをご存じですか。

(は1つ)

<図4-8>全体



区に犯罪被害者等相談支援窓口が開設されたことを「知っている」と答えた人は9.7%、「知らない」と答えた人は89.6%となっている。(図4-8)

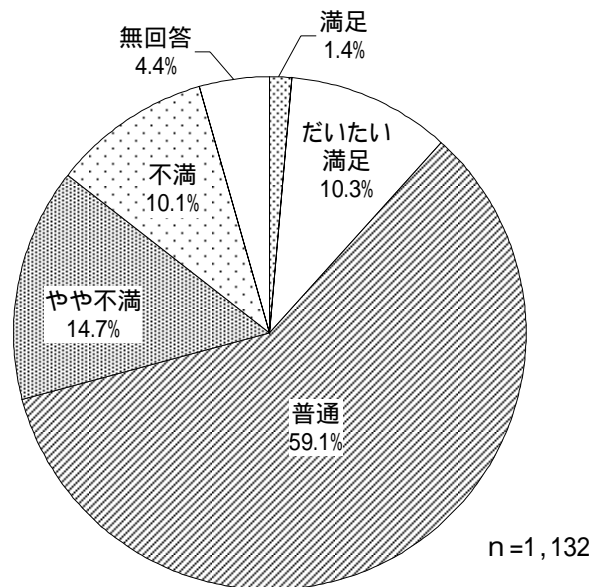
(4) 中野区の保健福祉施策についての満足度

「満足」と「だいたい満足」を合わせると1割強、「やや不満」と「不満」を合わせると2割半

(全員の方に)

問32. あなたは中野区の保健福祉施策について満足していますか。(は1つ)

< 図4 - 9 > 全体

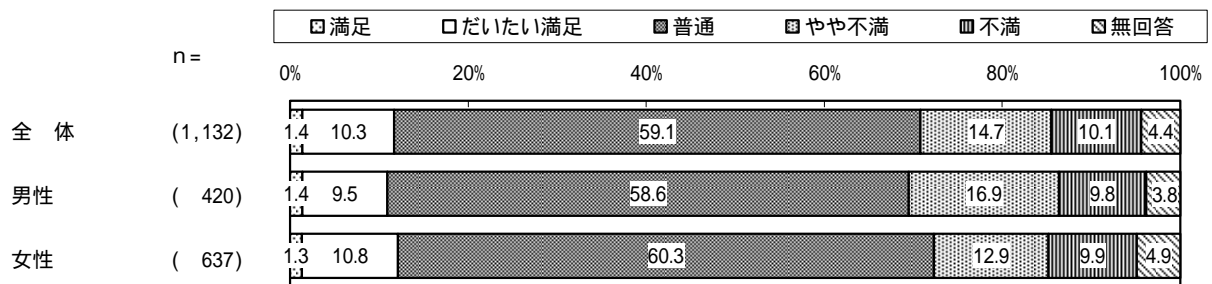


中野区の保健福祉施策について、「満足」と答えた人は1.4%、「だいたい満足」と答えた人は10.3%となっており、この両者を合わせた“満足”は11.7%となっている。一方、「やや不満」と答えた人は14.7%、「不満」と答えた人は10.1%で、この両者を合わせた“不満”が24.8%となっており、満足と答えた人より不満と答えた人の方が多くなっている。また、「普通」と答えた人は59.1%となっている。(図4 - 9)

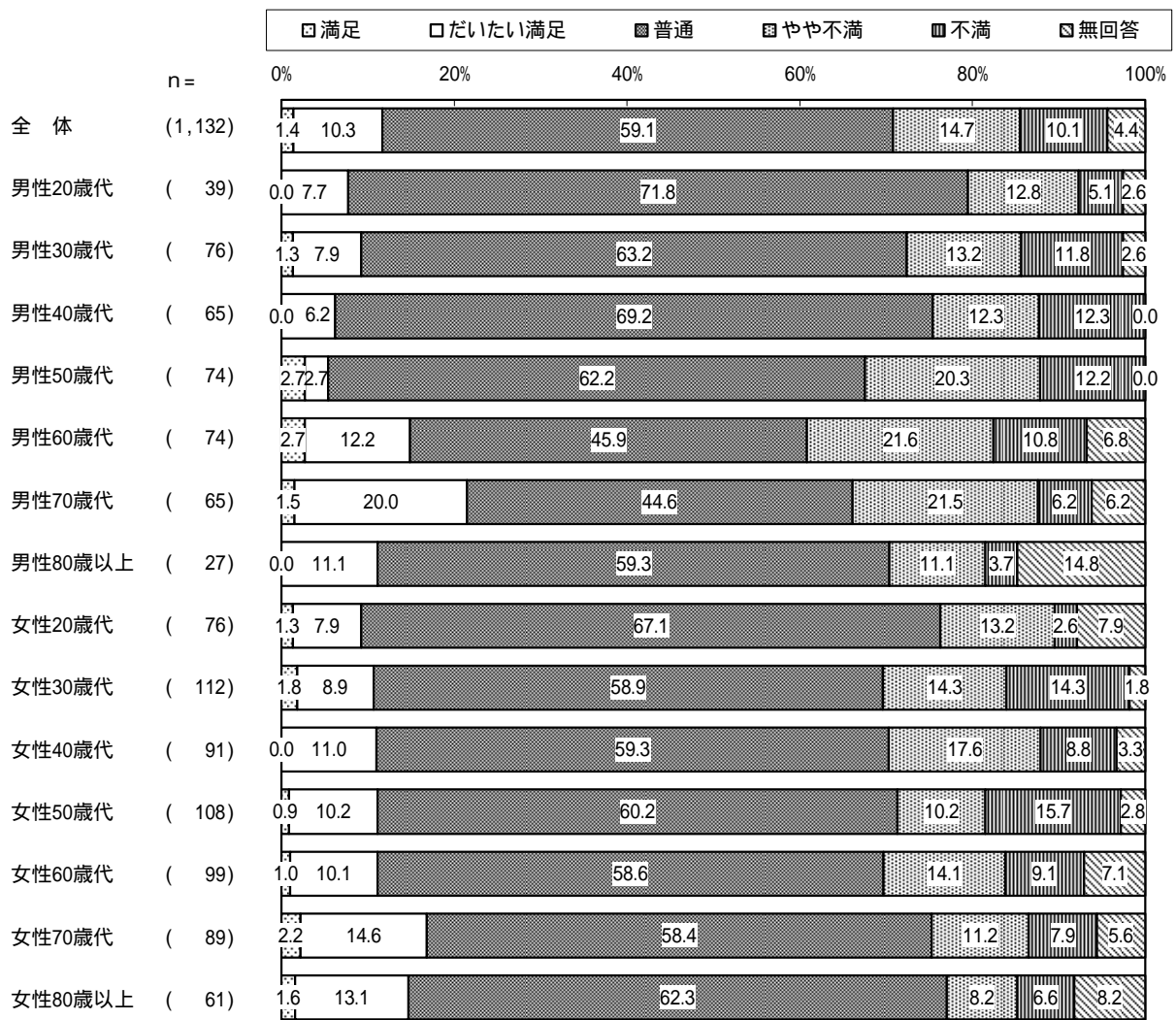
性別に見ると、“満足”に大きな差は見られない。一方、“不満”は男性(26.7%)が女性(22.8%)より3.9%ポイント高くなっている。(図4 - 10)

性・年齢別に見ると、“満足”は70歳代の女性(16.8%)と男性(21.5%)で他の年代に比べて割合が高くなっている。“不満”は男性の50歳代と60歳代で3割を超えている。(図4 - 11)

< 図 4 - 10 > 性別



< 図 4 - 11 > 性・年齢別



(5) 保健福祉行政全体への意見要望 (自由回答)

問33 . 保健福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

保健福祉行政全体や今回の調査について、要望、意見を自由に書いてもらったところ、342 人から 498 件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

< 保健福祉全般について > (66 件)

実際、介護にしても直接かかわってみたいとわからない事が多い。介護ヘルパーを使用したいが高くて頼めず、家族が仕事を休んだりやめて世話をする場合、二重の負担になる。もっと親身になって考えてほしい。(女性 / 50 歳代)

横並び意識から脱し、先鋭的・先進的な保健福祉行政の展開を区には望みたい。

(男性 / 50 歳代)

介護施設はどこも人手不足でした。どこも熱心に対応してくれたので、職員がもっとむくわれるべきだと思います。区としては？ボランティアが気軽にできるようなよびかけ・紹介をしてほしい。(女性 / 50 歳代)

介護保険が高すぎる。強引に年金から引かれる事には不満をいただきます。

(女性 / 65 ~ 69 歳)

今後の費用の増加に対する資金が、個人の負担の増加が心配。(男性 / 70 ~ 74 歳)

国民健康保険料が生活を圧迫しているので減らしてほしい。(女性 / 30 歳代)

中野の保健福祉は全国・全都の中でもだんだん遅れていると感じます。もう少し弱者 (子供・高齢者・障害者、 e t c) に対して優しい行政をお願いします。(女性 / 60 ~ 64 歳)

保健福祉に予算が重点的に割り当ててくれるのはいいが、支出の透明性、支出の決定プロセスの透明性を高めてほしい。税金が何に使われているか、いまひとつわからない。

(男性 / 30 歳代)

消費者の立場・目線での改善を望みます。(女性 / 30 歳代)

歳をとってから、お金が無くても安心して暮らせる制度がほしいと思う。(男性 / 50 歳代)

健康診断・人間ドック e t c、区民が健康でいられるように、区の補助やよびかけ・通知を該当年令者へ積極的に行ってほしいと思います。(男性 / 30 歳代)

一昨年入院し、退院した後、民生委員の方が大変良くして下さい、まだ車椅子でしか外出出来なかった時、いろいろ助けて頂いて感謝しています。(女性 / 70~74 歳)

特定健診・保健指導については、被扶養者の職域・地域の連携がうまくいっていない現状を改善してもらいたい。(男性 / 40 歳代)

中野区の集合契約 B (特定健診・保健指導) の単価が他市区町村に比べてかなり割高になっています。健保も国保も財政状況が悪いのですから、できるだけ単価を下げよう、医師会等に働きかけてもらいたい。(男性 / 40 歳代)

保健福祉というと赤ちゃんから老人まで広い範囲の仕事だと思いますが、そこを必要とする利用者にとって利用しやすいことだけでなく、本当の意味での利用者の事を考えて欲しいと思います。社会全体を変えなくてはならない事なのでとても難しい事だとは思いますが、是非、中野に住みたいと思える様になる事を希望します。(女性 / 30 歳代)

包括支援センターの廃止が検討されているそうですが、是非中止して下さい。
(女性 / 65~69 歳)

保健福祉センターは身近でいろいろ相談できますが、保健師さんが少なく、とてもお忙しいそうです。最近では若い人の精神疾患がとても増えているようで、信頼できる保健師さんがいるととても助かります。是非、保健師さんを増やして下さい。(女性 / 60~64 歳)

< 高齢福祉について > (70 件)

保健福祉行政は、高齢化社会に向けて整備をすすめているところかと思えます。利用者の目線で、解りやすくシンプルな内容にしていだきたいと思えます。(女性 / 50 歳代)

特別養護老人ホームなどの施設をもっと沢山つくり、何年も待たないで入れるよう基盤整備を急いでほしい。(男性 / 50 歳代)

老人を対象とする趣味やサークル(講座)の場を多様に、かつ、多く設定してほしい。
(男性 / 50 歳代)

一人暮らしの高齢者が住み慣れた場所で住める様、アパート等を提供してほしい、整備してほしい。(女性 / 65~69 歳)

介護認定を経て、ケアマネージャーによるケアプランの作成、介護事業所からのヘルパー派遣による介護提供、場合によっては精神疾病等がある時には保健所の保健師など、一人の介護利用者に対して何人ものいろいろな場所からの人々がかかわっているわけですが、何よりもそれぞれの連携（正しい情報の交換や事変に対するすみやかな対応など）が大切だと感じています。（女性 / 40 歳代）

地域の高齢者、貧困など何らかの困難をかかえた人に対して、マンツーマンの対応をできるように努力してください。（男性 / 30 歳代）

ヘルパーの仕事をしていただく人・事への感謝が我々の市民の方に出来ているかどうか考えさせられます。勿論、仕事をする方の考え方もあります。双方の教育を充分にして頂けたらと思います。（女性 / 65～69 歳）

区医師会などとの連携で、かかりつけ医制度の推進、ターミナル・在宅ケアの充実など、ハード面だけではないサポートも重要だと思います。（女性 / 50 歳代）

年老いていく中で、健康保険料・介護保険料、及び、自己負担が増える一方、サービスが低下するなどの不安が募ります。老人が安心して暮らせる社会になるよう望みます。（女性 / 70～74 歳）

一人暮らしの老人対策をいろいろ考えてほしい。社会参加の方策、高齢者にも出来ることをしてもらおうなど。（男性 / 70～74 歳）

入所中には予防的な対応は少ないので、区健康診断の「入所・入院中の者の遠慮せよ」でなく、受診させてほしい。（女性 / 85～89 歳）

< 行政全般について >（46 件）

どんな問題でも家庭や地域の方などの話し合いでは、なかなか区長まで声が届かず、一般の声が届く様な場所がほしい。（女性 / 50 歳代）

色々なサービスがあるようだが、土・日にしてください。行政はサービス業です。（女性 / 30 歳代）

職員が 1 年に 1 回か 2 年に 1 回くるくる変わるのはどうしてですか。じっくり取り組めないのではないですか。（女性 / 65～69 歳）

老人・子供に思いやりのある行政にしてほしい。（男性 / 75～79 歳）

行政だけでなく、役所などで使われる言葉が難しくて意味がよくわからない。部署・部門も覚えられない位に長くて親しみを感じない。(女性 / 60~64 歳)

行政の各種サービスが過去に比べて充実して来ている事は実感があり、良い事だと感じている。反面、区の財政を圧迫している事も事実。相反する課題に日々取り組まれている職員の皆様は大変ご苦労と思う。保健福祉行政の拡充と財政のバランスは重要であり、その事について区民に率直に訴える事が今後は必要になるのでは？勇気を持った行政運営を切に期待している。(男性 / 50 歳代)

安心して“イザ”の時に頼れる行政であって欲しいと常日頃思います。中野区内で悲しいニュースが流れる事が無い事を願います。(女性 / 30 歳代)

災害や集団食中毒などの衛生問題、インフルエンザの新型がどうだとか、もちろん対策をしっかりとって欲しいと思います。ぜひ、パニック状態になった時に心強い存在であって下さい。(男性 / 30 歳代)

中野区健康福祉都市宣言。このような言葉が全部実行できるような中野にしてください。(男性 / 75~79 歳)

< 本調査について > (53 件)

実際に座談会などを開催して住民の生の声を聞く方が、より適格な実情を把握できるのではと思う。(女性 / 60~64 歳)

結果は区報などを通じ、できるだけデータを公表して下さい。できれば、ネット上では検定結果もきちんと公表して欲しいと思います。(女性 / 40 歳代)

ごみの出し方のマナーについての調査を希望(マナーが悪い)。(女性 / 30 歳代)

地域の意見を幅広く取り入れようと、積極的に活動されている事が感じられました。これからもがんばって下さい。(女性 / 20 歳代)

調査対象者が病気を持っている人とかの質問があるとよかった。(男性 / 60~64 歳)

今回の様な調査は定期的に行い、今後の為に役立ててください。(男性 / 30 歳代)

失礼ですが、古くさい調査帳票な気がします。マークシート・OCR等、機械的に読み込ませるなどがあると思うのですが。(男性 / 40 歳代)

窓口を訪れた方全員に、このような形の後日送付アンケートを実施してほしいと思います。
(女性 / 30 歳代)

一般的にアンケート調査は調査する事が目標にならない様に、調査する前の目的を真剣に深く考えておかないと、費用努力対効果がありません(期待出来ません)。
(男性 / 60 ~ 64 歳)

問題意識を持って取り組まれていることは、大変良いことだと思います。(男性 / 50 歳代)

紙・ふうとう・手間にお金をかけることが疑問に考えます。このような調査も必要ですが、お金のかからない方法を考えて下さい。(男性 / 75 ~ 79 歳)

訪問や電話と違って空いてる時間にできる事なので、区民の声を聞く方法の一つとして、このようなアンケートをとる事は良い事だと思います。(女性 / 30 歳代)

< 情報提供について > (63 件)

難聴者で補聴器を使ってきくことのできる磁気誘導ループシステムが中野ゼロ大ホールと区議会に設置されていますが、ほとんど知られていないようで、活用されていないのはもったいないのでもっとPRされた方がよいと思います。(女性 / 40 歳代)

区報を読む事で区の情報を得る事が多いので、時には特集を組んで易しく詳しく説明してくれると良いと思います。(女性 / 50 歳代)

広報活動は紙ベースのみではなく、より密接なランダムによる電話訪問、商店街等での定期的な広報イベントをされてはどうですか。(男性 / 30 歳代)

HPでもっと関係先をわかりやすく告知・説明、最新情報を載せてもらいたい。「中野区民だより」にもカラー・図等で身近に簡潔にまとめて全体の一覧があれば、実際に使えて便利になると思います。(男性 / 50 歳代)

抗インフルエンザ薬の保有数、感染予想数をグラフなどわかりやすく作ってほしい。
(男性 / 30 歳代)

保健福祉に関する区報特記事・説明特集号を出してほしい。 問題に困った時別の保健福祉センター相談窓口の紹介等々、区報で特集してほしいです。(男性 / 70 ~ 74 歳)

よく分からない部分が多いので、セミナーなどで知る場があると助かる。例えば、年代別・目的別(子育て支援・介護...等)での教室形式だと参加しやすいと思う。(女性 / 30 歳代)

中野専用のインターネット掲示板などがあれば利用したい。(男性 / 20 歳代)

連絡等したい時の為に場所・電話等を簡単にまとめた一覧表を作成して配布してほしい。
(女性 / 70 ~ 74 歳)

高齢な為、いろいろな行政の名称などが解りづらい。覚えきれない。区からのいろいろな通達などが色々重複している様で、かえって解りづらくなっている様に思う。
(女性 / 85 ~ 89 歳)

町中の掲示板や地域の回覧板に読み易い、解りやすい、印刷で、細やかに教えて戴ければ、一人暮らしでも頑張れると思います。(女性 / 70 ~ 74 歳)

いざという時にそなえて、病院mapのようなものがあると、とてもうれしいです。
(女性 / 30 歳代)

< 保健福祉の窓口について > (24 件)

難しい言葉・言い回しが多く、その言葉の説明すら難しい言葉が多くて、全く理解できないことがよくあります。電話で聞こうにも受付時間が短く、結局、解らないままのことが多いです。なので、もう少し簡単な、よく聞く言葉の説明書きをしてもらえると助かります。(女性 / 20 歳代)

区役所などの窓口にいる方は、笑顔も作らずにぶっきらぼうな方が多い。もっと親身に質問しやすい環境を作ってほしい…。わからないから聞いているのに、ぶっきらぼうだったりすると、こちらの方が気を使ってしまう。特に、お年寄りにはあきらめてしまうのではないですか？自分の身に置き変えて考えてみて下さい。(女性 / 50 歳代)

福祉関係の担当者は忙しすぎるのも原因なのかもしれませんが、少しでも待たせないようにという心がけで当たってほしい。長く待たせなくてはならない時は、あと何分ぐらい待てますか、と声をかけていただきたい。(女性 / 70 ~ 74 歳)

フルタイムで仕事をしている人にとって利用できる曜日・時間が限られている為、せっかくの機関の窓口相談が開設されていても利用する事ができないのではないかと。
(女性 / 50 歳代)

相談の包括窓口が1つあれば、まずそこへ...かける事によって他を紹介してもらい、迷う事なく助言してもらえるのでは。(女性 / 50 歳代)

中野区は優秀な方と思いますが、どこも相談の対応が悪い。追い返す姿勢が多く見受けられる。追い返す言葉は多いが、制度の説明が不十分な気がする。(男性 / 40 歳代)

< 調査によってサービスを知る機会になったという意見について > (30 件)

今回の調査をして頂き、区でこれだけの事に力を入れておられる事を知り、中野区に在住して良かったと思うと同時に、何かお手伝いさせて頂く事はないか考えております。又、何かありましたら行政を通して相談できる事がわかり、安心致しました。
(女性 / 50 歳代)

調査で現状を知ろうとする取り組みに感心いたしました。答えてみると、自分としても知らない区のサービスがあることに気づきました。(女性 / 30 歳代)

区の福祉について気にしたことがあまりなかったため、今回の調査で区の取り組みについて、もっと知りたいと感じました。(女性 / 20 歳代)

< 障害福祉について > (7 件)

区の主催する会議や行事に、ほとんど要約筆記(手話のわからない、聞こえない人への文字通訳)がついていないようなので、主催者(区)の責任でつけてほしい。
(女性 / 40 歳代)

障害者に対して応益負担を課していますが、もともと障害者は負担能力がありません。本人が好きで障害者になったわけではありません。生まれつきの人もあります。社会全体として、これからの障害者を暖かく助けてあげるのが基本だと思います。(女性 / 60~64 歳)

< 健康・医療について > (41 件)

成人健診が平成 20 年から後期高齢者健診になり、項目が少なくなりました。大変残念です。成人健診の時はいろいろ検査して頂けたので、結果をみて自分の体の状態を把握する事が出来ましたが、後期高齢者健康診断では安心できず、あとどういう健診をうけたらよいかわかりません。成人健診の時の項目を是非お願いしたいです。(女性 / 85~89 歳)

救急車のお世話になったが、40 分以上病院が見つからなかった。救急車をお願いする前に家族で病院を断られ、最終的に頼ったが、それでも病院に到着したのは呼んでから 1 時間以上かかっていた。それも区内では受け入れてもらえず、他区の病院へ。かかりつけがあっても夜半は対応してもらえず、心配だった。急病者の受け入れの充実を望みます。

(女性 / 20 歳代)

区健康診断について、乳がん・子宮がんは毎年実施してほしい。(女性 / 50 歳代)

成人病検診年 1 度の実務が、以前と変わり簡単に手抜きとなったことは非常に不満(例:レントゲン胸部撮影・心電図、e t c)。主婦には年 1 度だけの成人病検診であり、もっと細部に当たって検診を実行して戴きたいと切望します。(女性 / 75~79 歳)

以前は無料だった健康診断が、現在は費用がかかるので無料にしてほしい。
(女性 / 50 歳代)

<まちづくりについて> (57 件)

自然が豊かな町が心を豊かにすると思うので緑を多くし、人が交流できる場所作りを希望。
(女性 / 30 歳代)

自転車の止め方や歩道の走り方は、とても問題だと思います。高齢者や小さな子供をつれている方々がよくトラブルにまきこまれているのを見かけますが...(女性 / 40 歳代)

飼い犬のふんを処理しない飼い主、入ってはいけない公園に飼い犬を入れる飼い主など、マナーが悪い飼い主がふえています。対策を講じてください。(男性 / 30 歳代)

中野駅周辺が整備されるのなら、保健所や図書館・体育館などを利用しやすい場所に集めて欲しい。新しく作っても交通が不便だったりしては意味がない、行けない。
(男性 / 30 歳代)

高齢になっても元気でいられるよう、子供たちが小さいうちからたくさん身体を動かして、健康づくりができる場所がたくさん欲しいですね。老人を介護するのも子供たちですから。
(女性 / 30 歳代)

(中野) 駅前の歩きたばこの禁止が徹底されていないので、対策をとっていただきたいと思います。(女性 / 40 歳代)

「女性のための健康講座」や「ピロリ菌のすべてを教えます」等の日時が、平日の仕事をしている時間帯に設定されていて利用できない。土・日を日程に入れるとか、時間を 19 時~とか...、一般的な勤務時間帯を考えて開催して頂けると、住民としてももっと区に対して興味・関心が持てるようになる気がする。(女性 / 30 歳代)

< 児童福祉について > (30 件)

福祉という面では高齢者に対してだけでなく、子供達が住み易い街、この街で子供を産んで育てたいと思わせるような街を目指すべきだと思います。(男性 / 40 歳代)

今後、子供を産む事を考えると産婦人科の事や、保育園の問題が気になるところです。それに、小学校を考えても交通量の多いところを通る場所ばかりで、不安に思う事があります。(女性 / 20 歳代)

子供を授かった時について、検診や出産にかかる費用について、その場その場にかかる時に、区から、若しくは、国から援助を受けたい。後から戻ってくるという方法だと、その時に足りない人には少しつらいものがあります。(男性 / 30 歳代)

保育園にしても、民間へ委託される園が増えています。全てを民間に委託し保育時間を延長することが、子供にとって有益なことでしょうか。区として、ここまでは区がやる事、ここは利用する人が努力する事、また、小さい子を持つ親への育児時間の保障などをすべきだと思います。(女性 / 30 歳代)

< 地域活動について > (11 件)

地域活動についてはボランティアの希望が多くなっていますので、周知活動を更に高めたら如何でしょう (特に男性のボランティア)。(男性 / 65 ~ 69 歳)

もっと色々な人と仲良く交流は持ちたいけどその機会もないので、何か活動があれば参加したいです。それに何か活動やイベントがあるなら掲示したりして、もっとわかりやすく教えて欲しいです。(女性 / 20 歳代)

高齢者がそれぞれ交流できたり、他の世代と親睦を深めたりできる場がもっとあって良いのではと思います (西落合児童館は、すばらしいモデルだと思う)。(女性 / 30 歳代)

調査票と単純集計

平成21(2009)年度
保健福祉に関する意識調査
調査票

中野区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えに
なれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えく
ださい。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書きいただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に 印をつけてください。
6. 「その他()」に 印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入
ください。
7. ご記入いただきました調査票は平成21(2009)年5月15日(金曜日)ま
でに、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。
8. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問
い合わせください。

中野区保健福祉部保健福祉企画担当

TEL 3228-5609

FAX 3228-5662

E-mail hokenfukusikeiei@city.tokyo-nakano.lg.jp

(6) あなたは中野区にお住まいになられて何年になりますか。(は1つ)

<回答者数 1,132>

- 4.2 1年未満
- 13.3 1～4年
- 11.6 5～9年
- 13.0 10～19年
- 12.1 20～29年
- 43.5 30年以上
- 2.4 無回答

(7) あなたがお住まいの地域(町名)はどこですか。(は1つ)

<回答者数1,132>

- | | |
|---------|---------|
| 6.0 南台 | 3.1 江原町 |
| 6.8 弥生町 | 4.3 江古田 |
| 6.4 本町 | 1.0 丸山 |
| 3.6 中央 | 7.8 野方 |
| 7.9 東中野 | 4.8 大和町 |
| 8.5 中野 | 4.2 若宮 |
| 7.3 上高田 | 2.8 白鷺 |
| 5.7 新井 | 5.2 鷺宮 |
| 4.9 沼袋 | 4.6 上鷺宮 |
| 2.5 松が丘 | 2.7 無回答 |

1. 地域活動についてうかがいます

(全員の方に)

問1 あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに)

< 回答者数 1,132 >

14.0 町会などの地域活動

11.4 地域まつりやバザーなどの地域の行事

3.7 福祉、環境保全などボランティア、NPO の活動

9.6 趣味、スポーツ、学習などの地域活動

68.7 参加していない

2.5 その他 ()

1.2 無回答

(全員の方に)

問2 あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(は1つ)

< 回答者数 1,132 >

15.2 困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている

7.2 町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう

25.3 たまに世間話する程度

39.4 顔を合わせたときに会釈する程度

12.4 つきあいがほとんどない

0.5 無回答

(全員の方に)

問3 あなたは、地域住民間の見守りや支えあいの活動をどの程度していますか。

(は1つ)

< 回答者数 1,132 >

4.5 日常的にしている 問4へ

12.8 時々している 問4へ

34.3 ほとんどしていない 問5へ

47.5 していない 問5へ

0.9 無回答

地域住民間の見守りや支えあい...高齢者世帯や障害者世帯、子育て世帯などに対する声かけや
困りごとへのちょっとしたお手伝い

(問3で「1」「2」に をつけた方に)

問4 具体的にどのような地域住民間の見守りや支えあいの活動をしていますか。

(あてはまるものすべてに)

< 回答者数 1,132 >

60.7 日常的な声かけ

11.7 ポストに新聞や手紙がたまっていないかの確認

34.2 ちょっとしたお手伝い

5.6 自宅への定期的な訪問

14.3 その他 ()

1.0 無回答

(全員の方に)

問5 身近な相談相手として、民生委員(児童委員も兼ねます)が地域で活動していることをご存じですか。(は1つ) <回答者数 1,132>

34.7 知っている

13.9 だいたい知っている

27.2 言葉は聞いたことがある

23.1 知らなかった

1.1 無回答

2. 医療・健康面についてうかがいます

(全員の方に)

問6 健康増進のためには、1回30分以上の連続した運動を週1~2回以上行うことが効果的といわれていますが、あなたはこのような運動を行っていますか。(は1つ)

<回答者数 1,132>

- 27.7 継続的に運動をしている
- 27.4 時々している
- 15.6 以前はしていたが、現在はしていない
- 28.1 全くしていない
- 1.2 無回答

(全員の方に)

問7 あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(は1つ) <回答者数 1,132>

- 67.0 毎年1回以上健康診断を受けている 問8へ
- 10.8 2~3年おきに健康診断を受けている 問8へ
- 20.4 ここ数年間は健康診断を受けていない 問10へ
- 1.8 無回答

(問7で「1」「2」に つけた方に)

問8 健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに)

<回答者数 881>

- 36.8 職場の健康診断
- 42.2 区が実施する健康診断
- 13.2 健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断
- 1.8 通学先で実施する健康診断
- 10.0 人間ドッグ
- 8.6 その他()
- 0.7 無回答

(問7で「1」「2」に つけた方に)

問9 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに)

<回答者数 881>

- 64.8 前回の結果と比較して健康状態を確かめた
- 25.7 食事や運動などの生活習慣を見直した
- 1.7 特定保健指導を受けた
- 18.4 医療機関に行って医師に相談した
- 0.2 保健福祉センターで病気や栄養について相談した
- 9.3 家族や友人に結果を見せて相談した
- 12.3 気になることがなかったので何もしなかった
- 2.4 気になることがあったが何もしなかった
- 1.2 その他()
- 8.3 無回答

特定保健指導とは、メタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満)の早期発見を目的とした健康診査(特定健診)の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備軍とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のことです。

(問7で「3」に つけた方に)

問10 あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)
<回答者数 231 >

- 33.8 忙しかったから
- 29.0 費用がかかるから
- 25.5 面倒だから
- 18.6 病気で医師にかかっているから
- 21.2 健康なので必要と思わないから
- 10.4 区や健康保険組合などの医療保険者が健康診断を行っていることを知らなかったから
- 4.3 健康診断をあまり信用していないから
- 10.8 悪い結果が出ると不安になるから
- 10.8 その他()
- 1.3 無回答

(全員の方に)

問11 あなたが、新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることはなんですか。
(あてはまるものすべてに)
<回答者数 1,132 >

- 43.6 新型インフルエンザについての情報を収集している
- 9.8 新型インフルエンザの発生に備えて食糧・日用品等を備蓄している
- 48.8 新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている
- 25.0 特に考えたり、心がけていることはない
- 1.6 無回答

新型インフルエンザとは、これまでのインフルエンザとは異なった「人にとって新しい」インフルエンザでおこる感染症で、誰でもがかかったことがなく、免疫をもっていないインフルエンザです。この新型インフルエンザが発生し、世界で大流行することが懸念されています。

(全員の方に)

問12 がん、心臓病、脳卒中、糖尿病など、日頃の生活習慣が密接に関係する病気を「生活習慣病」と呼んでいます。あなたが、生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに)
<回答者数 1,132 >

- 59.3 栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている
- 42.0 毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理
- 38.6 散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている
- 48.1 睡眠・休養を十分にとるようにしている
- 34.7 気分転換・ストレス解消に努めている
- 44.1 たばこを吸わない(喫煙本数を減らす)
- 36.6 お酒を飲み過ぎない(飲まない)
- 9.8 特に何もしていない
- 1.2 無回答

(全員の方に)

問13 あなたは自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を決めていますか。(は1つ)
<回答者数 1,132 >

- 46.6 決めている 問14へ
- 21.8 だいたい決めている 問14へ
- 30.7 決めていない 問15へ
- 1.0 無回答

(問 13 で「1」「2」に をつけた方に)

問 14 かかりつけの診療所(医院・クリニック)との関係については、普段から気軽に相談し、あなたや家族の健康状態を踏まえた適切な治療やアドバイスが受けられる、また、必要ならばふさわしい専門医を紹介してくれるという関係を築いていくことが大切です。
あなたは、かかりつけの診療所(医院・クリニック)との間にそうした関係を築いていますか。(は1つ) <回答者数 774>

- 57.4 関係を築いている
- 16.8 関係は築けていない
- 25.5 どちらともいえない
- 0.4 無回答

(全員のの方に)

問 15 あなたは、救急患者が病状に応じた適切な医療を受けられる環境が、身近な地域に整っていると思いますか。(は1つ) <回答者数 1,132>

- 17.2 整っていると思う
- 46.9 ほぼ整っていると思う
- 33.0 整っているとは思わない
- 2.9 無回答

(全員のの方に)

問 16 あなたは、食品や調理済の料理を購入する時または外食の時に、栄養成分の表示があれば参考にしますか。(は1つ) <回答者数 1,132>

- 66.6 参考にする
- 32.7 参考にしない
- 0.7 無回答

(全員のの方に)

問 17 あなたが、食中毒を防ぐために家庭でいつも行っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに) <回答者数 1,132>

- 79.2 手洗い、まな板などの清潔保持
- 73.5 食材や残り物を冷蔵庫に保管する
- 39.8 調理後はすぐに食べる
- 44.6 生物はよく加熱する
- 73.5 消費期限・賞味期限を確認する
- 5.1 特に何もしていない
- 1.5 その他()
- 0.4 無回答

(全員の方向)

問 18 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたのお考えに近いのはどれですか。

(あてはまるものすべてに)

<回答者数 1,132>

- 7.1 かかりつけ医(内科や外科など)に相談することには抵抗がある
- 9.3 精神科などの専門医療機関に相談(受診)することには抵抗がある
- 11.7 公的な相談窓口を利用することには抵抗がある
- 20.9 地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある
- 14.3 職場や学校が実施する心理相談を利用することには抵抗がある
- 13.2 友人や知り合いに相談することには抵抗がある
- 62.3 相談することには特段の抵抗は感じない
- 4.3 無回答

「うつ病」は適切に対応しないと病気が長引くことも多く、ときには自殺の要因になることもあります。本人や周囲の人が早く症状に気づき、早期に対応することが重要ですが、相談することに抵抗を感じる人が多いとされています。

(国民健康保険に加入している方で、20歳から74歳の方に)

問 19 あなたは、国民健康保険のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか(は1つ)

<回答者数 700>

- 6.6 制度について、よく知っている
- 36.3 だいたい知っている
- 39.6 一部知っているが、わからない内容も多い
- 17.6 ほとんど知らない

3 . 介護保険制度などについてうかがいます

(全員のの方に)

問 20 あなたは、介護保険制度のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか。(は1つ) <回答者数 1,132>

- 3.9 よく知っている
- 15.7 だいたい知っている
- 38.1 一部知っているが、わからない内容も多い
- 41.5 ほとんど知らない
- 0.8 無回答

(全員のの方に)

問 21 介護保険制度をよくするために区がもっとも力を入れるべきことは何ですか。(は1つ) <回答者数 1,132>

- 42.4 特別養護老人ホームなどの施設をつくるなどの基盤整備
- 32.4 困ったときに相談できる窓口の充実
- 12.2 介護サービス提供事業者の質の向上
- 5.9 介護保険給付の不正受給の防止
- 4.9 その他()
- 2.2 無回答

(全員のの方に)

問 22 あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。(は1つ) <回答者数 1,132>

- 8.0 よく知っている
- 31.7 だいたい知っている
- 42.0 わからないことが多い
- 17.6 ほとんど知らない
- 0.6 無回答

(全員のの方に)

問 23 高齢者の介護予防や在宅生活を支える各種相談を行なう地域包括支援センターが区内に8か所設置されています。

あなたは、ご自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターはどこか(名称・所在地など)ご存じですか。(は1つ) <回答者数 1,132>

- 20.8 知っている
- 78.2 知らない
- 1.0 無回答

(40歳以上の方に)

問 24 寝たきりにならない、介護を必要としないよう心身の衰えを予防する「介護予防」という考え方が普及しています。あなたは日頃、介護予防を意識していますか。

(は1つ) <回答者数 800>

- 31.1 とても意識している
- 33.7 たまに意識している
- 20.1 意識したことがない
- 13.1 介護予防という考え方自体知らない
- 2.0 無回答

(全員のの方に)

問 25 あなたのお住まいの地域で犬や猫の飼い主のマナーをどのように感じますか。
(は1つ) <回答者数 1,132 >

- 8.0 よい
- 60.6 おおむねよい
- 21.6 悪い
- 8.0 大変悪い
- 1.8 無回答

(全員のの方に)

問 26 あなたは、地域の交通機関や道路、建物などが、障害者や高齢者、乳幼児親子等にとって外出しやすく、バリアフリーになっていると思いますか。(は1つ)
<回答者数 1,132 >

- 5.4 バリアフリーになっている 問 28 へ
- 59.9 部分的にバリアフリーになっている 問 27 へ
- 30.9 ほとんどバリアフリーになっていない 問 27 へ
- 3.8 無回答

バリアフリー...街頭や住宅の中の段差をなくしたり、階段をスロープにしたりすること。
なお、バリアフリーには、生活に不便な障害を取り除くことだけでなく、福祉のまちづくりを進めるために制度面、差別や偏見などの心の障壁も取り除くことを表す場合もあります。

(問 26 で「2」「3」と回答した方に)

問 27 バリアフリーになっていないと感じるものは何ですか。(あてはまるものすべてに)
<回答者数 1,028 >

- 52.0 交通機関
- 65.3 道路
- 46.6 建物
- 46.7 店舗
- 4.7 その他 ()
- 2.2 無回答

(全員のの方に)

問 28 あなたは、「ユニバーサルデザイン」という言葉と意味についてどの程度ご存じですか。
(は1つ) <回答者数 1,132 >

- 12.5 知っている
- 15.4 だいたい知っている
- 26.1 言葉は聞いたことがある
- 43.7 知らない
- 2.2 無回答

4 . 保健福祉の相談窓口についてうかがいます

(全員の方に)

問 29 あなたは、次の地域の保健福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。((1) ~ (4)それぞれについて は1つずつ)

< 回答者数 1,132 >

(1)保健福祉センター	10.4	身近に感じる	41.0	身近に感じない	42.7	わからない	5.9	無回答
(2)保健所	21.7	身近に感じる	40.5	身近に感じない	32.7	わからない	5.1	無回答
(3)地域包括支援センター	8.6	身近に感じる	41.4	身近に感じない	45.3	わからない	4.7	無回答
(4)社会福祉協議会	2.2	身近に感じる	43.5	身近に感じない	48.1	わからない	6.3	無回答

(全員の方に)

問 30 「成年後見制度」という言葉やしくみについてどの程度ご存じですか。(は1つ)

< 回答者数 1,132 >

- 10.7 知っている
- 19.5 だいたい知っている
- 25.8 言葉は聞いたことがある
- 42.7 知らない
- 1.3 無回答

(全員の方に)

問 31 あなたは、区に犯罪被害者等相談支援窓口が開設されたことをご存じですか。

(は1つ)

< 回答者数 1,132 >

- 9.7 知っている
- 89.6 知らない
- 0.7 無回答

犯罪被害者等相談支援とは？

犯罪等の被害にあった方々が被害から回復し、再び住み慣れた地域社会で平穏な生活を送れるように区は専門相談員を配置した相談窓口を平成 20 年 4 月に開設し、必要な情報提供、助言等を行っています。

2009年度
保健福祉に関する意識調査
報告書

発行日 / 平成 21 (2009) 年 8 月

印刷登録番号 / 21 中保経第 64 号

発行 / 中野区保健福祉部保健福祉企画担当

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電話 03-3228-5609 (直通)

編集分析 / 株式会社 エスピー研

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋 3-11-20 S P ビル

電話 03-3239 - 0071 (代表)